

第三章 街路ノ清潔

- 第二十三條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲナシ塵芥雜草ヲ存スヘカラス
- 第二十四條 炎天風日ニシテ地盤乾燥シタルトキハ時々水ヲ洒クヘシ
- 第二十五條 街路ノ積雪ハ時々掃除若クハ踏均シ爲シ成ルヘク凸凹ナカラシムヘシ
- 第二十六條 前三條ハ兩側居住人其空地空屋ナルトキハ各其所有主之ヲ分擔シ若シ片側居住ナルトキハ總テ居住人ノ負擔トス
- 但橋梁(地方稅負擔ノモノヲ除ク)ハ其町村ノ負擔トス
- 第二十七條 街路ニ下水其他ノ汚水ヲ洒クヘカラス
- 第二十八條 溝渠下水等ヨリ浚ヘ揚ケタル淤泥塵芥等ヲ路上ニ布キ又ハ留置クヘカラス
- 第二十九條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
- 第三十條 街路ニ於テ敷物壘穀類其他ノ塵埃ヲ拂フヘカラス
- 第三十一條 街路ヲ運搬スル物品ハ墮落漏出又ハ散飛セシムヘカラス
- 第三十二條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ襪襪其他見苦敷若クハ危險ナル物品ヲ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

- 第二十三條 牛馬及諸車ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス
- 第二十四條 車ハ小兒車ヲ除クノ外跡押ノミニテ運轉スヘカラス

- 第三十五條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ
- 第三十六條 汚穢物ハ克ク包藏シ汚臭ヲ發スヘキ物品ハ臭氣ノ漏洩セサル様蓋ヲ爲シ又ハ封鎖スヘシ

第三十七條 牛馬諸車ハ街路ノ中央ヲ通行スヘシ

第三十八條 牛馬諸車ヲ並ヘ轆キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十九條 車二輛以上ヲ連繫シテ轆クヘカラス

但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結シ並空車ヲ連繫スルハ此限リニアラス

第四十條 牛馬四頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス

但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬ハ此限リニアラス

第四十一條 車馬及歩行者行途フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

第四十二條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第四十三條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

第四十四條 郵便用消防用ニ供スル車馬及灌水車又ハ葬送等ニ行途フトキハ避讓スヘシ

第四十五條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ

第四十六條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第四十七條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横フヘカラス

第四十八條 制止ヲ背ンセスヲ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス
第四十九條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ牛馬諸車及雪舟ヲ駐止スヘカラス

第五十條 街路ニ佇立シ又ハ空車空雪舟ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第五十一條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシムヘカラス

第五十二條 街路ニ於テ看護人ナク三年未滿ノ小兒ヲ遊歩セシメ又ハ遊戯ヲ爲サシムヘカラス

第五十三條 街路ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ獨樂手毬等ヲ弄シ又ハ雪滑リヲ爲シ其他遊戯ヲ爲シ

通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第五十四條 街路ニ於テ演藝其他人寄ヲ爲スヘカラス

第五章 罰則

第五十五條 第六條第七條第十二條第十三條第十七條第二十條第三十三條第三十八條第四十八條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス第四條第五條ニ違背シ制止ヲ背セサル者亦同シ

第五十六條 第十四條第十五條第十六條第十八條第二十二條第二十七條第二十八條第二十九條第三十六條第三十九條第四十條第四十七條第五十四條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス第三十七條第四十一條乃至第四十六條ニ違背シ衝突シタル者及第十九條第三十一條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第四十

九條第五十條第五十二條第五十三條ニ違背シ制止ヲ背セサル者並第八條第九條第十條第十一條第二十三條第二十四條第二十五條ニ違背シ督促ニ從ハサル者亦同シ

第五十七條 本則中刑法ニ正條アルモノハ各其本條ニ從フ

● 第二款

興行場取締規則

明治十五年十一月

乙第九拾七號

明治十三年乙第二百六號ヲ以テ布達シ置タル興行場取締規則別紙之通改正候條此旨布達候事

興行場取締規則

第一條 左ノ興行ヲ爲シ觀料ヲ收ムル者ハ此規則ヲ遵守スヘシ

角觥 寄席 手踊 諸觀物 劇場

第二條 興行ヲ爲サントスル者ハ其前日迄ニ演劇ハ標 題ヲ添ヘ 所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受クヘシ(十七年六月乙第 六十一號更正)

但其所作世安ニ妨害アリト認ムル者ハ何時タリモ警察官吏之ヲ停止スルヲアルヘシ

第三條 興行場ニ關スル一切ノ事ハ座主其責ニ任スヘシ

第四條 觀客ノ安全ヲ保護スル爲メ棧敷ノ構造等ヲ堅牢ニスヘシ

第五條 晝興行時間ハ日出ヨリ日没迄トシ夜興行時間ハ日没ヨリ午後第十二時ヲ限リトス

第六條 厠ハ勿論總天場中ヲ清潔ニスヘシ

第七條 烈風ノ節ハ勿論平常ト雖も火ノ元厚ク注意スヘシ

警察

11211

十七年六月
乙未年六月
十一月十六日
以第十號
五條第十
六條削除

第八條 鑑札ヲ所持セサル藝人ニ出席セシムヘカラス

第九條 觀客ヲシテ藝人休憩所ニ入ラシムヘカラス

第十條 興行場ニ於テ種々ノ名義ヲ以テ觀客ニ出錢ヲ促カスヘカラス

第十一條 總テ猥褻ニ涉ル講談所作等ヲナスヘカラス

第十二條 劇場定座ハ前數條ノ外左ノ條々ヲ遵守スヘシ

第十三條 新タニ劇場定座ヲ設ケントスル者ハ近隣ノ承諾ヲ得郡役所ノ許可ヲ受ケ所轄

警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

但廢場又ハ改氏名等ノ節ハ本條ニ準シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

第十四條 定座ハ空氣ノ流通善キ様適宜ニ窓牖ヲ設クヘシ

第十七條 此規則ニ背キタル者ハ違警罪ヲ以テ處分セラルヘシ

○第一節 縣鄉村社境内ニ於テ木戸錢ナキ手踊角力等施行届方

縣鄉村社例祭及臨時祭等神事ニ際シ該境内等ニ於テ一時賑ハヒノ爲或ハ舊例ニ依リ假ニ

舞臺ヲ設ケ木戸錢無之手踊亦ハ角力等致來候處向後右施行ノ節ハ該町村差配人ヨリ所轄

警察分署ヘ可届出此旨布達候事

但無届ニシテ右等ノ所業一切不相成事

○第三款 溫泉場取締規則

明治十五年十一月 乙第九十八號

- 第一條 溫泉場ハ專ラ病客ノ保養スル所ナレハ總テ清潔ヲ旨トスルモノトス
- 第二條 座席ヲ清潔ニシ及ヒ空氣ノ流通ヲ便ニス可シ
- 第三條 持主ハ時々浴場及ヒ其流末ヲ灑掃シ或ハ湯壺ヲ汲換ヘ不潔ナカラシムヘシ
- 第四條 宿泊料座料等ハ各室毎ニ揭示スヘシ
- 第五條 浴湯ニ於テ衣類器物其他ノ汚穢物ヲ洗滌スヘカラス
- 第六條 總テ浴客ハ懇切ニ取扱ヒ浪費ヲ促ス可カラス
- 第七條 第五條ノ規則ニ背キタル者ハ違警罪ヲ以テ處分セラルヘシ

(四号更正)

○第一節 溫泉場浴室構造出願方

溫泉場共用ノ浴室ヲ構造シ及同場各家部局ノ浴室ヲ構造スルモノト雖從來ノ有形ニ從

フト否トナ問ハス總テ其構造ノ繪圖面添可爲願出此旨相達候事

但鑛泉發見ノ場所ニ於テ新タニ浴室ヲ構造スルモノモ亦本文ニ準スヘシ

○第二節 溫泉場浴室構造檢査法

本年一月丁第一號ヲ以テ溫泉場浴室構造之儀ハ繪圖面相添可願出旨達置候ニ付今般左之通

檢査法相定候條此旨相達候事

溫泉場浴室構造檢査法

第一 溫泉浴室ハ蒸氣ノ鬱塞ナカラシメンカ爲メ高窓或ハ出格子等ヲ設ケ開闔ニ便ナラ

警察

二六二

第二 浴室ノ圍繞ハ必ス溝渠巾一尺以上ヲ設ケ流下セシメ汚水不潔物ノ滯滞ナカシムヘシ

第三 構造向ハ外方ノ通看ヲ防キ浴客ノ裸躰ヲ蔽遮セシムルヲ要ス

●第四款 氷雪販賣取締規則 明治二十年四月 縣令第四十七號

氷雪販賣取締規則左ノ通相定ム

但明治十三年月十二 乙第二百十五號布達ハ廢止ス

氷雪販賣取締規則

第一條 販賣ヲ目的トシテ氷雪ヲ製造若クハ貯藏セントスルモノハ第一號書式ニ據リ其

場所ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ其他戶長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ニ願出免許ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ免許ヲ得タル場所ニ於テ製造若クハ貯藏シタル氷雪ハ其販賣前第二號書式ニ據リ檢査ヲ受クヘシ

但精良ノモノニハ檢査證ヲ付與シ不良品ハ棄却セシム

第三條 卸賣小賣又ハ行商ヲ爲サントスル者ハ第三號書式ニ據リ其他戶長ノ與印ヲ受ケ

所轄警察署ニ願出免許ヲ受クヘシ

第四條 卸賣小賣者ハ第四號書式ノ看板ヲ掲クヘシ

第五條 行商者ハ所轄警察署ヨリ鑑札ヲ受ケ行商中常ニ携帯スヘシ

第六條 製造場並ニ貯藏場ハ常ニ清潔ヲ要ス若シ不潔ニシテ有害ノ虞アルキハ修理又ハ

場所替ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 氷雪ハ時々檢査ヲ爲シ不潔又ハ有害ト認ムルトキハ其販賣ヲ差止メ現品ヲ棄却セシムルコトアルヘシ

第八條 氷雪製造貯藏及販賣免許ノ期限ハ每年十一月一日ヨリ翌年十月三十一日迄トス

第九條 此規則第一條第二條第三條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又

ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス其第四條第五條ニ違背シタル者ハ五錢以

上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

(書式略之)

●第五款 畜犬取締規則 明治十五年十一月 乙第九十六號

明治十二年乙第二百拾四號ヲ以テ布達シ置キタル畜犬取締規則別紙之通改正候條此旨布

達候事

畜犬取締規則

第一條 畜犬スルモノハ左ノ規則ヲ遵守スヘシ

第二條 畜犬ハ必ス頸輪ヲ入レ其主住所氏名ヲ詳記シタル札ヲ附置クヘシ

但其札ナキ犬ハ畜主ナキモノト看做シ撲殺セシムヘシ

第三條 畜犬狂病ニ罹ルルキハ畜主又ハ巡查ニ於テ直ニ撲殺スヘシ

第四條 畜犬猛烈ニシテ家畜鳥ヲ害スルノ恐アルトキハ鐵鎖ヲ以テ之ヲ繋キ其害ヲ豫防

スヘシ

第五條 此規則ニ背キタル者ハ違警罪ヲ以テ糺治セラルヘシ

警察

第六款 屠場開設規則

明治十七年五月
乙第四十四號

- 第一條 此規則ハ公衆ノ健康ヲ保護スル爲メ設クルモノトス
- 第二條 屠場ハ一市街或ハ數町村聯合シ一ヶ所ヲ設クヘシ
但實際差支アルキハ一町村ニ於テモ許可スルコトアルヘシ
- 第三條 左之場所ニ於テ屠場ヲ開設スルヲ許サス
 - 一 人家ニ接近ノ場所
 - 一 飲料水ニ接近ノ場所
 - 一 市街村落ニ通スル河水ノ上流ニ接近ノ場所
- 第四條 屠殺所ハ板或ハ其他ノモノヲ以テ適宜之ヲ圍フヘシ
- 第五條 賣肉營業者(受賣者)ニ非サレハ屠場ヲ開設スルヲ得ス
但屠場ハ同業者共用スヘシ
- 第六條 屠場ヲ開設セントスルキハ第三條ノ項目ニ抵觸セサル地所ヲ撰定シ賣肉營業者(受賣者)連署シ別紙書式ニ據リ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ出願スヘシ
- 第七條 屠場ヘハ屠場ト大書シタル標杭ヲ建設シ相當ノ取締及掃除方法等ヲ設クヘシ
- 第八條 屠場開設ノ上ハ速ニ其所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ
- 第九條 此規則ニ違背シタル者ハ違背罪ヲ以テ處分セラルヘシ
(書式畧之)

○第一節 屠場開設出願者アルトキ取計方
明治十七年五月
丙第四百四十四號 郡役所

屠場開設規則第六條ニ依テ該營業者ヨリ屠場開設出願シタルキハ所轄警察署ヘ協議ヲ遂
其實地ヲ検査セシメ其旨申出候儀ト心得ヘシ此旨相違候事

第七款 船燈取締規則

明治二十年二月
縣令第二十八號

- 船燈取締規則左ノ通相定ム
- 但明治十八年(六月)乙第五十五號全年(八月)乙第八十號布達ハ廢止ス
- 船燈取締規則
- 第一條 船燈(信號器)ハ縣廳ノ縣印ヲ受ケタルモノニアラサレハ販賣スヘカラス(廿年
縣令第四十二號
三月)
- 但他管轄廳ノ檢印アルモノハ此限リニアラス
- 第二條 船燈製造方法ニ抵觸シタル修繕ヲナスヘカラス(同上)
- 第三條 製造人販賣人ハ其製造及ヒ販賣シタル種類番号賣渡人名ヲ詳記シ三ヶ月毎ニ所
轄監査員ヘ届出ツヘシ
- 第四條 毎年二回(四月十月)碇泊ノ船舶ニ就キ船燈信號器並ニ其裝用法ヲ監査シ又ハ臨
時製造販賣所及船舶ニ就キ監査スルコトアルヘシ
但西洋形船舶検査規則ニ據リ検査スヘキ船舶及ヒ甲板ナキ漁舟小船ハ此限リニアラ
ス
- 第五條 船舶ニ就キ監査ヲ爲シ合格ト認ムルモノハ監査證ヲ付與ス(廿年四月縣令第
四十二號改正)

第五十六章

驅黴院 檢黴 貸座敷 娼妓 賦金 賣淫 賭博

警察

●第一款 驅黷院檢黷所區畫 明治十七年二月
 驅黷院及ヒ檢黷所區畫別表ノ通相定候條此旨布達候事
 但本年七月迄ハ驅黷院設置スヘキ場所ニシテ其未メ設置セサル箇所へ適宜檢黷所設
 シヘシ

驅黷院及檢黷所區畫表

溫海	鶴岡驅黷院	山形			驅黷院
溫海驅黷院	大山	鶴岡驅黷院	天童	上山	山形驅黷院
全	全	全	東村山郡	南村山郡	東南村山郡
西田川郡	西田川郡	西田川郡	北目森村	上ノ山市街	長形市街
溫海湯村	湯ノ茂村	加茂村	大田川湯市街	鶴岡湯市街	老ノ森村

谷地		楯岡		小出				米澤		酒田	
塞河江	谷地驅黷院	尾花澤	楯岡驅黷院	馬場	手ノ子	小出驅黷院	小松	赤湯	米澤驅黷院	松嶺	酒田驅黷院
全	全	全	北村山郡	全	全	西置賜郡	東置賜郡	全	東置賜郡	南置賜郡	飽海郡
左塞河江村	塞河江村	大尾石田村	楯岡村	石那田村	馬場村	手ノ子村	小出村	宮内村	高島村	赤湯市街	米澤市街
	谷地	尾花澤村	楯岡村	石那田村	馬場村	手ノ子村	小出村	宮内村	高島村	赤湯市街	米澤市街

●第二款 驅徽院取締規則 明治十七年二月 乙第十一號

驅徽院取締規則別紙之通相定メ本年七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

驅徽院取締規則

- 第一條 驅徽院ハ娼妓ノ徽毒ニ罹リタル者ヲ治療スル所トス
- 但驅徽院ノ區畫ハ本年本縣乙第九號達ニ隨フ
- 第二條 院內ニハ醫員及事務係看護婦ヲ置クモノトス
- 第三條 院內ノ事務ニ付テハ驅徽院所在地ノ警察署又ハ分署ノ指揮ヲ受ク可シ
- 第四條 經費ハ貸座敷取締ノ認可ヲ得テ支出ス可シ
- 第五條 藥價ノ半額及ヒ醫員ノ給料ハ官費ヲ以テ支給ス(十八年五月乙第四十一號三字挿入)
- 但毎月驅徽院所在地ノ警察署又ハ分署ヨリ仕拂フモノトス
- 第六條 入院中食料并ニ夜具日用品等ハ総テ自辨タル可シ
- 第七條 娼妓ノ名簿ハ所轄警察署又ハ分署ヨリ受取り豫テ備ヘ置ク可シ
- 但新ニ娼妓トナル者及ヒ廢業失踪死亡等ハ其時々警察署又ハ分署ノ報告ニヨリ加除スヘシ
- 第八條 院內ニ勤怠簿ヲ備ヘ置キ毎月驅徽院所在地ノ警察署又ハ分署ノ檢査ヲ受ク可シ
- 第九條 親族ト雖モ猥リニ入院患者ニ面會スルヲ許サス

但醫員又ハ事務係ニ於テ要用アル者ト認タルハ面會セシムルヲ得

第十條 退院者アルハ所轄警察署又ハ分署ヘ申報ス可シ

第十一條 臨時檢査ノ節有毒ノ者アルトキハ驅徽院所在地ノ警察署又ハ分署ヘ申報ス可シ

第十二條 醫員ハ左ノ各項ニ從事スヘシ

- 一 毎日入院患者ヲ診察スル
- 二 檢査所ニ派出シテ徽毒ヲ檢査スル
- 三 時々病室ヲ巡視シ患者ノ攝生及ヒ院中取締等ニ注意スル
- 四 帳簿ヲ製シ置キ患者ノ病症經過及ヒ處方ヲ登記スル
- 五 患者月表ヲ製シ毎月驅徽院所在地ノ警察署又ハ分署ヘ差出ス
- 六 事務係及ヒ看護婦ヲ指揮監督スル
- 七 退院者ニ全治證明書ヲ與フル
- 第十三條 事務係ハ左ノ各項ニ從事ス可シ
- 一 醫員ノ指揮ヲ受ケ院內ノ雜務ヲ調理スル
- 二 院內ノ經費ヲ收支スル
- 三 看護婦ヲ指揮監督スル
- 四 院內一切ノ帳簿ヲ整理スル

警察

五患者ニ面會チ乞フ者アルトキハ立會チ爲スコト

第十四條 看護婦ハ左ノ各項ニ從フヘシ

一藥用攝生ヲ惰リ或ハ不行狀ノ者アルトキハ懇ニ説諭シ若シ聞入レサルトキハ醫員又ハ事務係ニ申出ル

二診察ノ時ハ患者ニ附添フ

三病室ヲ掃除スル

第十五條 入院患者ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一入院中外出ハ勿論他ノ病室ニ入ルヘカラス

但父母ノ看護等ハ驅黴院所在地ノ警察署又ハ分署ノ許可ヲ受クヘシ

二醫員ノ許可セサル飲食物ハ一切用ユヘカラス

三身体衣服ハ勉メテ清潔ニス可シ

四入院中自費ヲ以テ別ニ看護婦ヲ雇フキハ醫員ノ許可ヲ受クヘシ

五全治証明書ヲ得テ退院シタルトキハ直ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出可シ

第三款 檢取締規則 明治十七年二月

乙第十號

檢取締規則別紙之通相定メ候條此旨布達候事

但驅黴院設置無之間ハ有毒ノ娼妓從前之通居宅ニ於テ治療スルヲ許ス

檢取締規則

第一條 此規則ハ娼妓ノ黴毒ヲ檢査シ病毒ノ傳染ヲ豫防スル爲メニ設クルモノトス

但檢取締所ノ區畫ハ本年本縣乙第九號達ニ從フ

第二條 檢取締ハ醫員ヲシテ檢査セシメ警察官吏之レヲ監督ス

第三條 檢査室ヘハ醫員看護婦ノ外入ルヲ許サス

第四條 檢取締ニ係ル雜務ハ貸座敷取締之レヲ管理ス

第五條 檢取締日ハ毎月五日十五日二十五日トス若シ正當ノ事故アリ當日ノ檢査ヲ受クル能ハサル者ハ十日二十日三十日ニ換フ

但出頭時限ハ五月ヨリ九月ニ至ル午前第八時十月ヨリ翌年四月ニ至ル午前第九時トス其檢取締所チ距ル一里以上ノ地ニ在ル者ハ一里毎ニ一時間ノ猶豫ヲ與フ

第六條 娼妓檢査ノ爲メ檢取締所ヘ出頭スルトキハ鑑札並ニ檢査證ヲ携帯ス可シ

但黴毒檢査證ハ所轄警察署又ハ分署ヨリ貸座敷取締ヲ經テ各娼妓ニ下付ス

第七條 檢査ノ當日娼妓疾病ニ因リ出頭スル能ハサルトキハ貸座敷取締連印ノ上醫師ノ診斷書ヲ添ヘ出頭時限前檢取締所ヘ届出可シ

但本條ノ場合ニ於テハ警察官吏立會ノ上檢査醫員其家ニ就テ檢査ス

第八條 黴毒感染ノ萌アルモノハ檢取締日ヲ待タズ直チニ驅黴院中ニ設置アル檢取締所ニ出頭シ臨時檢査ヲ受ク可シ

第九條 貸座敷取締ハ檢査済ノ上檢査證ニ黴毒有無ノ印ヲ押シ娼妓ニ下付ス

但檢査簿ヲ製シ置娼妓ノ寄留所氏名ヲ記載シ其氏名ノ頭ニ本條ノ如ク押印ス

警察

第十條 娼妓ハ檢査証ヲ得テ警察官吏ニ指出スヘシ

第十一條 娼妓有毒ノモノハ警察官吏直チニ其鑑札ヲ引揚ケ入院セシム

第十二條 貸座敷取締ハ檢査當日娼妓毒ノ有無及ヒ出席欠席ノ人員ヲ調査シ檢査所
在地ノ衛生委員ニ届出可シ

第十三條 娼妓此規則ニ違背シタルキハ五圓以内ノ過料ニ處ス

第十四條 貸座敷營業者娼妓ト謀リ此規則ニ違背セシメタルキハ五圓以内ノ過料ニ處ス
第十五條 十五日以内ニ過料ヲ完納セサル者ハ金壹圓ヲ一日ニ折算シテ苦使ニ換フ其壹
圓ニ滞ラサルモノモ仍ホ一日ニ計算ス

(檢査証離形略之)

○第一節 檢査事務取扱心得

明治十七年二月

郡役所

丙第四十三號

戸長役場

明治十三年八月本縣丙第二百一十一號達娼妓毒檢査規則相廢候條該事務ニ關スル取扱方
左ノ通心得ヘシ此旨相達候事

娼妓檢査ニ關スル事務取扱心得

一 郡役所ニ於テハ醫員及衛生委員ヨリ出ス所ノ諸表ヲ集覽シ十六年本縣丙第百十五號達
衛生諸表丙第四號ノ上下兩表ヲ製スルモノトス

一 醫員ハ檢査終ルノ後有毒無毒ノ調書ヲ檢査所々在地ノ衛生委員ヘ交付スヘシ

一 醫員ハ別紙第一號表式ニ據リ半年毎ニ檢査所患者表ヲ製シ郡役所ヘ差出スヘシ

一 檢査所々在地ノ衛生委員ハ檢査所ニ出頭シ當日出席欠席ノ娼妓員數及毒ノ有無多寡

等ヲ調査スヘシ

一 檢査所々在地ノ衛生委員ハ別紙第二號表式ニ據リ統計表ヲ製シ半年毎ニ郡役所ヘ差出
スヘシ

(表式略之)

表式解義

一 此表式ハ半年表ノ式ナリ

一 娼妓一日ノ平均數ハ半年間娼妓日々ノ現在數ヲ積算シ半年間ノ日數ニ割リ其ノ得ル所
ノ數ヲ掲ク

一 檢査總數ハ半年間檢査シタル人員ノ總計ヲ掲載スルモノニシテ例之ハ一人ノ娼妓ヲ一
ケ月四回檢査スルキハ之ヲ四人ト見做ス

一 一ケ月檢査平均日數ハ半年間檢査ノ日數ヲ其間ノ月數ニ割リ一ケ月ノ平均數ヲ掲ク

一 檢査醫員ハ其半年末日ノ現在數ヲ掲ク

一 支消金額ハ檢査醫員ノ俸給及其檢査ニ關スル百般ノ費用ヲ合計シテ之ヲ載ス

第四款

貸座敷場所ノ制限

明治十七年三月

乙第十八號

從來貸座敷ノ儀ハ場所ノ制限ヲ定メス差許シ來候處自今左ノ場所ニ限リ許可候條此旨布
達候事

山形市街

小姓町貸座敷區域地内

酒田市街

今町 舟場町 新町 上臺町(十七年七月乙第
七十四號挿入)

警察

鶴岡市街 七日町 八間町
 西田川郡加茂村字綠町 (十七年十月乙) 第百八號挿入
 南置賜郡福田村字北裏 (十八年五月乙第) 三十五號挿入
 但現營業者ニシテ區域外ニ係ル者ハ本年七月ヨリ以後滿五ヶ年間ハ現在宅地ニ於テ營業スルヲ許サス (十八年六月乙) 第五十號改正

南村山郡 上ノ山十日町 四十四番地ヨリ 百十二番地迄

東村山郡 天童町 東側七十四番地ヨリ百二番地迄 西側百六十八番地ヨリ二百五番地迄

長崎村 五十番地ヨリ 六十一番地迄

西村山郡 谷地大町村 二百廿一番地ヨリ 二百四十八番地迄

左澤村 南側二百八十五番地ヨリ三百四十一番地迄 北側二百七十九番地ヨリ三百四十三番地迄

寒河江村 東側四百十五番地ヨリ四百三十五番地迄 西側四百番地ヨリ七百九十二番地迄

北村山郡 楯岡村 東側二百十八番地ヨリ二百三十八番地迄 西側九十八番地ヨリ百二十四番地迄

尾花澤村 最上郡 新庄十日町村字萬場町 東側百三十七番地ヨリ百七十五番地迄 西側八十五番地ヨリ百二十二番地迄

田川湯村 三番地ヨリ 三十番地迄

大山村字浦町 一番地ヨリ 四十五番地迄

湯野濱村 一番地ヨリ 三十八番地迄

湯温海村 五十三番地ヨリ 五十八番地迄

飽海郡 松嶺町字新町 東側三百四十九番地ヨリ三百五十五番地迄 西側二百六十九番地ヨリ二百七十四番地迄

赤湯村字守道 長六〇間 (十九年六月甲) 第六十間 (第十六號更正)

小松村 高畑村字中河原 市二十間 (第十六號更正)

西置賜郡

警察

小出村 三百三十三番地ヨリ
 三百七十一番地迄
 馬場村 四十番地ヨリ
 九十八番地迄
 宮内村宇宮町 二番地ヨリ
 三十二番地迄
 手ノ子村 八十二番地ヨリ
 八十七番地迄

第五款

貸座敷取締規則 明治十六年一月

乙第四號

貸座敷取締規則別紙ノ通改正來ル三月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

貸座敷取締規則

第一條 貸座敷營業者ハ適宜組合ヲ設ケ毎組取締一名副取締一名ヲ置キ所轄警察署又ハ分署ヘ届出テ認可ヲ受ク可シ

第二條 貸座敷ノ業ヲ營マントスル者ハ第一號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ

但新規ノ場所ニ係ルモノハ其旨願書ニ記載シ場所略圖ヲ添ヘ郡役所ヲ經由スヘシ

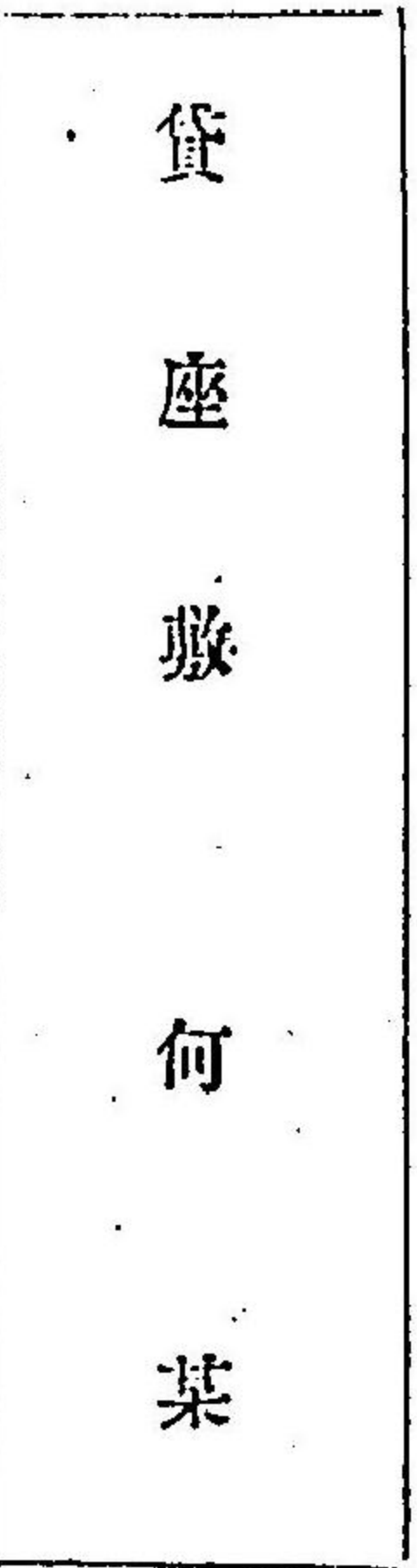
第三條 鑑札ヲ失ヒ若クハ毀損シタルトキハ第二號書式ニ據リ更ニ鑑札ヲ請クヘシ

第四條 惡疫流行又ハ忌中疾病等ノ爲メ一時休業スルトキハ第三號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ヘ届出テ鑑札ヲ返納シ其業ヲ營ムトキハ第四號書式ニ據リ該鑑札ノ下戻シヲ請クヘシ

第五條 廢業スル者ハ第五號書式ニ據リ鑑札ヲ返納スヘシ

第六條 貸座敷營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ戶外ニ掲ケ夜間ハ點燈ニ換フヘシ
 但休業中ハ看板ヲ掲クヘカラス

雛形



竪三尺五寸 横九寸

第七條 遊客ノ籍籍住所氏名年齢等ヲ客帳ニ詳記シ警察官吏ノ調査ニ供スヘシ

第八條 華士族ハ貸座敷營業ヲ爲ストテ許サス

第九條 娼妓ニアラサル女子ニ座敷ヲ貸シ娼妓ニ紛ハシキ所業ヲ爲サシムヘカラス
 但娼妓ト雖モ鑑札ヲ携帶セサルトキハ本條ニ準ス

第十條 貸座敷營業者ハ刑法第百十四條ニ定ムル親屬ニ係ル娼妓ニ座敷ヲ貸シ又ハ自宅ニ於テ營業ヲ爲サシムヘカラス

第十一條 休業ノ爲メ鑑札ヲ返納シ其下戻ヲ請ケスシテ營業スヘカラス

第十二條 娼妓ニ對シ無益ノ出費ヲ促シ又ハ故ナク廢業移轉等ヲ妨クヘカラス

第十三條 娼妓ニ於テ契約又ハ規則ニ違背スルトアルモ私ニ苛酷ノ取扱ヲ爲スヘカラス

第十四條 娼妓ヲシテ犯則ノ所業ヲ爲サシメ又ハ其規則ニ背クヲ知テ之ヲ隱蔽スヘカラ

警察

ス

第十五條 自宅及ヒ他ニ寄留スル藝妓ヲ宿泊セシムヘカラス(十七年九月乙第三十三號本條增加)

第十六條 此規則ニ違背シタル者ハ三拾圓以内ノ過料ニ處ス

但十五日以内過料ヲ完納セサル者ハ金壹圓ヲ一日ニ折算シテ苦使ニ換フ

第十七條 此規則ニ違背シ情狀重キモノハ處分ノ上營業ヲ停止又ハ禁止スルヲアルヘシ

(十七年四月乙第三十號本條追加)

(別紙書式等之)

○第一節 貸座敷營業者心得

明治十六年一月 丙第八號

郡役所

昨十五年丙第六十二號ヲ以テ相違置候貸座敷營業者心得別紙之通改正候條營業者ヘ告示スヘシ

貸座敷營業者心得

第一條 遊客ノ二十四時間以上流連スルカ或ハ舉動不審ナル者ト認ムルカ又ハ娼妓ノ密告ヲ受ケタルキハ逃走セサル様注意シ置キ速ニ警察官吏ニ密告スヘシ

第二條 娼妓ヲシテ其規則ヲ了解セシムル様懇篤告示スヘシ

第三條 娼妓ヲシテ病毒豫防ノ爲メ房室及衾褥ヲ清潔ニシ且屢々入浴セシムル様注意スヘシ

第四條 娼妓ヲシテ本業ノ餘暇ニハ裁縫筆算等ヲ學ハシムル様注意スヘシ

第五條 娼妓妊娠或ハ月經閉止又ハ疾病ニ罹リタルキハ速ニ醫員ノ診察ヲ受ケシムル様

注意スヘシ

第六條 娼妓妊娠滿六ヶ月以上又ハ傳染病及微毒ニ罹リタルキハ休業セシムル様注意スヘシ

○第二節

他府縣ニ於テ貸座敷藝妓營業ヲナサントスルモノ添翰携帶ノ件

明治十六年八月 乙第五十八號

本縣下ノ者ニシテ他府縣下ニ於テ貸座敷及ヒ藝妓營業ヲ爲サント欲スルモノハ自今郡役所ノ添翰ヲ受ケ携帶可致此旨布達候事(十七年二月乙第十三號ヲ以テ一字挿入)

○第三節

他府縣下ニ於テ貸座敷藝妓營業ヲナサントスルモノヘ添翰附與方

明治十八年三月 郡役所 丙第六十八號

本縣下ノ者ニシテ他府縣下ニ於テ貸座敷及ヒ娼妓營業ヲ爲サント欲スル者郡衙ノ添翰ヲ受ケ携帶可致旨明治十六年八月乙第五十八號ヲ以テ布達置候處貸座敷及娼妓ノ新規營業ハ許サ、ル府縣モ有之候ニ付添翰出願候者有之キハ從前營業セシトノ有無審査添翰中ニ詳記ノ上附與可致此旨相違候事

○第六款

士族貸座敷并藝妓營業相成ヲス

明治十年三月 丙第八十二號

士族貸座敷并藝妓營業ノ儀是迄差許シ來候得共以來ハ允許難相成候條此旨士族ニ無泄可申達候事

但是迄差許シ置候分ト雖モ悉皆差止該人名取調可差出候事

○第七款

貸座敷及旅人宿兼業相成ヲス

明治十七年三月 乙第二十三號

警察

一八一

一八〇

從來貸座敷及ヒ旅人宿ヲ兼業スルヲ許シ置候處來ル五月一日ヨリ右兼業不相成候條此旨
布達候事

第八款 娼妓取締規則 明治十六年一月
乙第五号

娼妓取締規則別紙ノ通改正來ル三月一日ヨリ施行候條此旨布達候事
但從前營業ノ者ハ第九條第一項ノ限ニアラサル儀ト心得ヘシ

娼妓取締規則

- 第一條 娼妓ハ貸座敷組合ノ區域ニ從ヒ其取締ニ屬スルモノトス
- 第二條 娼妓稼キテ爲サントスルモノハ第一號書式ニ據リ 父アレハ父父ナケレハ母ノ允
姉妹伯叔父母ノ内二名以上ノ承認書 所轄警察署又ハ分署ヘ本人自ラ願出鑑札ヲ受クヘ
養女ナレハ養父母ノ允許狀ヲモ添ヘ
- 第三條 鑑札ハ常ニ携帯スヘシ
- 第四條 營業地ヲ移轉セントスルトキハ第二號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ノ添書ヲ請
ケ第三號書式ニ準シ移轉スル地ノ所轄警察署又ハ分署ヘ願出鑑札書替ヲ受クヘシ
- 第五條 鑑札ヲ失ヒ若クハ毀損シタルキハ第四號書式ニ據リ更ニ鑑札ヲ請クヘシ
- 第六條 妊娠又ハ疾病等ノ爲メ一時休業スル時ハ第五號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署
ヘ願出鑑札ヲ返納シ分娩及疾病全快ノ後其業ヲ營ム時ハ第六號書式ニ據リ鑑札ノ下戻
ヲ請クヘシ
- 第七條 惡疫流行或ハ父母病氣看護若クハ忌中等ニテ休業スルキモ亦前條ノ手續ニ準ス

十六年四月
乙第二號
ヲ第一項
ノ但書削
除

十七年九月
乙第八號
ヲ第三號
以テ第三號
書式中割
註削除

ヘシ

- 第八條 廢業スル者ハ第七號書式ニ據リ鑑札ヲ返納スヘシ
- 第九條 左ニ掲クル者ハ娼妓營業ヲ爲スニテ許サス
一 十六年未滿ノ者
二 華士族ノ女
三 自宅又ハ貸座敷外ニ寄留スル者 (十六年四月乙第廿二號ヲ以テ第三項刪除全)
四 (十六年四月乙第廿二號ヲ以テ刪除十七年九月乙第八十七號ヲ以テ本項挿入)
五 妊娠滿六ヶ月以上及分娩後百日ヲ經過セサル者
第十條 貸座敷ニ非サル場所ニ於テ營業スヘカラス
第十一條 (客ノ誘引ニ應シ又ハ自ラ誘引シテ) 貸座敷外ニ宿泊スヘカラス (十七年十月
乙第九十八
號ヲ以テ十五字ヲ
削リ但書ヲ加フ)
- 第十二條 但事故アリ他ヘ宿泊スルキハ所轄署ノ許可ヲ請クヘシ
- 第十三條 貸座敷ト雖モ刑法第百十四條ニ定ムル親屬ノ家ニ於テハ前二條ニ準ス
- 第十四條 休業ノ爲メ鑑札ヲ返納シ其鑑札ノ下戻ヲ請ケスシテ營業スルヲ許サス
- 第十五條 徵毒ニ罹リタルキハ客ニ接スヘカラス (十六年乙第十八
號ヲ以テ追加)
- 但十五日以内過料ヲ完納セサルトキハ金壹圓ヲ一日ニ折算シテ苦使ニ換フ
(書式略之)

警察

○第一節 娼妓心得
明治十六年一月 郡役所
丙第九號
昨十五年丙第六十三號ヲ以テ相達置候娼妓心得別紙之通改定候條營業者へ告示スヘシ此旨相達候事

娼妓心得

- 第一條 免許鑑札儼毒検査證及ヒ寄留主ノ契約書等ハ紛失セサル様注意スヘシ
 - 第二條 規則ヲ了解シ得サル時ハ寄留主ニ教示ヲ乞フヘシ
 - 第三條 病毒豫防ノ爲メ屢々入浴シ身軀ヲ清潔ニスヘシ
 - 第四條 妊娠或ハ月經閉止又ハ疾病ニ罹リタル時ハ速ニ寄留主ニ告ケ醫員ノ診察ヲ受クヘシ
 - 第五條 月經中ハ營業ヲ爲スヘカラス
 - 第六條 貸座敷主ニ於テ苛酷ノ所爲アルトキハ直チニ警察官吏ニ届出ツヘシ
 - 第七條 客ノ二十四時以上流連スルカ或ハ其舉動不審ナル者ト認ムルトキハ速ニ貸座敷主ニ密告スヘシ
 - 第八條 廢業又ハ移轉ヲ妨クル者アルトキハ警察官吏ニ届出ツヘシ
 - 第九條 本業ノ餘暇ニハ裁縫筆算等ヲ學ブトニ心懸クヘシ
- 第九款 賦金徴收規則 明治十九年三月 乙第二十五號
明治十八年五月 本縣乙第四十號布達賦金徴收規則左之通改正四月一日ヨリ施行ス
右布達候事

賦金徴收規則

- 第一條 貸座敷營業者ハ左ニ記載シタル賦金ヲ納ムヘシ
 - 一 貸座敷一戸ニ付一ヶ月金貳圓
 - 一 寄留藝娼妓(遊藝稼女)一人ニ付一ヶ月金五拾錢 (十九年八月縣令甲第四號四字削除)
- 第二條 娼妓ハ左ニ記載スル等級ニ從ヒ賦金ヲ納ムヘシ
 - 一 等一ヶ月 金貳圓貳拾五錢 揚代 金五拾錢以上
 - 二 等同 金貳圓 同 金四拾錢以上
 - 三 等同 壹圓七拾五錢 同 金三拾錢以上
 - 四 等同 金壹圓五拾錢 同 金三拾錢未滿
- 第三條 前條等級ハ毎年三月又ハ寄留換ヲ爲シタル時ニ限リ變更スルヲ得
- 第四條 貸座敷營業者ハ寄留藝娼妓(遊藝稼女)ノ屬籍氏名及ヒ娼妓ノ等級ヲ記載シタル帳簿ヲ製シ置キ毎年四月三十日限リ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ (十九年八月縣令甲第四號四字削除)
- 但藝娼妓(遊藝稼女)ノ増減アルトキハ其都度届出ヘシ
- 第五條 賦金ハ翌月五日限リ所轄警察署又ハ分署へ納ムヘシ但廢業シタルトキハ即納スヘシ
- 第六條 娼妓等級ヲ變更シタル時ト雖モ前等級ヲ以テ其月ノ賦金ヲ納ムヘシ
- 第七條 貸座敷營業者及娼妓正當ノ事由アリ鑑札返納ノ上全月休業シタルモノハ其月ノ

警察

賦金ヲ免ス

第八條 貸座敷營業者及ヒ娼妓移轉引續營業スルモノハ前營業地ニ於テ其月ノ賦金ヲ納ムヘシ

但旅行中兩月ニ跨ルモノハ其翌月分ハ後營業地ニ於テ納ムヘシ

第九條 貸座敷營業者及ヒ娼妓賦金不納ノ者ハ直ニ營業ヲ禁止シ其不納金ハ營業ニ關スル財產ヲ公賣追徴スヘシ

但不納金ヲ完納スルモノハ更ニ營業スルヲ許ス親族其他ノ者代納シタルキ亦同シ

○第一節 賦金徵收取扱方

明治十七年七月乙第七十一號

貸座敷及娼妓賦金徵收從來郡長ニ爲取扱候處詮議之次第有之明治十七年七月ヨリ警察本署へ爲取扱候條此旨布達候事

第十款 賣淫取締罰則

明治九年乙第十號ヲ以テ相達置候賣淫取締罰則別紙之通改正候條此旨布達候事

賣淫取締罰則

第一條 密賣淫及ヒ高主又ハ媒合容止スル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 密賣淫及ヒ媒合容止スル者初犯ハ拾圓以内ノ過料又ハ二月以下ノ苦使ニ處シ再犯以上ハ貳拾圓以内ノ過料又ハ四月以下ノ苦使ニ處ス

一 高主初犯ハ拾五圓以内ノ過料又ハ三月以下ノ苦使ニ處シ再犯以上ハ三拾圓以内ノ過料又ハ六月以下ノ苦使ニ處ス

第二條 過料ヲ即納スル能ハサル者ハ金拾六錢七厘ヲ一日ニ折算シ苦使ニ換フ

第三條 尊屬親ノ指示ニヨリ密賣淫シタル者ハ罰ヲ指示者ニ科ス

第四條 苦使滿レハ親戚又ハ故舊ニ引渡ス可シ

第十一款 賭博犯處分細則

本年一第一號公布賭博犯處分規則第四條ニ依リ細則別紙之通相定候條此旨布達候事

賭博犯處分細則

第一條 賭博犯ノ處斷ハ逮捕シタル地ノ警察署ヲ以テ管轄トス其逃走者ヲ逮捕シタルキ亦同シ

第二條 未決中ハ勾置狀ヲ發シ警察署又ハ分署ノ留置場若シハ監獄ニ勾置ス

第三條 賭博犯處分規則施行以前ノ犯罪ハ施行期限後ニ發覺スルモ該規則ヲ以テ處分スルヲ得ス

第四條 懲罰ハ監獄ニ入レ定役ニ服ス但服役其他ノ方法ハ總テ監獄ノ規則ニ從フ

第五條 過料ハ言渡ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサルキハ壹圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ懲罰ニ換フ其壹圓ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

懲罰限内過料ヲ納メタルキハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ懲罰ヲ免ス親族其他ノ者代テ過料ヲ納メタルキ亦同シ

過料ヲ懲罰ニ換フル者ハ更ニ處斷ヲ用ヒス警察署ノ命令書ヲ以テ之ヲ執行ス其懲罰限内過料ヲ納メタル者亦同シ

警察

第六條 懲罰ノ期限ハ言渡ノ日ヨリ起算ス其期限ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從テ受罰ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ其期ニ算入セス

懲罰限内逃走シタル者其逃走中ノ日數ハ期限内ニ算入セス

懲罰限内刑法ノ罪發覺シ其裁判ヲ爲ス爲メ呼出サレタル日數ハ限内ニ算入ス刑期限内賭博ヲ犯シタル者亦同シ

第七條 賭博犯ハ自首スルト雖モ其罰ヲ輕減スルノ限リニ在ラス

第八條 數次ノ賭博罪俱ニ發シタルハ其數次ヲ併セ規則ノ範圍内ニ於テ處斷ス

一次前ニ發シ已ニ處斷シ經テ一次後ニ發シタルハ更ニ其罪ヲ論ス但前後ノ日數過料ヲ通算シテ規則ノ範圍ヲ過クルヲ得ス

賭博罪刑法ノ罪ト俱ニ發シタルハ刑法ノ裁判確定シタル後賭博ノ處斷ヲ爲シ主刑滿限ノ後懲罰ヲ執行ス

懲罰限内刑法ノ罪發シタルハ懲罰ノ執行ヲ中止シ主刑滿限ノ後懲罰ヲ執行ス

監視中懲罰ニ處シタルハ懲罰ノ執行終リタル後監視ヲ執行ス

第九條 懲罰人悔悟悔改ノ情アル者ハ内務卿ノ允可ヲ得テ其罰ヲ減免スルヲアル可シ

刑法ノ處刑執行ノ後懲罰ヲ執行ス可キ者ニシテ刑期中假出獄ヲ許シタルハ其出獄中ハ懲罰ノ執行ヲ中止シ其間能ク監視規則ヲ遵守シ悔改ノ情狀アルハ亦前項ニ同シ

第五十七章

違警罪 犯罪人 盜難 告訴告發 瘋癲
失火洪水 新聞紙 銃炮 火藥

第一款 違警罪

本縣違警罪別紙ノ通改正本年十二月十五日ヨリ施行候條此旨布達候事

違警罪

第一條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ勾留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

一 河川漁業及種川取締規則ニ違背シタル者(十六年一月乙第二號ヲ以テ第一項削除十七年九月乙第九十二號ヲ以テ更ニ本項增加)

二 屬籍氏名ヲ詐稱シテ客店ニ止宿シタル者

三 路上又ハ人家ニ立寄り強テ合力ヲ求メ又ハ押賣シタル者

四 濫リニ道路堤塘ヲ毀損シ又ハ他人ノ所有地ヲ掘タル者

五 濫リニ河中水柵ヲ設ケ通船ノ妨害ヲ爲シタル者

六 他人ノ漁獵ニ妨害ヲ爲シタル者

七 驛傳取締規則及回漕取締規則ニ違背シタル者(十八年八月乙第九十八號更正)

但刑法ニ正條アル者ハ該法ニ依ル

八 水路ニ於テ筏ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者(全上)

九 墓地及埋葬取締規則同細則ニ違背シタル者(十七年一月乙第五號ヲ以テ增加全年十更ニ本項)

十 正當ノ事故ナクシテ官署ノ呼出ニ應セサル者(十七年三月乙第十六號增加)

警察

十六年七月
乙第九號
以テ第一
條削除第
二條以下
順次線上下

- 十一 酒造營業者取締規則ニ違背シタル者 (十七年五月乙第 三十八號增加)
- 十二 醫製製造者及受賣者取締規則ニ違背シタル者 (全上)
- 十三 刪除 (十八年六月乙第六十二號插入)
- 十四 營業稅雜種稅ヲ納ムヘキ業ヲ無届ニテ營ミ又ハ營業停止中其業ヲ營ミタルモノ (二十年二月縣令第 二十號ヲ以テ更正)
- 十五 蠶糸業組合規則ニ違背シタルモノ (十九年二月乙 第十一號增加)

第二條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上四拾錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 雪舟ヲ曳キ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二 市街ニ於テ蓋ナキ桶ヲ以テ汚穢物ヲ運搬シタル者
- 三 夜間十二時後歌舞音曲又ハ喧嘩シテ他ノ安眠ヲ妨ケタル者
- 四 租場又ハ裸體シテ制止ヲ背ンセサル者
- 五 市街道路取締規則ニ違背シタル者
- 六 無届ニテ神輿ノ巡行ヲ爲シ或ハ屋臺等ヲ牽キ街路ヲ徘徊スル者
- 七 警犬取締規則ニ違背シタル者
- 八 量水標ニ關スル揭示ノ禁止ヲ犯シタル者 (十六年十二月乙 第八十七號增加)
- 九 河身改修工事ニ關スル揭示ノ禁止ヲ犯シタルモノ (十八年十二月乙 第 百二十七號增加)

○第一節 人民召喚手續

明治十七年三月 郡役所
丙第六十五號

今般乙第十六號布達ヲ以テ違警罪中官署ノ呼出ニ應セサル者ノ一項追加候ニ付自今郡役所ニ於テ人民ヲ呼出スルハ左ノ手續ニ從フヘシ

一 呼出狀ハ左ノ書式ノ通記載スヘシ

但送達方法ハ適宜ニ任ス

用紙十三行 呼出狀
美濃野紙

何々ノ事件ニ付面談若クハ相尋ル儀有之候間何月何日 又ハ 出頭可致事

但同日 又ハ 出頭セサルニ於テハ違警罪ニ處セラルヘシ

年 月 日 某郡長氏名印

一 呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クモ二十四時間ノ猶豫アルヘシ被呼出人ノ居所三里以上八里未滿ナルトキハ更ニ一日ノ猶豫ヲ加ヘ以上八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フヘシ

右相違候事

●第二款 犯罪者申報方 明治十五年二月 乙第十六號

犯罪者有之タル節告訴スルト否トハ固ヨリ被害者ノ自由タリト雖行政警察上速ニ其事犯ヲ聞知セサルトキハ安寧保護ノ點ニ於テ差支不悞候條以後告訴シタルト否トニ拘ハラズ無遲滯其景狀ヲ書面又ハ口述ヲ以テ所轄警察署或ハ分署巡查番所ヘ申報候様可致ニ告訴シタルキハ其趣尤警部若クハ警部補其代理者ヘ告訴シタルキハ別ニ申報ニ不及候此ヲモ併テ申報スヘシ

旨布達候事

但本文申報ハ行政警察上注意ノ爲メ要スル儀ニ付告訴ト混同セサル様心得ヘシ

○第一節 犯罪人財産及原籍取調手續 明治十二年十二月 町村戸長

本年丁第十號ヲ以テ相達置候罪囚原籍其他取調手續ノ儀都テ相廢止原籍取調手續今般更ニ別紙ノ通相定候條以來右ニ照準取調可致此旨相達候事

但財産調ノ儀別紙ノ通警察本署ヘ相達候條時宜ニヨリ警察官ヨリ取調爲致候儀モ可有之此旨爲心得添達候事

犯罪人財産取調手續

第一條 凡犯罪人ノ家産取調ハ明治七年司法省第二十八號達ニ照準シ警部又ハ巡查ニ於

テ該家ニ臨ミ其町村ノ戸長不在等ノ時ハ用掛並ニ本犯ノ家族^{家族アラサレハ親族}チ立會セ其面前ニ於テ

詳悉調査テ遂ケ其財産ハ即時家族^{或ハ親族}又ハ戸長^{或ハ用掛}ヘ保管申付立會人ヨリ第二號書式

ニ準シ戸長^{或ハ用掛}ノ與書ヲ以テ家産目錄書チ差出サシメ第一號書式ニ準シ其調書チ作ル

ヘシ 但シ封印チ爲シ得ヘキ物ハ必ス封印チナシ保管ナサシムヘシ

第二條 財産ハ第一條ノ通り本犯一箇ノ所有ニ係ル土地家屋及ヒ金錢衣類公私債証書類

其他雜品等遺漏ナク調査スヘシ

第三條 本犯ノ財産已ニ民事裁判ニ於テ身代限ノ申渡ヲ受ケタルキハ其殘余ノ財産ノミ

ヲ取調其旨ヲ目錄書ニ記載ナサシムヘシ

第四條 諸稅納ノ滯リアルキハ其金高ヲ目錄書ノ結尾ニ記載ナサシムヘシ

第五條 財産ノ内債主ヘ抵當或ハ質入等ニ係ルモノハ目錄書ニ其品目等詳記ナサシムヘシ

第六條 其調査スヘキ財産甲乙兩署ノ所轄内ニ分在セル時ハ甲ノ署^{該犯住}ヨリ乙ノ署ニ

照會シテ調査チ求ムヘシ乙ノ署ニ於テハ速ニ調査チ遂ケ其調書チ甲ノ署ヘ送付スヘシ

第七條 寄留ニ係ル者ハ其寄留所ノミノ財産ヲ取調原籍ノ分ハ成規ニ隨ヒ所在警察署ヘ

照會シテ調査チ求ムヘシ

第八條 財産目錄書綴目ニハ必ス押印セシメ其書類ハ改竄塗抹スルコトヲ許サス若シ改竄

塗抹スルコトアルキハ其所ヘ必ス押印セシムヘシ

(書式畧之)

犯罪人原籍取調手續

第一條 原籍ハ全家ノ戸籍面通チ寫シ年月日ヲ記シ戸長與書調印スルモノトス但前科等

ノ事ヲ記スルキハ其末ニ與書調印スルモノトス

第二條 本人^{指名シテ達シ}若シ失踪中ノモノナレハ戸籍中其姓名ノ上ニ明治何年何月何

日失踪ト畧記シ尙ホ失踪届寫チ添ルモノトス

第三條 前科ハ戸籍ノ末頁ニ何年何月何日何裁判所或ハ何支應ニ於テ何ノ科ニ依リ懲役

何年或ハ笞杖何ニ處セラルト記ス

(十八年七月乙第六十七號ヲ以テ挿入)

- 第三條 火防組火事場ニ於テ負傷若クハ死ニ至ル者アルハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ
- 第四條 火防ハ常ニ熟練スルニ非サレハ現場ニ臨ミ狼狽スルノ憂アリ故ニ演習トシテ警察官ヨリ臨時出揃ヲ命スルコトアルヘシ
- 第五條 頭取組頭等ノ名稱ヲ用ユルモ適宜ニ任スルハ火防組ノ役割及ヒ火防器械等豫テ所轄警察署又ハ分署及ヒ郡役所ヘ届置クヘシ
- 但頭取若クハ組頭ハ其組合ニ於テ撰擧ノ上所轄警察署又ハ分署ヨリ辭令ヲ下附スルモノトス (十七年三月乙第十七號追加)
- 第六條 頭取ハ火防組取締上ノ細則ヲ制定シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ
- 第七條 頭取ハ警察官ノ指揮ヲ傳ヘ火防組ヲ獎勵スルノ責ニ任ス
- 第八條 頭取火事場ニ至レハ出張ノ警察官ニ届ケ指揮ヲ受クヘシ
- 但警察官未ダ出張セサルハ直チニ防禦ニ掛ルヘシ
- 第九條 鎮火ニ至ルト雖モ警察官ノ指揮ヲ待タズシテ退散スヘカラス
- 第十條 警察署又ハ分署設置無之村落ニ於テハ戸長火防組ヲ指揮スヘシ
- 但警察官出張シタルハ第一條ニ從フヘシ
- 第十一條 警察官ハ臨時火防器械ヲ検査シ其用ニ堪ヘザルモノト認ムルハ修理ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十二條 火防組ニ關スル費用ハ渾テ其町村(ノ協議)費ヲ以テ支辨スルモノトス (十八年五月)

月乙第四十七號ヲ以テ三字削除

- 但成規ニ依リ下賜スル扶助手當料ハ此限リニシテ
- 第一節 火防夫賞與施行方 明治十八年二月 郡役所
- 明治十六年 六月 乙第三十六號布達火防規則第二條ニ依リ火防夫ヲ賞與セントスルハ現 戸長役場
- ニ其功勞アル火防夫ヲ所轄スル役場ニ於テ施行スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事
- 第八款 火災ニ罹リタル者其燒失シタル財産見積金額 取調届方
- 明治十八年八月 乙第七十九號

縣治統計上入用之次第有之候條自今火災ニ罹リタル者ハ其燒失スル財産見積金額各自取調其時々所轄警察署又ハ分署ヘ可届出此旨布達候事

第九款 新聞紙雜誌報等發行願届ノ節調査添申方

新聞紙雜誌報等凡新聞條例ニ因リ發行願又ハ條例第四條ニ因リ願届出之節ハ戸長ニ於テ條例第七條之當否ヲ調査シ添申ヲ付シ可指出此旨相達候事 明治二十年一月 郡役所

○第一節 新聞紙雜誌月表調製方 訓令甲第八號

新聞紙雜誌月表調製之儀左之通改定候條該表式ニ準據シ翌月一日限リ持主若クハ社主ヨ

リ差出サシムヘシ

凡例

- 一 本表中何國トアル項ニハ本邦内配布及發賣先ノ國ヲ記入スヘシ
- 一 配布ノ項ニハ發賣セシテ單ニ同社員ニ配付スルモノ及無代價ニテ官廳等ニ納附スル者ヲ記入スヘシ
- 一 價金ハ厘位ニ止ム

(別紙書式畧之)

○第二節 新聞紙發賣所及發賣人届方 明治十九年三月 丙第七十一號 郡役所

新聞紙ノ發賣所及發賣人ヨリ受賣ヲ爲スモノ住所氏名其受賣人ヨリ可爲届出此旨相達候事

但爾後右興廢共其都度可爲届出事

●第十款

銃砲讓受渡願及改造届方 明治十年五月 乙第四十四號 各區區長

各人民所有ノ銃砲互ニ讓渡讓受ノ節ハ夫々縣廳へ可願出ハ勿論或ハ鑄潰シ改造等ノ如キモ銃名玉目等巨細ニ附記シ其都度々々斡度届出候様區内無洩可觸示此旨布達候事

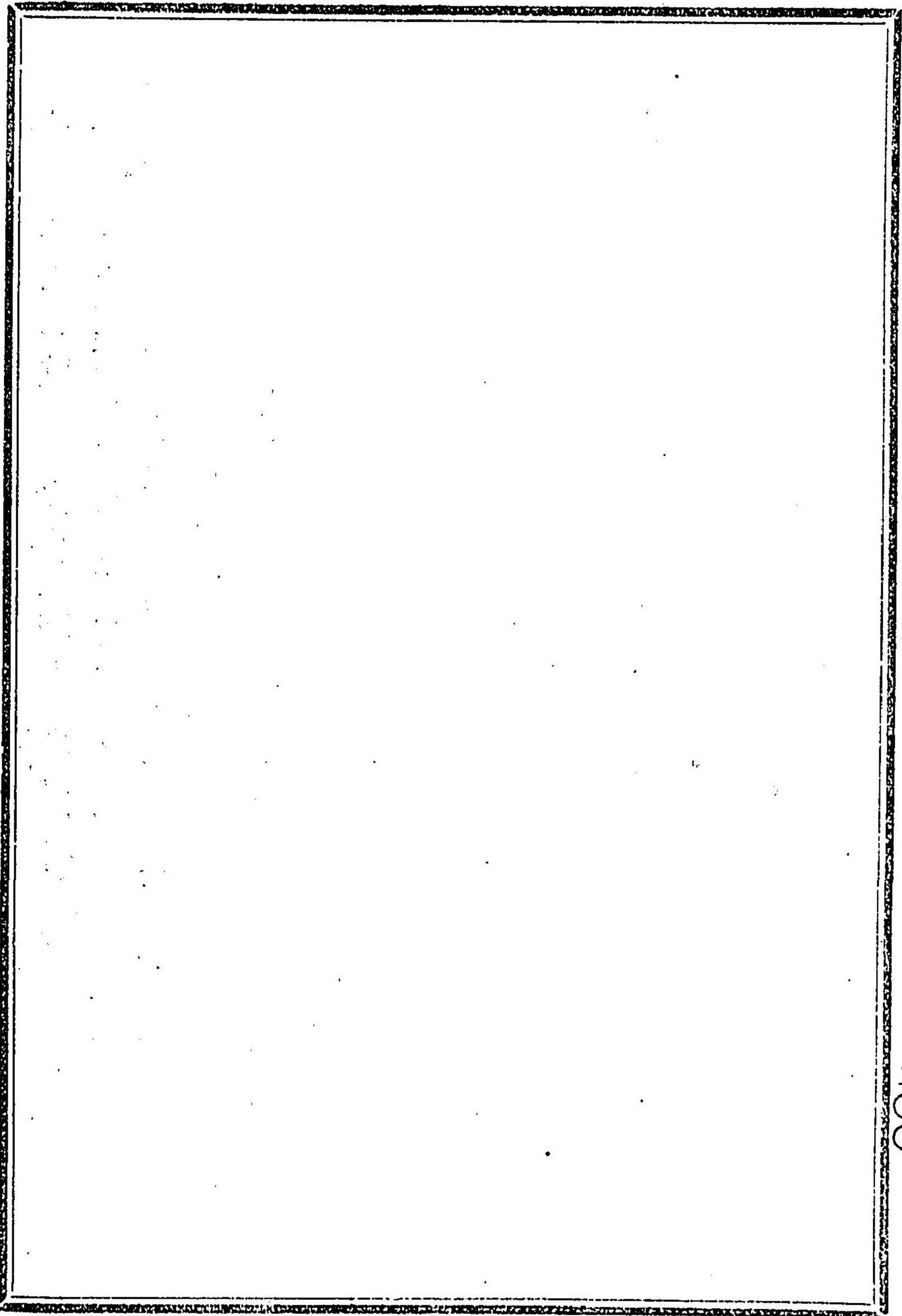
○第一節 和銃四匁八分玉以下及獵銃賣買讓渡届方 明治十五年十二月 告第百十四號

從來和銃四匁八分玉以下及外國諸獵銃買取ノ節ハ檢印番號打据方願出來候得共右ハ軍用銃砲ヲ除クノ外檢印番號相廢シ候條賣買讓渡ノ節ハ雙方ヨリ單ニ可届出儀ト可心得此旨諭達候事

●第十一款

火藥類拂下方 明治十八年三月 丁第十一號 戶長役場

昨年第三十一号布告火藥取締規則ニ依リ砲兵第一方面同第二方面及東京赤羽兵器局ニ於テ營業免許證ニ照シ火藥類拂下候旨達有之候條各營業人へ可相達此旨相達候事



●第十二類 収税

●第五十八章 第一部歳入 検査

●第一款 歳入豫算取調條規

第一條 歳入科目ハ之ヲ分ツテ款項目ノ三段トス即左ノ如シ

郡役所

内 國 税	地 租	田 租	畑 租	郡村宅地租	市街宅地租	鹽 田 租	鑛泉地租	池沼租

收税

菓子製造 菓子卸賣 菓子小賣 烟草製造 烟草仲買 烟草小賣 賣藥營業稅 蒸氣營業稅
 船稅 西洋形風 日本形 小船稅 遊船稅 馬車稅 人力車稅 牛車稅 荷車稅
 牛馬賣買 職獵免許稅 遊獵免許稅
 免許稅 右科目ニ係ル者ハ前々年度末ノ物件現數ヲ標準トス

第二項

地券證印稅 証券印紙稅 手形用紙稅 訴訟用 米商會所稅 株式取引所稅 釀造酒稅
 再製酒稅 醬油造石稅 菓子製造稅 菓子營業 菓子仕入 菓子出賣
 煙草印紙稅 煙草營業 煙草仕入 煙草出賣 鑑札料 鑑札料 鑑札料
 賣藥營業 牛馬賣買 鑑札再 銃獵免許狀再渡 賣藥印紙稅 尺度稅 升量稅 權衡稅
 鑑札料 渡及書換手數料 及書換手數料

右科目ニ係ルモノハ前々年度以前三箇年度實收ノ平均額ヲ標準トス
 以上會計年度改正ニヨリ十八年度ハ九月ニシテ標準トナシ難キハ該年度ヲ刪去シ
 其前年度以前ヲ標準トスヘシ
 第五條 豫算書報告書調製ノ節ハ目以上ノ金額ハ四捨五入ノ法ニ依リ圓位ニ止ムヘシ
 但第四條第一項ニ該當スルモノハ四捨五入ニ不拘切上リヘシ

第二款 租稅表報告表調理順序及諸表株式

明治十九年二月 郡役所
 丙第三十八號

租稅表及報告表調理順序及諸表樣式自今左之通改正ス
 租稅表及報告表調理順序

第一章 總則

第一條 租稅表及報告表ハ每會計年度ノ租稅額及課稅物件等ヲ詳記シテ稅則ノ適用及收稅ノ景況ヲ證明スヘキモノトス
 第二條 租稅表報告表ハ郡長ノ名印ヲ以テ收稅長ニ宛テ送付セシムヘシ
 但租稅表及報告表ノ内差出スヘキ分無之ハ十六年六月丙第百十四號達ニ據リ每期限必ス其旨ヲ報告スヘシ
 第三條 租稅表ニ掲クル租稅金額ハ地租ハ之ヲ租額ト稱シ其他諸稅ハ之ヲ稅額ト稱スヘシ
 第四條 表面ノ金額等四捨五入ノ算則ヨリ生スル過不足又ハ月割收入ニ基ク差額ハ表中金額ノ左傍ヘ内(外)算出不足(過)若干ト朱書スヘシ
 第二章 租稅表
 第五條 租稅表ハ其年度間賦課シタル租稅金額 地租ハ之ヲ揭載シ之ニ對シテ其年度ノ決算ヲ爲スモノトス
 但租稅不納ニ由リ公賣處分ノ未租稅金官損ニ歸シ或ハ明治十六年十月丙第二百十六號達ニ依リ勘定除却ノ手續ヲ經シモノト雖モ仍ホ本表ニ掲載スヘシ
 第六條 租稅金ノ收入シタルモノ又ハ收入スヘキモノノ内事故ニ由リ其租稅金ヲ還付シ

收稅

若クハ免除シタルトキハ都テ租税表ニ掲載セサルモノトス

第七條 不納金ヲ追徴シタルキ既往年度ニ屬スルモノハ過年度收入 十八年度ハニ編入ス
ヘシ且既往年度ノ誤納金ヲ還付スルモ租税表ノ金額ハ扣除セサルモノトス

第八條 租税決算後誤認ヲ發見シ既往ニ溯リ税金ヲ徵收セシ分ハ其許可セシ年度ニ於テ
追加税表ヲ製シ該追納金ハ其年度ノ本税ヘ編入シ決算スヘシ

第九條 受恩與者ヘ拂下ノ諸印紙税金延納許可ノ分ハ十八年 六 丙第百三十六號達ニヨリ
其税金ニ限リ收入セシ年度ノ税表ヘ編入スルモノトス

第十條 租税表ノ員數ハ臺帳ニ據テ記入シ仍ホ第三章ノ手續ニ由リ差出シタル報告表ノ
員數ニ照シテ精覈調査スヘキモノトス

第十一條 租税表送付ノ後已チ得サル事故ニ由リ訂正又ハ引換ヲ要スルキハ租税皆濟帳
進達以前ニ限リ詳細事由ヲ具シ稟申スルヲ得

第十二條 租税表ノ調理ヲ爲セシモノハ必ス下部ノ欄外ヘ小印ヲ捺セシムヘシ

第十三條 租税表ハ第一號ヨリ第二十九號ニ至ル様式ノ通り調製シ各期限表ニ照シテ其
應チ差立ツヘシ

第三章 報告表

第十四條 報告表ハ課税物件及印紙鑑札等ノ増減ヲ調査シテ時々之ヲ報告スルモノトス

第十五條 報告表ノ員數ハ凡テ臺帳ニ據テ記入シ他日税表ノ員數ニ照合シ必ス差異ナキ
ヲ記スルモノトス

第十六條 公賣處分濟報告表ハ地租ニ關スル分ノミ其様式ヲ示スト雖モ其他ハ之レニ準
シテ調査スヘシ

第十七條 報告表ハ第一号ヨリ第二十四號ニ至ル様式ノ通調製シ各期限表ニ照シテ其應
チ差立ツヘシ

第四章 製表心得

第十八條 租税表及報告表ハ記入ノ件數多クシテ料紙ノ裏面ニ渉ルモノハ其首罫ヘ標目
ヲ掲クヘシ

但料紙ハ普通美濃紙ヲ用フヘシ若シ紙面狹少ニシテ記入シ得サルモノアルトキハ適
宜分裂シテ更ニ標目ヲ設ケ調製スルヲ得

第十九條 租税表及報告表ノ員數ハ單數ヲ云フ 一 二 三 等 ナ以テ記入シ金員ハ圓錢石高ニハ石斗
反別ニハ町反ノ間ニ各〇點ヲ附シ以上三字毎ニ 十 百 千 萬 位 點ヲ付スヘシ若シ記スヘ
キ員數ナキトハ其空罫ニハ圓點又ハ斜線等ヲ施シテ脱漏ナキヲ表スヘシ

第二十條 租税表及報告表ニ掲クル計數區畫ノ劃線及其區畫内ノ文字ハ之ヲ其他ノ罫線
及文字ヨリ肉太ク記載シテ視易カラシムヘシ

第二十一條 租税表及報告表ノ各小計ハ集計上便宜ノ爲ニ設クルヲ以テ可成計查スヘシ
ト雖モ其手數ヲ要スルモノハ單ニ合計ノミヲ計查シ該小計ニ限リ一々之ヲ登記セス空
罫ノ儘進達スルモ苦シカラス

諸表様式畧之但税表中十九年三月丙第七十六號ヲ以テ第十五號様式中ヘ「日本形五十

收税

石未滿」ノ八字挿入シ第二十二號様式ヲ甲トシ之レニ一表ヲ加ヘ同號ノ乙トシ第二十四號様式中ヘ「自何月至何月」ノ六字第二十六號ノ様式中ヘ「營業」ノ二字ヲ增加ス
 ○同年五月乙第十一號ヲ以テ第十八號様式中改正同年八月乙第三十四號ヲ以テ同様式中更正○二十年三月訓令甲第十五號ヲ以テ第十一號様式ヲ改正シ證券印紙稅表、手形用紙稅表、訴訟用印紙料表、賣藥印紙稅表ハ本表ニ倣ハシム○報告表様式中十九年三月丙第七十六號ヲ以テ第十號第二十一號様式中書換ノ下各「再」ノ一字挿入○同年七月乙第三十二號ヲ以テ第六、第十一、第十二、第十四、第十七、ノ五様式改正ス○二十年十月訓令甲第五十二號ヲ以テ租稅表及延納年賦ニ關スル報告ノ項ヲ廢ス

第三款 租稅計算整理順序 明治二十年十月 訓令甲第五十二號

租稅計算整理順序左ノ通相定メ明治廿年度ヨリ施行ス

但明治十九年丙第三十八號達租稅表及報告表調理順序ノ内租稅表及延納年賦ニ關スル報告ノ項ヲ廢止ス

租稅計算整理順序

- 第一條 租稅計算整理ノ爲メ郡長ハ左ノ計算表ヲ調製スルモノトス
 - 一 租稅表
 - 一 租稅收納既未濟報告表 納期ヲ豫定セサルモノ及米商會所株式取引所稅ヲ除ク
 - 一 租稅收納報告表
- 第二條 租稅表ハ會計一周年度ニ屬スル租稅ヲ每期 地租ハ曆年ニ區別ス 又ハ若干月ニ區分シ 區分方ハ

期限表 各其期月間ニ賦課シタル租稅額及賦課物件ノ員數ヲ掲記シ徵稅ノ實況ヲ表明スルモノトス

第三條 租稅收納既未濟報告表ハ每納期賦課額ニ對スル既未納金額ヲ掲記シ其納期間實況ノ景況ヲ明瞭ナラシムルモノトス

第四條 租稅收納報告表ハ會計一周年度租稅ノ實収額及徵收未濟ノ金額ヲ掲記シ其年間實間實收ノ成績ヲ詳明ナラシムルモノトス

第五條 租稅表ニ掲クル員數ハ租稅臺帳ニ基キ租稅收納報告表ニ掲クル員數ハ其徵收實額ニ據リ之ヲ調製シ仍ホ歲入諸報告表ニ對照シ精査ヲ遂ケ必ス誤謬脫漏ナキヲ期スヘシ

第六條 租稅決算整理期限ヲ過キ租稅表ヘ編入漏ノ税金ヲ發見シタルキハ其年度ニ於テ追加租稅表ヲ調製シ其時々之ヲ送附スヘシ

第七條 租稅表送附後稅額ニ増減ヲ生シ加除訂正ヲ要スルキハ最前ノ稅表ニ對シ増減表ヲ調製シ其時々之ヲ送附スヘシ

第八條 租稅表ハ第一號ヨリ第十一號マテ全收納既未濟報告表ハ第十六號租稅訂正増減表全追加表ハ第十二號ヨリ第十五號マテ全收納報告表ハ第十七號様式ノ通調製シ各期限表ニ照シ差立ヘシ

但期限表及租稅表其他報告表様式ハ別ニ之ヲ頒ツ
 ○第一節 年度後ノ收入アルトキ編入方 明治十九年五月 郡役所
 乙第十二號

收稅

本年^四丙第八十五號達歲入豫算取調條規第一條歲入科目表中過年度收入ノ科目相廢止候條年度後ノ收入有之節ハ其當該科目へ編入スヘシ

○第二節 過年度ニ屬スル收入加算シタル分ハ仕譯書調製差出ノ件
明治二十年六月 郡役所
訓令甲第三十五號

明治二十一年度以降第一部第二部歲入豫算中過年度ニ屬スル收入ヲ加算シタル分ハ別ニ款項目ニ區分シタル仕譯書ヲ調製シ差出スヘキ旨大藏大臣ヨリ訓令相成タルニ付此旨心得ヘシ

○第三節 徵稅令書徵稅額表及報告書收納區分記載方

明治二十年一月 郡役所
訓令乙第十四號 戶長役場

第一部歲入徵稅令書徵稅額表及第一部歲入報告書ニ收納區分記載等ノ儀ニ付左ノ通大藏大臣ヨリ訓令有之候條右ニ依リ取扱フヘシ

一 徵稅令書式中明治何年第何期分トアル欄内ニ記載スヘキ收納區分ハ別表ニ據リ之ヲ記載スヘシ

一 徵稅額表及歲入報告書ニ收納區分ヲ記載スルニハ前項徵稅令書ニ記載ノモノト同一ナルヘシ

一 新規營業等ニテ豫定納期外隨時收入ニ係ルモノト雖^レ別表收納區分ニ據リ記載シ徵稅令書ヲ發セシ年度ニ編入整理スヘシ

一 前項新規收入ニ係ルモノヲ徵稅額表及歲入報告書ニ編入シタル^レハ摘用欄内ニ新規ト

シテ其金員ヲ附記スヘシ

一 廢業等ニテ豫定納期外隨時收入ニ係ルモノハ其現取スヘキ當該期(月數ヲ以テ徵取スル者ハ其月數ヲ掲クヘシ)ヲ記載シ徵稅令書ヲ發セシ年度ニ編入整理スヘシ「但酒造稅ニ於テ十月ヨリ翌年三月迄醬油稅菓子稅ニ於テ一月ヨリ三月マテニ廢業セシムルモノニ係ル收入ハ前年ノ末期分へ編入整理スヘシ

一 土地質上等ニヨリ月割ヲ以テ收入スヘキモノハ其月數ヲ徵稅令書ニ記載シ市街宅地租ハ當該納期ニ編入其他ハ最近ノ納期(四月中畑租ヲ收入スル^レハ第一期へ田租ヲ收入スルトキハ第三期へ編入ノ類)ニ編入整理スヘシ「但一月ヨリ三月迄ニ屬スル地租ヲ出納開始以前ニ收入スヘキ場合ニ於テハ田租ハ前年ノ第五期市街宅地租ハ前年ノ後半年分へ畑租ノ類ハ前年ノ第二期へ編入整理スヘシ

一 過年度ニ屬スル收入ハ徵稅令書へ所屬曆年ヲ記載シ其徵稅令書ヲ發セシ年度へ編入整理スヘシ

內國稅收納區分表

項	目	收 納 區 分
畑 村 宅 地 租	畑 村 宅 地 租	何 年 第 一 期
郡 田 地 租	郡 田 地 租	
鹽 泉 地 租	鹽 泉 地 租	

收稅

煙草	營業鑑札料再渡及書換	同隨時收入
	仕入鑑札料再渡及書換	
賣藥	營業鑑札料再渡及書換	同隨時收入
	營業鑑札料再渡及書換	
船	印紙	同隨時收入
	營業鑑札料再渡及書換	
車	遊日西蒸	同前半年分
	遊日本洋氣	
度量衡	權榭尺	同後半年分
	權量度	

銃獵免許稅	職獵免許稅	同隨時收入
	遊獵免許稅	
牛馬賣買免許稅	牛馬賣買免許稅	同前半年分
	鑑札再渡及書換手数料	

○第四節 徵稅令書亡失シタルハ取扱方
 歲入取扱順序第六十一條ニ據リ戸長ニ於テ税金ヲ分納スルハ事故アリテ徵稅令書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ左ノ通報書ヲ戸長ニ發スルハ其理由ヲ具シテ郡長ニ開申ス
 一 水火災盜難等ニ罹リ徵稅令書ヲ亡失シタルハ戸長ハ其理由ヲ具シテ郡長ニ開申ス
 一 郡長ハ前項ノ開申ヲ得ルキハ未納殘額ヲ取調其殘額ノ徵稅令書ヲ發スヘシ
 一 前項未納殘額ノ徵稅令書ハ金額ノ右側ニ左ノ如ク記載スヘシ
 金何圓何錢ノ内未納殘
 ○第五節 徵稅令書ヲ發シタル後金額ノ訂正ヲ要スルトキ心得方
 明治十九年四月 郡役所
 丙第九十六號 戸長役場
 郡長ヨリ戸長ニ對シ徵稅令書ヲ發シタル後減額ノ爲メ金額ノ訂正ヲ要スルキハ左ノ通知得ヘシ
 一 郡長ハ徵稅令書發付後減額ヲ要スルキハ通報書ヲ戸長ニ發スヘシ

取稅

一前項ノ場合ニ於テ戸長ハ書式第一號第三例不納ノ例ニ準シ上納書ニ減額ノ金員ヲ掲ケ減額報告書トナシテ金庫ヘ送付スヘシ
一不納減額共ニ報告ヲ要スルモハ上納書ニ不納額減額ヲ合計シタル金員ヲ掲ケ不納並減額報告トナシテ金庫ヘ送付スヘシ

○第六節 既納税金下戻請求方 明治十九年十月 郡役所
縣令丙第十四號
歲入取扱順序第五十條ニ據リ既納ノ税金下戻ヲ要スルトキハ歲入報告濟ノ後之ヲ請求スヘシ

○第七節 年度内ニ係ル既納金下戻計算書記載方 明治二十年七月 郡役所
訓令甲第四十二號
年度ニ係ル既納歲入金下戻計算書記載方ノ儀左之通大藏農商務兩大臣ヨリ訓令有之候條右ニ依リ取扱フヘシ

大藏省訓令第四十七號 北海道廳 府 縣
年度内ニ係ル既納歲入金下戻計算書ヘ記載スル現金支出場所ヘ彙ニ納入シタル金庫名ヲ記載スヘシ

明治二十年六月三十日 大藏大臣 伯爵松方正義
農商務省訓令第十二號 府縣 沖繩縣 郡 除ク
客年五月當省訓令第六號森林諸收入順序ニ依リ既納歲入金ノ下戻ヲ要スルモ其年度内ニ係ル該計算書ヘ記載スル現金支出場所ハ彙ニ納入シタル金庫名ヲ記載スヘシ
明治二十年七月十八日 農商務大臣 子爵谷干城

○第八節 諸稅表及計算表ヘ主任者捺印進達ノ件 明治十七年四月 郡役所
訓令丙第十六號
諸稅表及計算表等之諸申牒ハ都テ稅額ヲ定ムル基礎ニテ收稅上必要之處往々粗漏之取調ヲ以申牒ノ郡衙モ有之不都合ニ付以降表面額ヘハ精算確實ヲ證シ主任者捺印ノ上進達可致此旨相達候事

○第九節 徵稅額表歲入報告書ノ訂正及追加スヘキモノアルトキノ手續 郡役所
明治十九年十月 縣令丙第十六號
歲入取扱順序第四十一條及第四十八條ニ係ル徵稅額表及歲入報告書ノ訂正及追加スヘキモノアルモハ左ノ手續ニ依ルヘシ
一歲入徵稅額表及歲入報告書ノ誤記訂正方ハ別紙書式ニ據リ開申スヘシ
但別紙ハ別ニ送付ス(別紙略之)

一同上ノ追加報告ニ係ルモノハ第十八号及第二十号書式ニ據リ何年度第何号徵稅額表追加及何年度何月分第何号歲入報告書追加ト表記スヘシ
○第十節 歲入ニ關スル報告期限 明治十九年四月 郡役所
縣令丙第十三號
今般大藏省令第四號ヲ以テ歲入取扱順序達相成候ニ付テハ第一部歲入ニ關スル報告期限左ノ通相定候條此旨相達候事

一順序第四十一條ノ報告書ハ第十八號書式ニ倣ヒ調製シ徵稅令書發付後七日以内隨時納期ヲ定ムルモノハ毎月取纏メ翌月七日迄ニ送付スヘシ
一順序第四十八條ノ報告書ハ第十八號書式ニ倣ヒ調製シ翌月七日迄ニ送付スヘシ(二十五年)

收稅

月訓令第二十八號改正

一 順序第四十九條ノ報告書ハ第二十三號甲書式ニ倣ヒ調製シ徵收未濟報告ノ分ハ會計年度后七日以內不納報告ノ分ハ十二月廿日迄ニ送付スヘシ

○第十一節 毎月差出徵收濟報告書整理方 明治二十年四月 郡役所
歲入取扱順序第四十八條ニ據リ毎月差出候徵收濟報告書ハ總テ金庫ノ領収ヲ証シタル月分ヲ以テ之ヲ整理スヘシ

但甲月ノ徵收濟報告書差出後ニ甲月ニ屬スル領収ノ報告ヲ得タルキハ甲月分ノ追加トシテ報告スヘシ

○第十二節 歲入計算書調製方 明治十九年五月 郡役所
今般大藏省令第四號第五十條ノ計算書ハ第六號書式ニ倣ヒ調製スヘシ此旨相達候事

第五款 租稅檢査員派出所名稱位置 明治二十年四月 告示第四十三號

租稅檢査員派出所名稱及位置左ノ通改定ス

- 第一區 租稅檢査員山形派出所 所轄 東南村山郡
- 第二區 租稅檢査員米澤派出所 所轄 東南置賜郡
- 第三區 租稅檢査員宮派出所 所轄 西置賜郡

第四區 租稅檢査員楯岡派出所

所轄

第五區 租稅檢査員新庄派出所

所轄

第六區 租稅檢査員鶴岡派出所

所轄

第七區 租稅檢査員酒田派出所

所轄

○第一節 租稅檢査員提携印章

明治十六年七月 丙第百五十號 郡役所

國稅ニ關スル諸檢査トシテ本廳ヨリ巡回候者ハ自今印章ヲ提携爲致候ニ付右印章照合ノ爲メ郡役所及戶長役場ヘ壹葉ツ、左記ノ通相渡候條配付ノ上印章番號及配付ノケ所可届出此旨相達候事

記

一 照合用印章 五十一枚

但 自五〇九號 至五五九號

第六款 國稅收納事務檢査規程 明治十八年十月 郡役所 丙第百四十五號

第一條 郡役所國稅收納事務ハ収稅課員ヲシテ檢査セシムルモノトス

取稅

第二條 検査ハ年々二回以内事務ノ緩急ニ應シ臨時出張之ヲ爲サシムルモノトス

第三條 検査スヘキ要領左ノ如シ

- 一 國稅徵収及送納ノ事
- 一 國稅不納ノ狀況及處分ノ適否
- 一 國稅收納ニ關スル帳簿ノ整否
- 一 國稅收納ニ關スル諸申報ノ整否

第七款 證券印稅檢査取扱手續 明治十七年八月 戶長役場

證券印稅檢査取扱手續左之通相定候條此旨相達候事

但明治十六年六月丁第三十六号達ハ廢止ス

證券印稅檢査取扱手續

- 第一項 証書帳簿仕切書類簿ヲ檢査ヲ受ケヘキモノハ町村檢査場ヘ該証書帳簿等並實印ヲ携帶出頭調査ヲ受ケシムヘシ
 - 第二項 檢査員ハ各郡役所ヘ出張之上町村戶數ノ多寡ト地形ノ便宜ヲ量リ檢査場ヲ設ケ該場所及ヒ檢査巡回ノ日割等豫メ通知スルモノトス
 - 第三項 前項通知ヲ得タル節ハ戶長又ハ書記 檢査ヲ受クヘキ証書帳簿等ノ種類員數並受檢人ノ宿所職業姓名書ヲ調整シ置キ檢査ノ際戶長又ハ書記ニ於テ之ヲ檢査員ヘ差出スヘシ
- 但檢査ヲ受クヘキ証書帳簿等無之トキハ其旨書面ヲ以テ檢査員ヘ届出ヘシ

第四項 新製調簿附込中並附込済ノ分ト雖戸簿ヲ檢査ヲ受ケシムヘシ

第五項 他府縣下若シハ他郡ヨリ寄宿ノ者ニシテ其寄宿地ノ檢査場ニ於テ檢査ヲ受ケ度旨情願スルモノハ其意ニ任セ檢査ヲ受ケシムヘシ

第六項 檢査之際他行又ハ不得止事故之レアリ檢査ヲ受ケサルモノハ其事由書面ヲ以テ届出サセ他ノ檢査場ヘ差出シ必ス檢査ヲ受ケシムヘシ

第七項 故ナク証書帳簿仕切書等ノ檢査ヲ受ケサルモノ又ハ之レヲ受クルモ尙疑訝ニ涉ルモノアルキハ檢査員臨機其宅ニ就キ調査スルヲアルヘシ

第八款 租稅官吏人民ノ家屋ニ立入り證憑取調ノ節 立會方

明治十七年一月 乙第一號

客年第四十三號布告ニ依リ租稅官吏人民ノ家屋ニ立入り證憑取調ル場合ニ於テハ其地戶長若シハ用掛隣估ノ内ヲシテ立會ハシムル儀モ可有之此旨布達候事

第九款 煙草賣藥菓子營業人ヘ檢査簿頒布受檢ノ節 記入ノ件

收稅

二十八年八月十六日
 第六十四號
 以業人煙
 草營業人
 心得制定
 ニヨリ乙
 号帳簿様
 式廢止

明治十八年十二月
 乙第三百三十五號
 煙草賣藥菓子營業人ハ別紙甲號式ノ檢査簿ヲ頒付スヘキニ付主任官臨檢ニ際シ其記入ヲ
 受クヘシ
 煙草賣切人ハ別紙乙號帳簿ヲ調製スヘシ
 別紙
 甲號

煙草稅(賣藥稅)(菓子稅)受檢査簿

何年何月何日	檢	查	官姓名印
許可年月日	鑑札番号	製造場位置	住 所 氏 名
<p>○第一節 齧麴煙草賣藥菓子營業者印紙賣捌人牛馬賣買免許者及船車調雛形 明治十九年一月丙第二十號達齧麴煙草賣藥菓子營業者印紙賣捌人牛馬賣買免許者及船車調 雛形左ノ通更定ス 齧麴製造營業者調</p>			

何年何月何日	第何号	何町村何番地	何
計		何ヶ所	何人
煙草製造營業者調			

許可年月日	鑑札番号	兼業名	出賣人名	仕入人名	賣切人名	町村氏名
何年何月何日	第何号	仲賣又ハ小賣	何人	何人	何人	何氏
計			何人	何人	何人	何人

(仲買人小賣人調モ右ニ倣ヒ別調ニスヘシ)
 賣藥營業者調

許可年月日	鑑札番号	方	名	町村名	氏名
何年何月何日	第何号	何	何方	何町何番地	何氏
計		何	何方		何人

許可年月日	鑑札番号	方	名	製造者國郡町村番地氏名	町村氏名
許可年月日	鑑札番号	方	名	製造者國郡町村番地氏名	町村氏名

收稅

賣藥行商者調		何年何月何日	第何号	何々	何々	縣國郡町村番地	何村	何某
計				何	方			何人
許可年月日	鑑札番号	方	名	營業者及受賣者國郡町村番地氏名		賣子氏名		
何年何月何日	第何号	何々	何々	營業者何縣何郡何町村何某		何郡何町村何某		
計		何	方	何		何人		
菓子製造營業者調								
許可年月日	鑑札番号	雇人數	兼業者	出賣人	仕入人	町村名	氏名	
何年何月何日	第何号	何人	ハ卸賣又ハ小賣	何某	何某	何町	何某	
計		何人		何人	何人		何人	
(卸賣人小賣人調モ右ニ倣ヒ別調ニスヘシ)								
菓子露店及呼賣者調								
露店	呼賣							

印紙賣捌人調		許可年月日	鑑札番号	兼業名	町村	氏名	許可年月日	鑑札番号	兼業名	町村	氏名
計				何人							何人
種類	看板番号	許可年月日	受恩典者又ハ非恩典者	町村番地	氏						
證券印紙	第何号	何年何月何日	受恩典者	何番地町	何						
煙草印紙	第何号	何年何月何日	何	何	何						
牛馬賣買免許者調											
許可年月日	鑑札番号	船	号	積噸石數又ハ間數	町村	氏名					
何年何月何日	第何号			何	何	何					
計				何		何人					

收税

何年何月何日	第何号	西洋形蒸氣何丸 日本形何丸又ハ何々	何噸何石或ハ 何間何千石或 ハ何間何艘	何町	何
(各種ヲ區分別調ニスヘシ)					
免稅船調					
押印年月日	種別	町	村	氏	
何年何月何日	水田耕作船或ハ水 災豫防船又ハ渡船	何	町	何	某
計				何	人
人力車調					
押印年月日	車番号	町	村	氏	
何年何月何日	第何号	何	町	何	某
計				何	人
(各種毎ニ區別シ別調ニスヘシ)					
免稅車調					

押印年月日	種別	町	村	氏	名
何年何月何日	耕作一途荷車或ハ 馬車	何	町	何	某
計				何	人
第五十九章 地券 地租					
第一款 地租條例心得方 <small>明治十七年五月 乙第四十三號</small>					
<p>本年第七號地租條例布告相成候ニ付テハ左ノ條々可相心得此旨布達候事</p> <p>第一條 有租地中ノ各地目ニ包含スル種類左ノ如シ</p>					
<p>第一類</p> <p>田 未定田 沼田</p> <p>畑 未定畑 山 流作畑 切換畑 鹿野畑</p> <p>郡村宅地 堂宇敷地 水車敷地</p> <p>市街宅地 社寺境内 鹽田 鹽場</p> <p>鹽田 製鹽場</p> <p>鑛泉地 温泉地 冷泉地</p>					
<p>第二類</p>					

收稅

池沼	養魚池	水車溝
山	井戸敷	
山林	竹木雜生地	石櫨山
崖地	柴草山	
原野	蒲生地	牧場
芝地	蘆野	柴生地
網干場	蘆干場	草生地
造船場	流木置場	野揚場
雜種地	海岸砂地	舟揚場
土取場		物置場
		土揚場
		荷揚場

第二條 免租地中公立學校地トハ校舍建設アル一構内ノ土地及授業上ニ必要ナル土地又ハ農學實驗用ニ供スル(五町步以内ノ)土地ニシテ現ニ該學校ノ所有ニ係ルモノヲ謂フ其鄉村社地トハ該社ノ現境内ニシテ該社ノ所有ニ係ル土地ヲ謂フ

第三條 凡土地ノ丈量ハ三斜法ヲ用ヒ其地持主チシテ之レヲ爲シ其(段別及ヒ)野取繪圖(第一號雛形ノ如ク)ヲ差出スヘシ(十八年九月乙第百號四字刪除)

第四條 凡間未滿ノ尺度ハ六尺ノ拾分一ヲ分ト爲シ分ノ拾分壹ヲ釐ト爲シ丈量ノ際端尺三寸ヨリ五尺七寸マテ三寸ヲ増ス毎ニ六除ノ數ニ適セサルモノハ之レヲ切捨テ五釐ニ止ムヘシ(即チ四寸又ハ五寸ヲ得ルハ一寸又ハ二寸ヲ切捨テ三寸此六除五釐ト爲シ其積算上ニ於テハ一步未滿ヲ切捨ツヘシ但一筆ノ土地ニシテ一步未滿ナルモノハ合、勾、迄ヲ用ユヘシ)

進市街宅地ハ前項ニ據ルヘキモノトス(十八年九月乙第百號增加)

市街宅地ハ丈量上ニ於テ釐未滿ヲ切捨テ釐位ニ止ム(釐ハ六尺百分ノ一)即曲尺六分ヲ謂(其積算上ニ於テハ壹勾未滿ヲ切捨テ勾位ニ止ムヘシ)壹勾ハ即チ壹町ノ百分一ヲ謂フ

第五條 田畑ノ丈量ハ畦畔際ヨリ宅地及山林原野雜種地等ハ境界線ヨリ打詰メニ爲スヘシ(十九年十月縣令甲第十九號改正)

第六條 田畑ノ畦畔其持主自由ニ變更スヘキモノハ之ヲ本地ニ量入シ其常ニ變更セサルモノハ之ヲ除却ス(除却セシ畦畔ノ步數ハ之)畑宅地ノ一筆ノミニ用フル通路及ヒ一筆内ニシテ其所有主便宜ニ設クル小逕ノ類ハ總テ本地ニ量入スヘシ(同割注改正)

崖高ノ地其崖脚中ノ鐵入ニ必要ナル土地ハ之ヲ本地ニ量入シ崖脚ニシテ多少ノ收利アル土地ハ之ヲ本地ニ量入若クハ一筆ニ丈量スヘシ一筆ノ田畑宅地内ニ孕在スル雜種地等ハ之ヲ本地ニ量入スヘシ

第七條 山林原野雜種地等ハ其實際ノ平斜面ニ應シ三斜法其他適宜ノ方法ヲ以テ丈量スルモ妨ケナシ

第八條 土地ノ丈量又ハ地位、地價、ノ檢査トシテ檢査員派遣セシ時ハ其地持主ハ每筆字名、地番號、地目、反別、及ヒ持主ノ氏名ヲ記載セル畝杭ヲ建テ置クヘシ

實地檢査ノ場合ニ於テハ其町村戸長及ヒ其地持主立會フヘシ

第九條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正セントスルハ其町村戸長及持主チシテ近傍類地ト其地方ヲ比較シ尙其地ノ情况又ハ現況ニ依リテ地位等級ヲ定メシメ檢査員ヲ派遣シ其

收稅

十九年十月十九日
第十條以下
第十條以下
第十條以下

當否ヲ審査ス

前項ノ場合ニ在テ持主多數ナルトキハ其持主中ヨリ二名以上五名以下ノ總代人ヲ撰ミ之レヲシテ其地位等級ヲ定メシムヘシ但實地檢査ノ節ハ總代人ノ立會フヘシ檢査員該地位等級ヲ不適當ト認ムルトキハ更ニ戶長及持主又ハ總代人ヲシテ再評セシムルコトアルヘシ

地位ノ評定ニ係ル一切ノ費用ハ其地持主ノ負擔ナルヘシ

第十條 地價ハ收穫、利率、及ヒ檢査石代、(利率及ヒ石代共地租)ニ依リ其種肥料ヲ收穫ノ一割五分ト爲シ左ノ算則ニ據テ定ムルモノトス

地價算則

田畑ハ收穫物ノ内ヨリ種肥料ヲ引去リ其殘數ニ檢査石代ヲ乘シ實ト爲シ其他ノ地目ハ所得金ヲ以テ實ト爲シ地租率百分ノ三(地租改正ノ節)ト地方稅率百分ノ一(地租改正ノ節)トチ合シ之ニ利率ヲ加ヘ法ト爲シ法ヲ以テ實ヲ除シ得ル數ヲ地價ト爲ス

但地價ハ厘位ニ止メ之レニ滿マサル數ヲ用ヒテ總テ切捨ツヘシ(十八年九月乙)

第十一條 條例第十三條第一項末段ノ土地ハ工事ニ着手セシ筆限其月ヨリ免租ノ取調書ヲ差出スヘシ

第十二條 地目變換ヲ爲セシ者ハ別紙(第二號雜形)ニ準據シ年内左ノ兩期ニ届出ツヘシ但其期限ヲ過キ届出テサルモノハ條例第十條ノ違犯者トス

第一期 某年一月一日ヨリ其年七月十日限リ(十八年九月乙)
全六月三十日マテ

第二期 某年七月一日ヨリ 翌年一月十日限リ(同)
全十二月三十一日マテ

第十三條 有租地ノ荒地ト爲リ免租年期ヲ請フトキ又ハ原地價ニ復シ難キ分アリテ繼年期若クハ低價年期ヲ請フトキハ其地形ヲ畫キシ圖面ニ一筆限帳ヲ添ヘテ其事由ヲ申出ツヘシ

第十四條 免租年期明ニ至リ原地價ニ復シタルトキハ一筆限帳ヲ添ヘ其旨ヲ申出ツヘシ(十八年九月乙)
(第百號改正)

第十五條 免租年期明若クハ繼年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シ又ハ低價年期明ニ至リ尙原地價ニ復シカマキ分アルトキハ一筆限帳ニ圖面ヲ添ヘ其事由ヲ申出ツヘシ

第十六條 開墾後下年期荒地免租年期及繼年期低價年期中出テタル節ハ檢査員ヲ派遣シ其當否ヲ審査ス

明治十八年九月乙第百號ヲ以テ第一號雜形ヲ廢シ同號附屬雜形ヲ第一號ト改メ之レニ總計地目限リ列記シテ附シ及第二號雜形ヲ別紙ノ通更正シ之レニ附屬セル地目變換地價帳ヲ廢ス

(別紙第二號雜形畧之)

明治二十年二月縣令第二十一號ヲ以テ第一號雜形野取繪圖帳ヲ相廢シ自今野取繪圖ハ願(屆)書中每筆ノ次ヘ挿入但願(屆)書ヘハ挿入スルニ及ハサル旨ヲ布達ス

收稅

三三五

十九年十月十九日
第九號以下
第九號以下
第九號以下

三三四

●第二款 地租ニ關スル願伺届書へ記載方明治十八年三月乙第十七號

明治十七年第七號布告地租條例第三條ニ於テ有租地ノ地目ヲ被定候ニ付テハ爾來地租ニ關スル願伺届書等ハ總テ該第三條ニ掲クル所ノ地目ヲ記載シ尙ホ地番號ノ下ニ朱字ヲ以テ現地ノ名稱ヲ附記スヘシ此旨布達候事

●第三款 地租増減ニ關スル願届書筆數二筆以上ニ涉ルモノ記載方

明治十八年十月乙第九十九號
地租増減ニ關スル願届書ニシテ筆數二筆以上ニ涉ルモノハ自今計ノ部地目毎ニ段別ノ下ヘ其筆數記載スヘシ此旨布達候事

●第四款 土地所有者ニシテ其土地所在ノ戸長役場所轄内ニ居住セサルキ地租地方稅備荒儲蓄金區町村費ヲ納ムル爲メ代人定メ届置ノ件

土地所有者ニシテ其土地所在ノ戸長役場所轄内ニ居住セサルキハ地租地方稅備荒儲蓄金區町村費ヲ納ムル爲メ代人ヲ定メ土地所轄ノ戸長役場所へ届置クヘシ此旨布達候事
明治十八年八月乙第九十七號

●第五款 預米取扱手續明治十八年九月乙第一百〇二號

明治十六年十二月十二號本縣乙第八十五號布達預米取扱手續左ノ通改正ス
右布達候事

預リ米手續

第一條 預リ米ハ地租第三四五六納期ニ於テ各其半額迄ヲ納金抵當トシテ該町村ノ上米ヲ預ルモノトス但代米納付許可スルキハ其員額ニ對スル分ハ預リ米ヲ許可セズ

第二條 預リ米ハ十一月二十日迄ニ願出タルモノニ限り許可スヘシ但願書ニハ郡長并戸長與書スルモノトス

第三條 預リ米ヲ許可スルハ地租改正ニ用ヒタル米價ヨリ時價下落ノ時ニ限ルヘシ

第四條 時價ヲ算出スルニハ郡内一ヶ所相場立ノヶ所ヲ定メ置キ該年十月十二日ヨリ十一月十日マテノ間其地ノ上米平均相場ヲ用フヘシ但相場立ヶ所ハ豫メ收稅課へ届出ヘシ

第五條 預リ米ハ前項ニ掲ケタル相場ヲ以テ計出シ得ル所ノ米額ニ壹割ヲ加ヘタルモノヲ藏置セシムヘシ

第六條 俵拵并俵入等ハ渾テ代米納同様タルヘシ但合米ハ加フルニ及ハス

第七條 預リ米ヲ藏置スヘキ場所ハ各郡役所ニ於テ各町村預ケ高ノ多寡ヲ豫算シ郡内ヲ適宜ニ指定シ集蓄セシムヘシ但藏敷及看守人給料其他一切ノ費用ハ預ケ人ノ負擔トス

第八條 藏入期限ハ十二月十五日限ト定メ郡吏戸長預ケ主總代立會封印スヘシ但郡吏へ適宜巡村ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ通告シ必ス期限内ニ完了スヘシ

第九條 預リ米換金期限ハ左ニ記載セル三期トス此期日迄ニ納金セサルキハ郡吏戸長立會其期ニ當ル預リ米ヲ競賣スヘシ

收稅

一 第三四期預り米 三月十五日限
 一 第五期預り米 四月二十日限
 一 第六期預り米 五月十五日限

第十條 前項競賣代金税額ニ滿タサルキハ直チニ其不足金ヲ徵收シ若シ納メサルキハ一般ノ租税不納處分規則ニ據リ處分スヘシ

第十一條 預ケ主ニ於テ預リ米ヲ賣却セシムルキハ其時々之ヲ許シ各立會賣却ノ上其代金ハ直ニ收入シ藏出セシムヘシ

第十二條 預リ中水火盜難又ハ缺減等ニ罹リ損失ヲ生スルコトアルモ預ケ主ニ於テ補償ノ責ニ任スヘシ

第十三條 預リ米アル地所他ノ事故ニヨリ公賣ノ處分ニ係ルキハ其預リ米アルニ拘ハラズ當期ノ税金ヲ完納セシムヘシ但シ此場合ニ於テハ預リ米ヲ還附スヘシ

第十四條 預リ米ヲ許可スルニ方リテハ前二項ニ開示セル條件ヲ承諾セシメ請書ヲ領收スヘシ

第十五條 許可シタル預リ米ノ員數及其金額ハ郡役所ニ於テ一戸長役場限リ取調郡計ヲ付シ十二月一日迄ニ收税課ヘ届出ヘシ

○第一節 地租金代米納領收順序 明治十七年十二月 郡役所
 丙第三百十九號 戸長役場

地租金代米納領收順序
 地租金代米納領收順序

第一條 代米ハ町村納人各自若クハ一町村納人總代ヲシテ其定メタル港へ便宜輸送セシメ戸長ハ該港ニ出張シテ取纏メ其郡役所ヨリ出張スル吏員へ相渡シ郡吏員ハ之ヲ檢査シテ其港出張ノ大藏省納米受取方へ交附シ戸長ハ其預リ切符ヲ以テ郡長へ納メ郡長ハ其預リ切符ヲ收税長へ宛テ送付スルモノトス

第二條 郡役所ノ吏員ハ納米輸送ノ時機ヲ計リ檢査スヘキ港へ出張シ明治五年八月太政官第貳百三十一號達ニ據リ納米ノ檢査及ヒ受授ノ順序ヲ處辨セシムルモノトス

但檢査及ヒ受授ノ順序ハ納人及ヒ戸長郡吏員大藏省納米受取方各立合之ヲ爲スヘシ

第三條 代米納所ハ回漕船ノ碇泊シ得ヘキ地ヲ取調稟申ノ上定ムルモノトス

第四條 郡長ハ第壹號ノ通甲乙接續セル納米切符ヲ製シ該米納方期限前遲クモ三十日以前各町村納額元帳ニ據リ其納米額及ヒ納期限ヲ甲乙納米切符へ記入シ第一號甲納米切符へ一印ノ如ク郡役所ノ印ヲ捺シ尙元帳米額ト割印ヲ捺シ之ヲ戸長ニ達スヘシ

第五條 郡長ハ前條ノ如ク戸長へ納米切符ヲ達シタル後遲クモ三日以内ニ其納米額ヲ第一號ノ通調製シ之ヲ收税長へ報告スヘシ

第六條 戸長ハ納米切符ヲ得テ其町村一人別帳ニ據リ納米者ニ達シ納米額ヲ輸送セシメ而テ該米受渡ノ節第一號乙納米切符へ二印ノ如ク調印シ其納米ト共ニ郡吏員へ相渡シ郡吏員ハ該切符へ第三號ノ通檢査證ヲ添付シ之ヲ港出張ノ大藏省納米受取方へ差出スヘシ

第七條 前條大藏省納米受取方ハ米額ヲ受取タルコトヲ證スル爲メ第一號乙切符納米ノ下

收税

へ三印ノ如ク證印ヲ捺シ尙受取元帳ニ其金米額ヲ記シ之レト四印ノ如ク割印ヲ捺シ郡吏員ヲ經テ之ヲ戸長ヘ相渡スヘシ

第八條 戸長ハ第一號甲切符ヘ五印ノ如ク調印シ郡役所ヘ上納スヘシ

第九條 郡長ハ各戸長ヨリ上納セル甲乙納米切符ノ米額ト納米元帳ト照査シ其甲切符ヘ

六印ノ如ク領収ノ証印ヲ捺シ尙七印ノ如ク甲乙切符接續ノ中央ヘ印ヲ捺シ而テ甲乙チ分截シ乙ハ郡役所ニ留置キ甲ハ戸長ニ付與シ以テ代米納濟ノ證トスヘシ

第十條 郡長ハ其留置キタル納米切符チ一旬日毎ニ取纏メ遲クモ三日以内ニ第四號ノ通納稅證書ヲ製シ捺印ノ上チ收稅長ヘ宛テ送附スヘシ

第十一條 收稅長ハ納米切符チ受取タル日ヨリ遲クモ三日以内ニ第五號ノ通領收證書ニ捺印ノ上郡長ヘ送付スヘシ

第十二條 郡長ハ代米皆納ニ至ラハ其金米額チ收稅長ニ報告スヘシ

第十三條 收稅長ハ定式ノ如ク皆濟帳ニ金納ト代米納トノ金額チ内譯ニ記シ其代米納ノ金額ヘハ此代米若干トシ主稅官長ヘ差出シ之カ決算ヲ爲スヘシ
(書式畧之)

第六款 土地分合筆出願方

明治二十年五月 縣令第五十二號

一筆ノ土地チ分割シ二筆以上ノ土地チ合併セントスル者ハ其段別地價及野取圖ヲ添ヘ戸長役場ヲ經由シ郡役所ヘ願出ツヘシ

○第一節 土地分合筆取扱手續 明治二十年四月 訓令乙第二十五號

郡役所 戸長役場

土地分合筆取扱手續左ノ通大藏大臣ヨリ訓令有之候條此旨心得ヘシ

大藏省訓令第二十五號

府縣(沖繩縣チ除ク)

土地分合筆取扱手續左ノ通心得ヘシ

土地分合筆取扱手續

第一條 一筆ノ土地チ分割シ二筆以上ノ土地チ合併セントスル者ハ其反別地價及野取圖ヲ添ヘ戸長役場ヲ經由シ郡役所ヘ願出セムヘシ

第二條 戸長ハ第一條ノ願書チ受領シタルトキハ與書チナスヘシ若シ反別地價ノ分配ニ於テ不適當ト視認ムルコトアルキハ實地臨檢ノ上其旨說示シ承服セサルモノハ意見書チ作り郡區役所ヲ經由シ地方廳ヘ具申セシムヘシ

第三條 地方廳ハ第二條ノ具申書チ受領シタルトキハ規程ノ手續ニヨリ更ニ實地審査シ適當ノ地價ヲ定メ所有者ニ示達スヘシ

明治二十年四月十一日

大藏大臣伯耆松方正義

第七款

一類地ニシテ段別及地目ノ異動ニ係ルモノ一類地中ニ孕在スル二類地ヲ開墾スルモノ一筆ヲ分裂合併又ハ二筆以上合併ニ係ルモノ反別定方

一類地ニシテ荒地成潰地成地目變換其他段別地目ノ異動ニ係ルモノ及ヒ一類地中ニ孕在

明治十九年十二月 縣令甲第三十四號

收稅

スル二類地ヲ開墾スルモノ其一筆ヲ分裂合併又ハ二筆以上合併ヲ爲ス場合ニ於テハ其分裂ニ係ルモノハ殘地ヲモ丈量シ合筆ニ係ルモノハ全部ヲ丈量シテ反別ヲ定ムヘシ

○第一節 地所合併分裂増減表差出方 明治十八年四月 郡役所

地所合併分裂賣買讓渡等ニヨリ反別地價地租増減相立候分差出方 明治十二年本縣丙第百號ヲ以テ相達置候處更ニ別紙之通取調本年ヨリ一ヶ年分取纏メ翌年一月六日限り可差出ニ此旨相達候事 (十九年十二月縣令)
(丙第二十九號更正)

但本年一月ヨリ三ヶ月迄ノ分ハ本月三十日限可差出事
(別紙畧之)

●第八款

畦畔ハ本地ノ地種ニ編入取調方 明治十一年七月 乙第六十九號

畦畔ノ儀ハ該田畑ニ離ルヘカラサルモノニ付本地ノ地種ニ編入券面外書ニ步數登記可致既ニ改正ノ際畦畔ヲ算セス丈量濟ノ分ハ漸次改正候様主務省達ノ次第モ有之ニ付先以荒地起返及開墾錄下季明ノ分昨十年第八號公布第八條ニ準シ一筆限帳指出候節本地反別ノ外書ニ何歩畦畔ト認メ可指出既ニ檢査濟ノ分ハ稅額伺出ノ節同様可取調此旨布達候事
(十一年七月乙第七十號ヲ以テ二字挿入)

但甲乙畦畔連接イヌシタル分ハ舊慣モ可有之ニ付雙方立合不都合無之様取調ノ上運署ヲ以テ可申立事

○第一節

一筆内ニ孕在セル溜池井溝ノ類本地質入書入ヲナストキ本地ト共ニ質書入ヲナサシムル様注意方

明治十九年一月 郡役所
號外達 戶長役場

耕地一筆内ニ孕在セル溜池井溝ノ類地券ノ内外ハ固ヨリ本地ト離ルヘカラサルハ從來ノ慣行ニシテ又本地ノ爲メニハ必要ノモノニ有之候處中ニハ該溜池井溝ノ類ヲ除キ單ニ本地ノミ質入書入ト爲スモノ之アルヤニ相聞ユ然ルニ若シ本件ノ類負債主辨償ノ義務ヲ怠ル等ヨリ民事ノ裁判ヲ仰クニ至ラハ唯其本地ノミ債主ノ所有ニ歸シ爲メニ灌漑等ノ利便ヲ失シ終ニ本地ヲ維持シ得サルノ不幸ヲ來スヘキ恐レナシトセス依テハ自今地券ノ内外書ニアルモノハ必ス本地ト共ニ書入質入ノ約束ヲ爲サシムヘキ様篤ク注意シ從來ノ慣行ヲ完カラシムル様取計フヘシ此旨相達候事

●第九款

公立學校敷地免稅ニ付一筆限取調方 明治十三年一月 乙第十號

昨十二年第四十號公布教育令第二十六條ニ據リ公立學校敷地ニ限リ地種ハ民有地第一種ノ儘ニテ容年九月ヨリ免稅候條減租ノ儀一筆限リ取調來ル二月十日迄該郡役所ヘ可差出郡役所ニ於テハ郡内取纏メ同月十五日迄ニ無相達可差出此旨布達候事
但本文日限迄ニ不願出分ハ公立學校敷地無之モノト見做シ其筋ヘ及稟儀候條此旨可相心得事

●第十款

公立學校敷地免稅方 明治十三年二月 乙第十七號

公立學校敷地ニ限リ免稅ノ儀本年乙第十號達ノ次第有之處右ハ學校構内ノ土地ニシテ全

取稅

設立有之モノニ限リ取調候儀ト可相心得尤客年九月以後新ニ設立スルモノハ其設立セシ月ヨリ免稅ノ儀ト可相心得此旨布達候事

但爾后建設ノモノハ其都度可申出事

●第十一款

有稅山林原野開墾出願方

明治十二年十二月乙第二百十二號

有稅地山林原野ヲ田畑宅地ニ開墾願ノ儀是迄調向區々ニテ取調差問候條自今別紙雜形ニ照準可願出此旨布達候事

(別紙雜形略之)

●第十二款

山林原野等開墾下年季々明繼年季出願ノ素地相當地價ヲ定メ課稅ノ件

明治十三年六月乙第九十號

山林原野等ノ土地開墾ノ爲メ地租改正前下年季付與無稅据置ノ分該地季明ニ至リ尙熟地ニ至ラス繼年季出願ノモノハ近傍類地ニ比較素地相當ノ地價ヲ定メ年季中ハ原地目ニ據リ課稅候條此旨布達候事

但客歲滿季ノ分ヨリ本文ノ通相心得可申事

●第十三款

一筆ノ土地幾部分開墾其他分裂ニ係ルモノ地價算出方

明治十九年七月甲第二十號

一筆ノ土地ニシテ幾部分ヲ開墾スルモノ其他分裂ニ係ルモノ、地價算出ハ明治十七年五月

本縣乙第四十三號布達地目變換屆書中分裂變換地ノ例ニ據ルヘシ但賣買讓與等ノ爲メ分裂スルモノハ此限ニアラス

右布達ス

●第十四款

民有開墾地荒地及低地等年期明ニ係ル願書類差出期限

明治十九年十月縣令甲第十三號

郡役所

民有開墾地荒地及低地等年期明ニ係ル願書類ハ自今滿期ノ翌年一月三十一日限リ差出ス

●第十五款

官地成潰地成等免稅出願方

明治十三年二月乙第十八號

官有地成潰地成其他免稅願ノ儀是迄調向區々ニテ取調方不都合ニ候條自今別紙雜形ニ照準可願出此旨布達候事

(別紙雜形略之)

●第十六款

新規下渡地荒地年季明起返地賦稅出願方

明治十二年七月乙第二百二十九號

新規下渡地並荒地年季明起返地賦稅方願ノ儀是迄調向區々ニテ調理差問候條自今別紙雜形ニ照準可願出此旨布達候事

(別紙雜形略之)

收稅

荒地繼年
期書式
八十五年
十月乙第
九十一號
止以テ廢

第十七款

荒地免稅開墾地畝下年期明賦稅及荒地開墾地繼年季願書式

明治十五年十月
乙第九十一號

荒地免稅開墾地畝下年期明賦稅及荒地開墾地繼年季願書式別紙甲乙丙丁雛形ノ通相定メ候條自今出願ノ節ハ右ニ照準取調ヘシ此旨布達候事

但十二年七月乙第二十九號達ノ内荒地繼年季願書式ハ自今廢止メ
(書式畧之)

○第一節 荒地潰地減稅及新規賦稅願ヘ檢印押捺方
荒地潰地減稅及新規賦稅其他民地ニ關スル分臺帳ヘ突合員數ノ部ヘ主任ノ書記檢印ノ上差出方客年丙第百二號ヲ以相達置候趣モ有之ニ付テハ新規拂下地其他賦稅願方同年乙第百二十九號達雛形中類地比較反金ノ廉エモ同様無洩臺帳ヘ突合反金調査ノ上檢印ヲ捺シ差出候儀ト可相心得此旨相達候事

第十八款

地券臺帳下渡ニ付取扱方
明治十二年四月
丙第百貳號 郡役所

今般地租改正事務局乙第三號達ニ付地券臺帳可下渡ニ付テハ自來荒地潰地等減租及新規賦稅ノ儀村方申立其他民地ニ關スル分開申ノ節左ノケ條ノ通可取扱此旨相達候事
第壹條 荒地潰地買上地減租ノ儀申立候節一筆限リ地目字番號反別地價地租共臺帳ヘ突

但地價金不相當ト認ムルモノハ適當候様訂正可爲差出事

第四條ハ
第十八號
第九十七
依
消滅

合候上員數ノ部ヘ主任ノ書記認印ヲ押シ確マル儀ヲ証シ可差出事

第貳條 荒地起返賦稅申立候節第一條同様尤起返ノタメ舊稅ヘ復シ兼候分ハ類地何番何字反金何程ヘ比準トノ儀付箋スヘシ

但地租改正前ノ荒地ニテ舊稅盛付無之分ハ第三條ノ通タルヘシ

第三條 拂下地畝下地年期明賦稅申立候節ハ字番號反別等最前願濟ヘ突合反別増減相立候分等明記シ是又員數ノ部ヘ主任ノ書記認印ヲ押シ可差出尤類地何字何番地ハ比準トノ儀付箋スヘシ

第五條 總テ民地ニ關スル願同等ハ臺帳ヘ突合員數ノ部ヘ主任ノ書記認印ノ上差出スヘシ

○第一節 地租條例制定ニ付地券新規下渡及書
換ノ都度地目更正并現地名稱記載方
明治十八年三月 郡役所
丙第五十九號

明治十七年第七號公布第三條ニ於テ有租地ノ地目ヲ被定候ニ付テハ爾來地券新規下渡及書換ノ都度該條ニ掲グル所ノ地目ニ更正シ尙ホ地番號ノ下ニ朱字ヲ以現地ノ名稱ヲ附記スヘシ此旨相達候事

○第二節 田畑成畑田成宅地成或ハ荒地繼年季又ハ隱居持續等地券ヘ記
入出願ノ節券狀及臺帳ヘ檢印押捺方
明治十二年十月 郡役所
丙第二百三十五號

田畑成畑田成宅地成或ハ荒地繼年季又ハ隱居持續等地券ヘ記入願出候節總テ朱字記入ノ分券狀臺帳トモ郡長小印ヲ捺捺可致此旨相達候事

取稅

○第四節 券狀水火盜難紛失遺失等ニテ書換ノ節事由記載方

明治十二年五月 郡役所

本年地租改正事務局乙第三號達地券取扱順序第二項削除候旨同局乙第五號ヲ以テ達相成

候ニ付テハ水火盜難紛失遺失等ニテ地券書換候節臺帳ヘノミ事由記入可致此旨相達候事

○第五節 地券狀紛失遺失等ノ節 明治十三年三月 町村戸長

地券狀紛失或ハ遺失等ノ節届書可差出答ノ處中ニハ所轄警察署又ハ分署ヘノミ届出候分

有之不都合ニ付自今必ス本廳ヘモ届出候様可致此旨相達候事

●第二十款 公賣處分ヲ經タル地所又ハ地券書換ノ訴件

ニ付無効トナリタル地券還納處分方

明治十六年五月 郡役所

地券書換ノ儀ニ付大藏省本年第七號ヲ以別紙ノ通達相成候條右達ニ照準可取扱此旨相達

候事

(別紙)

第七號

府 縣

地稅不納及ヒ賍金追徵民事身代限等凡ソ法律上公賣處分ヲ經タル地所又ハ地券書換ノ
訴件ニ付該裁判確定シタルモノ、地券書換願書ハ舊所有者ノ連署ヲ要セス候條買受人
若シクハ權利者ヨリ其證左ヲ添付シ戸長與印ノ上出願候ハ、書換下付シ舊所有者所持

ノ地券ハ無効ノ旨命令シテ還納セシムヘキ儀ト心得ヘク此旨相達候事

但從前ノ達指令等本文ニ抵觸候分ハ廢止トス

明治十六年二月一日

○第一節

法律上無効トナリタル地券還納ノ命令ニ服從セサルモノアルハ

明治十七年二月

郡役所

地稅不納及賍金追徵其他法律上公賣處分ヲ經タル地所又ハ地券書換ノ訴件ニ付裁判審理
ノ末無効トナリタル地券還納方命令スルモ服從セサルモノ有之ハ其不當ナル理由ヲ說
明シ該地券還納方所轄警察署又ハ分署ヘ照會スヘシ此旨相達候事

●第二十一款 公立學校構内ノ土地々券へ地價記入ニ付

地價取調方

明治十三年三月

乙第四十二號

明治十二年太政官第四十號公布教育令第二十六條ニ據リ公立學校構内ノ土地免稅候ニ付
右ニ係ル地方稅ハ賦セサル儀ト可相心得且容年九月以後新規下渡候敷地券面へ地價記入
シ免稅ノ儀記載可下渡儀ニ付隣地比較宅地相當ノ地價取調來ル四月十五日迄可申出此旨
布達候事

但右公布以前ニ係ル分モ取調減稅記入方該郡役所ヘ可願出事

○第一節 公立學校構内ノ土地々券へ免稅及地價地租等記載方

明治十三年三月 郡役所

丙第八十三号

收稅

公立學校構内ノ土地々券へ事由記入可下渡旨本年本縣乙第四十二號ヲ以布達候ニ付テハ客年九月以後新規下渡置候分地價調査相濟次第可下渡候間券面へ地價ノミ記入シ地租ノ左鄣へ但免稅ト記載郡長捺印候儀ト可相心得最其以前ニ係ル分ハ地價地租トモ掲記但明治十二年九月ヨリ免稅ト記載シ前項同様捺印可致此旨相達候事

第六十章 所得

第一款 所得稅調查委員撰舉及委員會細則 明治二十年六月 縣令第五十四號

第一章 撰舉

第一條 所得稅調查委員及其補缺員ノ員數ヲ定ムルコト左ノ如シ

南村山郡	調査委員	七人	補缺員	五人
東村山郡		七人		五人
西村山郡		七人		五人
飽海郡		七人		五人
西田川郡		七人		五人
東置賜郡		七人		五人
南置賜郡		七人		五人
北村山郡		五人		三人
最上郡		五人		三人

東田川郡	全	五人	全	三人
西置賜郡	全	五人	全	三人

第二條 撰舉ヲ分テ町村撰舉及調査委員補缺員ノ撰舉トス

第三條 町村撰舉人ヲ撰舉セントスルハ郡長ニ於テ町村撰舉ノ區域町村撰舉人ノ員數及其資格ヲ有スル者ノ住所姓名ト撰舉ノ投票ヲ爲スヘキ日時ト場所トヲ定メ少クモ十日以前ニ之ヲ郡内ニ公告シ同時ニ投票用紙ヲ付與スヘシ

調査委員及補缺員ヲ撰舉セントスルハ郡長ニ於テ其資格ヲ有スル者ノ住所姓名ト投票ヲナスヘキ日時ト場所トヲ定メ少クモ十日以前ニ之ヲ郡内ニ公告シ同時ニ投票用紙ヲ撰舉人ニ付與スヘシ

第四條 撰舉人ハ郡長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及被撰舉人ノ住所氏名ヲ記シ豫定ノ日時ニ之ヲ郡長ニ差出スヘシ郡長ハ其投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰人トシ同數ナラハ年長ヲ取り同年ナラハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ケナシ

第五條 投票終ルノ后郡長ハ撰舉人及被撰舉人名簿ニ就キ投票ノ當否ヲ查シ若シ法ニ於テ不當ナルカ或ハ當撰人正當ノ事由アリテ自ラ其撰ヲ辭スルハ投票ノ多數ヲ得タル者ヨリ順次之ニ充ツ

第六條 調査委員缺員ヲ生シ補缺員ヲ以テ之ニ充ツルトキモ前項ニ同シ

取稅

但當撰人受書ヲ出シタル後郡長ハ其氏名ヲ郡内ニ公告シ同時ニ縣廳ニ申報スヘシ

第二章 委員會

第七條 調査委員會ハ毎年六月之ヲ開ク其會期ハ十日以内トシ開會期日ハ郡長之ヲ定ムヘシ

但開閉共其都度縣廳ニ申報スヘシ

第八條 調査委員會ハ郡役所内ニ於テ之ヲ開ク

第九條 開會中ハ所得稅調査ニ關スル者ノ外入場スルヲ得ス

第十條 調査委員會ノ書記ハ郡吏員ヲ以テ之ニ充ツ書記ハ會長ノ指揮ニ從ヒ委員會ノ庶務ヲ掌ル

第十一條 所得高ノ當否ハ納稅者一人毎ニ議決シ調査委員會議定ノ印章ヲ捺捺スヘシ

第十二條 前條ノ議定書類ハ左ノ書式ニ倣ヒ調査委員會決議ノ旨ヲ記シタル書面ヲ添ヘ便宜之ヲ纏綴スヘシ

第十三條 調査委員中疾病其他ノ事故アリテ缺席スルトキハ郡長ニ届出ツヘシ

但缺席者人名及日數ハ郡長ヨリ縣廳ニ申報スヘシ

附則

本年ニ限リ第七條ノ會期ハ十二月トス(二十年九月縣令)

(用紙美濃野)

所得高決議書

一金何千何百圓

右ハ明治何年分本郡何町村何某外何人所得高調査ヲ遂ケ別冊ノ通議定ス

何郡所得稅調査委員會

會長 何郡長 氏 名 □—官印

委員 全 ○—實印

全 ○

全 ○

第六十一章 酒造

第一款 酒造營業者取締規則 明治十七年四月乙第三十六號

第一條 酒もと検査ヲ受ケスシテ造込ヲ爲スヘカラス

第二條 不用ノ酒もと同業者へ賣渡サントスルキハ其事由申出検査ヲ受クヘシ (十八年乙二月修正)

第三條 醪ノ検査ヲ受ケスシテ槽掛ケシ又ハ検査既済未済ノ醪ヲ混同スヘカラス

第四條 醪ハ一ト仕舞毎ニ分界ヲ爲シ搾リ上ケ製酒ノ検査ヲ受クヘシ (同上但書トモ更正)

但仕舞數ヲ合シテ搾ラントスルキハ其事由申出検査員ノ指揮ニ從フヘシ

第五條 酒類ノ火入滓引等ハ造石検査ノ后ニアラサレハ之ヲ爲スヘカラス

第六條 酒糟ヲ再ヒ搾リ上クル(俗ニ二番酒ト唱ヘ煮)モノ又ハ燒酎製造ノ元ニ供スル品(物等ニ用ユルモノ)

收稅

類ハ檢査ヲ受クヘシ

第七條 酒類ヲ粕漉ニスルキハ前以テ届出檢査ヲ受ケ尙製成ノ上再度檢査ヲ受クヘシ

第八條 酒類ヲ買受ケタルキハ其石高及代價等詳記シタル仕切書又ハ送り狀等ヲ取置ク

ヘシ

第九條 酒造ニ關スル諸帳簿ハ其時々明瞭記載スヘシ

但紛失等シタルキハ新調ノ上其旨直チニ届出ヘシ

第十條 此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ處分セラレヘシ

●第二款 酒造營業人心得書 明治十七年十月

第一項 酒造營業ヲ爲サントスルモノハ酒造稅則ヲ遵守シ左ノ條項ニ從フヘシ

第二項 新ニ營業ヲ爲サントスルモノハ第一號書式ニ倣ヒ管廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
(十八年九月乙第百六) 號ヲ以テ八字挿入

但免許鑑札ハ酒造場一ヶ所毎ニ之ヲ受クヘシ

第三項 酒造場ハ建物ノ棟數ト製酒ノ種類トヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一ヶ所トスヘシ

但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルニ止ルモノ

ハ酒造場ノ附屬トスルヲ得ヘシ

第四項 酒造免許人ハ酒造場區域内ニ於テ酢及酒もとノ販賣不相成ハ勿論假令懸隔ノ場

所ナリトモ兼業不相成儀ト心得ヘシ

第五項 免許鑑札ハ一期有效ノモノトス故ニ引續キ營業ヲ爲サントスルモノハ翌期十月

一日迄ニ第二號書式ニ倣ヒ鑑札相添ヘ願出ヘシ (十八年九月乙第百六號八字挿入)

但期限ヲ過キ願出ルモノハ第二項ニ準據スヘシ

第六項 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出

テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

第七項 免許鑑札賣買讓與ノ節甲乙兩管廳ニ交渉スルキハ双方連署ノ書面ヘ免許鑑札ヲ

添ヘ甲管廳賣渡讓渡人ノ酒ニ申出添翰ヲ受ケ鑑札書換方乙管廳買受讓受人ノ酒ニ願出

ヘシ

第八項 酒造場ヲ轉換スルキハ稅則第七條ニ準據シ鑑札書換ヲ請フヘシ若兩管廳ニ交渉

スルキハ前項ノ手續ニ從フヘシ

第九項 廢業ノ節ハ速ニ届出免許鑑札ヲ返納スヘシ

第十項 營業免許ヲ受ケタルモノハ稅則第二十六條及第二十七條ニヨリ一期造酒見込ノ

種目石數造リ方法諸器械トモ第一號ヨリ第三號迄ノ書式ニ倣ヒ酒造場ノ建物ハ一ヶ所

毎ニ其實況詳細ノ繪圖面并調書ヲ調製シ免許ノ後五日限り届出ヘシ

但繪圖面ハ酒造ニ屬スル箇所ハ墨線屬セサル箇所ハ朱線ヲ以テ區別シ且本宅一棟ノ

内ヘ釜場室場ヲ設ケ又ハ槽掛場等ニ使用スルモノハ酒造場トナシ其區域判然相立ツ

ヘシ

第十一項 酒造ニ屬スル建家諸器械ハ該期ノ初メニ當リ詳細檢査スヘクニ付差支無之様

取揃置クヘシ

第十二項 前項届出ノ后増減又ハ變換アルキハ其時々届出ヘシ尤見込石高ノ増減ハ第四號書式ニ倣ヒ調製スヘシ

第十三項 稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ト雖モ一期造酒見込ノ種目石數ハ免許後五日限届出ヘシ

但造リ方法ハ免許願書ニ添ヘ差出シ變換ハ其時々届出ヘシ

第十四項 第十項造酒ノ種目トハ清酒濁酒焼酎酒再溜酒精白酒味淋銘酒ト其種目毎ニ掲記スル義ト心得ヘシ

但銘酒中直シ酒保命酒桑酒養老酒菊酒紫蘇酒等各其酒名アルモノハ分記スヘシ

第十五項 戸外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ酒造場一ヶ所毎ニ調製シ該期製造見込ノ種目石數ヲ記載スヘシ其石數ヲ増減シ種目ヲ變換シタルキ其時々紙札ヲ貼付シ之ヲ更正スヘシ

但製造石高悉皆検査濟ノ上ハ其石數ニ更正スヘシ

免許鑑札番號

第何號

清酒 何石造

寸法 罎巾曲尺三尺横巾ハ酒類ノ數ニヨリ適宜

白酒 何石造

何府郡町番地
何縣區村番地
何

某

番號ハ免許鑑札ノ番號ヲ記スヘシ

酢元用酒類ハ酢元用ノ三字ヲ冠テシ銘酒其酒名ヲ一々列記スヘシ

第十六項 醗醪仕込桶遣ヒノ順序及仕込桶遣ヒノ順號ハ第五號書式ニ倣ヒ着手以前差出

スヘシ尤變換アルキハ其時々届出ヘシ

但清酒外ノ酒類モ本項ニ準據スヘシ

第十七項 酒桶藝類ハ新製修繕ヲ問ハス左ノ方法ニヨリ容量取調第六號書式ニ倣ヒ速ニ

検査願出ヘシ

但藝類ノ本項ニ準據シ難キモノハ便宜適實水ヲ量リ入レニ取調フヘシ其容量ヲ知ル

酒造桶側面掲記法

番號 何程

口徑 何程

胴徑 何程

底徑 何程

深サ 何程

收稅

石數 何程

調查年月日
調查員官姓名

酒造桶丈量法

口徑 口頭ヨリ一寸 胴徑ノ中央 底徑ノ筒所 孰レモ内測リニテ縦横⊕圖ノ如ク度リ此縦横
下リタル筒所 中央 底徑ノ筒所 孰レモ内測リニテ縦横⊕圖ノ如ク度リ此縦横
徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前後左右中心等孰レモ底面ヨリ口徑
迄ノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ムヘシ

但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ

算則

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乗シ甲トス

胴徑ト底徑ノ和ヲ自乗シ乙トス

口徑ト底徑ノ和ハ胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇〇四〇三八四四 乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度
ヲ乘シ之ヲ二ニテ除シ其容量ヲ得ル

但石數ハ合位ニ止メ以下切捨ツヘシ

第十八項 桶甕及酒槽男柱蒸溜器械等ノ類番號ハ酒造場一ヶ所毎ニ起號シ桶甕搾器蒸
溜器械ノ數ニ應シテ其順次ヲ定ムヘシ尤其他ノ諸器械ハ番號ヲ附スルニ及ハスト雖モ
管應ノ烙印ヲ捺シ得ラルヘキモノハ之ニ烙印ヲ受クヘシ

但甕類ノ番號石數等ハ木札ニ書載シ之ヲ正面ニ附シ置クヘシ

第十九項 粕桶水桶米浸桶ノ類ニシテ全ク酒類ヲ容レサルモノハ丈量ニ及ハスト雖モ番
號ハ桶甕類ノ順號ヲ逐ヒ記載スヘシ

但酒造場内ニ於テ酒類ヲ容ル、桶甕類ハ都テ丈量ノ検査ヲ受クヘシ

第二十項 桶甕類ハ調査簿甲乙二帳ヲ製シ甲帳ハ管應ニ供ヘ乙帳ハ營業者ニ下附シ置キ
増減ノ都度検査員ニ於テ之ヲ加除スルヲ以テ營業人ハ之レニ調印スヘシ

第二十一項 調査簿ノ桶甕類及諸器械ヲ賣買讓與貸借又ハ返却スルキ桶甕及搾器蒸溜
器械ノ類ハ其番號他ノ器械ハ其品目員數等ヲ記載シ双方連署ノ書面ヲ以テ其旨申出テ
番號及帳簿等ノ訂正ヲ受ケタル后之ヲ授受スヘシ

但解破スルモノハ其時々届出ヘク尤造酒着手後ナレハ造石稅完納濟ノ旨ヲ記載スヘ
シ

第二十二項 造^搾溜^器器械ニ封緘ヲ受ケタルキハ第七號書式ノ請書ニ調印スヘシ

第二十三項 封緘セシ器械ヲ使用又ハ洗滌修繕スルキハ日數ヲ豫定シ其旨申出解封ヲ請
フヘシ

第二十四項 解封又ハ封緘ヲ受ケタルキハ其都度請書ヘ年月日并日數等記入調印スヘシ

第二十五項 封印ハ毀損又ハ解離汚染等セサル様常ニ注意シ若シ過誤等ニテ毀損等シタ
ルキハ其理由詳細記載シタル書面ヲ以テ再封ヲ乞フヘシ

第二十六項 器械封緘中賣與讓與貸與又ハ返却解破等ヲナストハ第十九項手續ニ據リ届

收稅

出解封ヲ請フヘシ

第二十七項 造酒季節中ハ管内チ區畫シ派出所ヲ設ケ検査員ヲ派遣スヘキニ付營業免許願見込増減石屑廢棄届ヲ除クノ外都テ酒造ニ關スル願届等ハ該所ヘ差出スヘシ尤區畫及派出所ノ地名ハ其都度告示スヘシ(十七年十二月乙第百廿九號ヲ以テ六字挿入)

但検査員派遣前又ハ引拂後ニ係ルモノハ管廳ヘ差出スヘシ

第二十八項 醗立并醗仕込又ハ蒸溜等當期最初ノ着手期日ハ前以テ届出ヘシ

第二十九項 酒醗燒酎ノ元粕味淋及醗ハ熟成ノ期日ヲ豫定シ前以テ申出検査ヲ受クヘシ

但検査以前ニ於テハ酒醗ヲ使用シ醗ヲ搾リ揚クルハ勿論検査既済ノ醗ヲ混同スヘカラス

第三十項 醗ハ一ト仕舞毎ニ分界ヲ爲シ搾リ揚ケ製酒ノ検査ヲ受クヘシ若シ仕舞數ヲ合シテ搾ラントスルキハ豫メ其旨申出テ検査員ノ指示若クハ承認ヲ受クヘシ

第三十一項 製酒ハ搾リ揚ケノ當日ニ至リ第八項書式ニ倣ヒ必ス申出検査ヲ受クヘシ尤検査員臨時出張ノ場合ニ於テ若シ申出ヲ怠リタルモノト視認ルキハ其事由ヲ告ケ直チニ検査スルモノトス

但濁酒及白酒等醗ノ儘造石高ヲ査定スルモノト雖本項末段ノ通検査スルモノトス

第三十二項 糟ヲ貯蓄致シ置キ其汁液ヲ再ヒ搾リタルモノハ(俗ニ二番酒ト唱ヒ羨)清酒同様に心得ヘシ

第三十三項 造石検査ヲ受クヘキ酒類ハ桶甕等口頭ヨリ一寸ヲ減シ側面記載ノ石數ヲ入

置クヘシ若シ其石數ニ滿タサルモノハ現在ノ入實ニ就キ左ノ方法ニ據リ査定スルモノトス

端桶石數算法

入實胴經ヨリ以上ニアルキハ其容積面ノ直經ヲ底經ト假定ス(此底經ヲ求ムルニハ口

ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之(十八年十一月乙第)ノ口經ヨリ減シテ假定ノ底經トス(百二十四號更正)

假定ノ底經ト口經トノ和ヲ自乘シ甲トス(同)

假定ノ底經ト口經トヲ相乘シ乙トス(同)

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四(乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度

下準チ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル(同)止メ尺位チ一位トシ以

入實胴經ヨリ以下ニアルキハ其容積面ノ直經ヲ口經ト假定ス(此口經ヲ求ムルニハ入實

ヲ假定ノ口經トシ入實胴徑ニ滿タサルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ口經ニアルモノハ其胴徑

ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口經トス

假定ノ口經ト底徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及〇〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得

第三十四項 酒類ノ火入滓引ハ造石検査ノ後之ヲ爲スヘシ

第三十五項 検査ノ節ハ酒造ニ關スル建物及諸器械ハ勿論時宜ニヨリ其他ノ場所ト雖正

點檢スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ營業人ニ若クハ代理人於テ先導ヲナスヘシ

收稅

第三十六項 検査員携帯ノ造石検査簿ハ醜醜製酒等検査ノ都度記入スルモノトス營業人ハ請印トシテ之レニ調印スヘシ(二十年十月縣令第七十九號更正)

第三十七項 古酒并買入酒ヲ所持スルモノハ期節ノ初メニ於テ現在ノ石數検査ヲ受クヘシ

第三十八項 買入タル酒類ハ石數及買入先ノ住所氏名ヲ記載シ其都度届出ヘシ
但本項買入ノ際ハ仕切書又ハ送り狀等取置キ検査ノ節参照ニ供スヘシ

第三十九項 検査濟ニ係ル酒類及古酒買入酒等ハ検査員隨時出張現在石數検査スルヲアルヘシ

第四十項 不用ノ酒醜ヲ同業者ヘ賣渡サントスルキハ双方運器ノ書面ヲ以テ申出検査ヲ受ク可シ

第四十一項 二ヶ所以上免許ノ者甲ノ酒造場ニテ製造シタル醜醜ヲ乙ノ酒造場ヘ移サントスルキハ前以テ其旨届出検査員ノ指示ヲ受クヘシ

第四十二項 營業上ノ都合ニヨリ未製成ノ酒類ヲ販賣セントスルトキハ其旨申出テ検査ヲ受ケ税則第二條ノ類別ニヨリ造石税ヲ納ムヘシ
但若賣買同業者ニ係ルキハ双方運器ノ書面ヲ以テ届出テ検査ヲ受ケ其造石税ハ買受者ニ於テ納ムヘシ

第四十三項 造石税納期以前免許鑑札ヲ賣與讓與シ又ハ廢業セントスルモノハ検査濟酒類ニ係ル造石税ハ其節一時ニ之ヲ完納スヘシ

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニアラサル者ヘ賣渡ス場合ニ於テハ本項ニ準スヘシ

第四十四項 検査濟ノ酒類並買入酒等ヲ粕漉ニセントスルキハ前以テ申出テ検査ヲ受ケ尙製成ノ上更ニ検査ヲ受クヘシ
但製成ノ上原石數ヨリ超過シタルキハ其増石數ニ係ル造石税ヲ納ムヘシ

第四十五項 検査濟ノ酒類并買入酒等ヲ變製セントスルキハ其種目石數及變製方法等ヲ詳記シ前以テ申出テ検査濟ノ后着手スヘシ尤變製ノ上ハ更ニ検査ヲ受ケ其石數ニ係ル造石税ヲ納ムヘシ

第四十六項 税則第十六條非常ノ損害ニ罹ル酒類アル場合ニ於テハ其實況ヲ詳記シ速ニ申出テ検査ヲ請フヘシ

第四十七項 前項検査ノ上其再製シ得ヘキモノハ第四十一項ノ手續ニヨリ申出ヘシ其再製シ得サル者及廢棄セントスル者ハ其旨ヲ詳記シタル書面ヲ差出検査員ノ認許ヲ得ヘシ
但本項末段ノ酒類ヲ酢元等ニ販賣セントスルキハ其所用ヲ明記シ買主運器ノ上届出スヘシ

第四十八項 税則第十八條造石税免許ノ酒類ハ造石検査ヲ受クルニ及ハスト雖モ検査員隨時出張検査スルヲアルヘシ
但一期中製造シタル種目石數ハ翌期十月十日限り届出ヘシ

第四十九項 一期中製造酒類ハ税則第十一條ニ據リ八月三十一日限り製成酒ノ檢了ヲ受

收税

クヘシ

第五十項 十六年第四十二號公布第三項ニ據リ届出ヘキ製酢ハ製成ノ上直ニ届出ヘシ

但本項ノ製酢ハ勿論他ノ種類ヲ以テ製造シタル酢ト雖モ検査員隨時出張點檢スルヲ

アルヘシ

第五十一項 營業人ハ左ニ掲クル帳簿ヲ調製シ其時々遺漏ナク記入シ造酒檢査ノ際参照

ニ供スヘシ

但左記ノ外酒造一般ニ關スル諸帳簿ハ便宜調製スヘシ

第一 酒造米元帳

此帳簿ニハ蒸麴ニスヘキ白米ノ洗滌及杜氏雇人ヘ飯米等受渡ノ際ニ於テ其石數及

年月日ヲ記入スルモノトス但書式ハ第九號雛形ニ倣フヘシ

第二 仕込帳

此帳簿ニハ酒醎ハ蒸米麴米汲水醱仕込ハ醎ノ米水及添中留ノ蒸米麴米汲水等仕込

順號ヲ逐ヒ其數及年月日ヲ記入スルモノトス但書式ハ第十號雛形ニ倣フヘシ

第三 蒸溜帳

此帳簿ニハ燒酎及酒精等蒸溜ノ際釜數及元粕ノ斤量^{實數以下}之ニ倣フ酒類ノ石數ヲ記入ス

ルモノトス但書式ハ第十一號雛形ニ倣フヘシ

第四 酒粕目方帳

此帳簿ニハ每一回搾リ揚ケノ斤量ヲ記シ賣買ハ斤量及年月日住所氏名モ記入スル

モノトス但書式ハ第十二號雛形ニ倣フヘシ

第五 酒藏出帳

此帳簿ニハ古酒買入酒及新酒等卸小賣ハ勿論自家用料共日々倉庫ヨリノ出高及年

月日ヲ記入スルモノトス但書式ハ第十三號雛形ニ倣フヘシ

第六 酒賣上帳

此帳簿ニハ卸賣ハ其石數代金及年月日買入ノ住所氏名現金賣ハ其石數代金ヲ日計

シ記入スルモノトス尤モ貸賣ニ係ルモノハ口分ケ又ハ別帳ヲ製シ之レニ準シ記入

スヘシ

第五十二項 酢元用酒類製造者ハ前項第二仕込帳ノ外酢造仕入帳ヲ調製スヘシ尤他ヨリ

買入タル酒類及他ノ種類ヲ以テ製造スルキハ彼是混同セサル様各別ニ記載スヘシ

第五十三項 營業上代理者ヲ置クキハ酒造ニ關スル一切ノ事ヲ熟知シタル者ヲ撰定シ委

任狀寫ヲ添ヘ双方連署ノ書面ヲ作り届出ヘシ

但幼少其他事故アリテ後見人ヲ置クキハ委任狀ヲ附與スルノ限リニ非スト雖モ後見

人ニ事故アリテ代人ヲ置クキハ後見人ヨリ本項ニ據リ委任狀ヲ附與スヘシ且代理者

ハ先キニ酒造稅ニ關シ公賣處分ヲ受ケ税金官損ニ歸シタルモノハ代人ト爲スヲ得

ス

第五十四項 検査員ハ検査印章ヲ携帯スヘキニ付請求ニヨリテハ之ヲ示スヘシ

第五十五項 酒醎ハ検査濟ト否トヲ問ハス醱及清酒ハ検査未濟ノモノハ左記ノ紙札ヲ貼

取稅

付シ又ハ白字ヲ以テ桶側面ヘ記載スヘシ

第一 酒甑ハ坪臺桶ニ移シタルキ其坪臺桶ニ配立ノ順號及月日ヲ一個毎ニ記載スヘシ

第何號

何月何日

第二 醪仕込ノ際枝桶ヲ使用スルハ添中留ニ拘ハラス其枝桶ニハ甲號ノ通記載シ仕込濟即チ口打セルモノハ乙號ノ通記載スヘシ

甲 第何號仕込

乙 第何號仕込

何月何日留

第三 清酒ハ一ト槽搾リ揚ケタル度毎ニ其搾リタル醪ノ仕込順號ヲ記載スヘシ

清酒 第何號搾リ

第四 酢元用酒類製造者ニシテ其酒類ヲ以テ酢ヲ製造シタル時ハ甲號ノ通記載シ酒粕其他ノ種類ヲ以テ酢ヲ製造シタルトキハ乙號ノ通記載シ區別判然メラシムヘシ

收稅

形第六月十八
增二第乙年
加號一第百九
離號以百九

甲 第何號何月何日留
酒類元製酢

乙 第何號何月何日留
酒粕其他種類元製酢

第五十六項 検査濟ノ酒甑數個ヲ一桶ヘ合併シ其幾分ヲ漸次使用スルモノ其殘石數ヲ判然ナラシメン爲メ配何個何分何厘ト記載シタル紙札ヲ桶側面ヘ貼付スヘシ
(雛形略之)

○第一節 酒造免許鑑札取扱手續 明治十九年十月 郡役所 縣令乙第八號

明治十七年(九月)本縣丙第二百七十號達酒造免許鑑札取扱手續左ノ通更正ス

酒造免許鑑札取扱手續

- 第一條 免許鑑札ハ十八年(十二月)丙第二百七十二號達ニ依リ豫メ一ケ年度分授與スヘキ員數見積リ收稅長ヘ申出之ヲ受取置クヘシ
- 第二條 免許鑑札記載方ハ別紙第一號雛形ニ依ルヘシ
- 第三條 新規又ハ引續營業願及ヒ賣買讓與改姓名移轉紛失等ニテ鑑札書換又ハ再度出願及ヒ廢業届出ノ節ハ書面ノミ進達シ其添付セル鑑札ハ郡衙ニ留置クヘシ
- 第四條 引續營業願許可ノ分ハ曩キニ留置キタル鑑札ノ裏面ヘ該期ノ免許證印ヲ捺シ再ヒ之ヲ授與シ其新規營業願及ヒ賣買讓與代換改姓名移轉紛失等ノ爲メ書換又ハ再度願許可ノ分ハ第二條ニ依リ新鑑札ヲ授與スヘシ

但引續ノ分ニシテ鑑札裏面余白盡キタルハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ

第五條 前條ニ依リ授與シタル鑑札ノ氏名番號年月日ハ每四ヶ月分取纏メ(五九一)月十五日限り別紙第二號雛形ニ倣ヒ收稅長ヘ報告スヘシ

但引續營業願ノ分ハ此限リニアラス

第六條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲スモノ免許鑑札面ハ誰外何人ト記載シ又會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ頭取ノ名ヲ記載スヘシ

第七條 免許證印ハ像ヲ相渡シ置キタル分ヲ用ユヘシ

第八條 明治十五年第六十一號公布以前ヨリ引續營業ノモノハ甲種トシ該公布以後新ニ營業ノモノハ乙種ト爲シ取扱フヘシ

但乙種ニ授與スル免許鑑札ニハ人名ノ肩ニ乙種ノ二字ヲ記入シ又酢元用酒類ヲ製造スルモノハ酢元用ノ三字ヲ冠スヘシ

第九條 廢業ノ者ハ届出ノ節免許鑑札ヲ返納セシムヘシ

第十條 免許鑑札受拂計算表ハ一ケ年度分取纏メ本年二月丙第三十八號達ノ雛形ニ倣ヒ期限通り收稅長ヘ報告スヘシ

第十一條 廢業並ヒニ書換ニ係ル返納鑑札ハ十八年(十二月)丙第二百七十二號達ノ雛形ニ倣ヒ計算表ト共ニ收稅長ニ送付スヘシ

(雛形畧之)

第三款

酒類受賣及行商取締規則

明治二十年九月

縣令第七十七號

酒類受賣及行商取締規則左ノ通相定ム

但第一條本文ノ届出ハ本年ニ限り十一月一日ヨリ翌年九月三十日マテノ見積高ヲ十月三十日限リトス

酒類受賣及行商取締規則

第一條 酒類 外國製ノ酒類及其攪造ニ係 受賣者及行商者 酒造營業人自己又ハ家族雇人等 外國製ノ葡萄酒麥酒ノ類ヲ除ク 於テ行商ヲナスモノヲ除ク

ハ十月一日ヨリ翌年九月三十日迄一周年間ニ販賣スヘキ酒類ノ見積高ヲ第一號書式ニ倣ヒ毎年九月三十日限リ其區租稅檢査員派出所ヘ届出ヘシ以後増減アル時ハ第二號書式ニ倣ヒ其都度届出ヘシ

但新ニ酒類ヲ受賣スルモノ及行商スルモノハ其都度届出ヘシ

第二條 酒類受賣者ハ左ノ雛形ニ倣ヒ標札ヲ製シ戸外ニ掲出スヘシ

酒類	受賣所	豎三尺
山形縣何國何郡何町村何番地	氏名	巾八寸

第三條 酒類受賣者及行商者ハ左ノ帳簿ヲ製シ其時々明瞭ニ記載シ置キ租稅檢査員臨檢ノ際檢査ヲ受クヘシ

但酒類ヲ買入レタルトキハ代金ノ受取書又ハ送狀等ヲ備置クヘシ

收稅

酒類買入帳

買入レノ年月日酒類ノ名稱石高及代價並買入先ノ住所氏名等ヲ廉毎ニ記入シ毎月小計ヲ附シニケ月目ヨリ小計ノ次へ通計ヲ附スヘシ

酒類賣上帳

賣渡ノ年月日酒類ノ名稱石高及代價等ヲ記載シ毎月小計ヲ附シニケ月目ヨリ小計ノ次へ通計ヲ附スヘシ但卸賣及貸賣ノ分ハ買主ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第四條 酒類受賣者自己又ハ家族雇人等ニ於テ行商スルトキ及行商者ノ家族雇人等ニ於テ行商スルトキハ行商者ノ住所氏名ヲ其區租稅檢査員派出所へ届出ヘシ

第五條 租稅檢査員ハ酒類ヲ販賣スル場所ハ勿論時宜ニ依リ倉庫納屋其他ノ場所ト雖モ檢査スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ受賣者若クハ其代理者案内ヲ爲スヘシ

第六條 此規則ニ背キタルモノハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス
(書式畧之)

第四款

自家用料酒製造者心得方

明治十九年九月
縣令甲第七號

大藏省令第二十七號ヲ以テ自家用料酒製造者心得被定候ニ付テハ該製造者ハ尙ホ左ノ條々ヲ心得ヘシ

但明治十七年十月本縣乙第九十五號布達ハ廢止ス

第一項 自家用料酒ヲ製造セントスルモノハ別紙書式ニ據リ出願スヘシ

第二項 自家用料酒製造者戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ノ通り各自之ヲ調製スヘシ

竪壹尺四寸

明治何年度

自家用料酒何斗何升何合造

二種以上ヲ製造スルモノハ之ヲ

何郡何町村何番地

何ノ誰

併記スヘシ厚サ及木質ハ適宜

第三項 酒造種目トハ濁酒、燒酎、酒精、白酒、味淋酒、銘酒等ヲ云フ

第四項 醬麴ヲ購求セントスルハ販賣人ニ自家用料酒製造免許鑑札ヲ示スヘシ

第五項 自家用料酒製造免許鑑札及造石高等檢査員派出隨時檢査スヘクニ付製造場ハ勿論其他檢査員ノ指揮ニ從ヒ倉庫納屋等ニ至ル迄渾テ案内ヲ爲シ檢査ヲ受クヘシ

第六條 免許鑑札ハ其年(甲年十一月ヨリ乙年九月二十日マテ)一期有効ノモノトス故ニ引續免許ヲ得ント欲スルモノハ最初下附セラレタル鑑札ヲ願書ニ添へ差出シ其鑑札裏面へ該期ノ免許證印ヲ受クヘシ尤モ引續免許ヲ受ケサルモノハ鑑札ヲ返納スヘシ

(書式畧之)

第六十二章 醬麴

第一款

醬麴製造者及受賣者取締規則

明治十七年四月
乙第三十七號

第一條 醬麴製造者ハ醬麴製造帳ヲ調製シ製造ノ時々其月日并蒸米桃米造水トモ無遺漏記載スヘシ

第二條 醬麴製造者ハ前條帳簿ノ外醬麴賣捌帳ヲ製シ卸賣小賣ヲ區別シ受賣者へ卸賣シ

取稅

タルキハ一旦卸賣ノ部ヘ記帳シ每十五日間受買者ニテ需用人ニ販賣シタル分ハ第五條ノ手續ニ依リ記帳スヘシ

第三條 齋麴受賣者ハ齋麴買受帳ヲ製シ買受ノ都度該石數并受先ノ住所姓名及年月日等記載スヘシ

第四條 齋麴受賣者ハ賣上帳ヲ製シ販賣ノ時々該石數及需用者ノ住所姓名及年月日共記載スヘシ

第五條 齋麴受賣者賣上帳ハ每十五日間受先ノ製造者ヘ持參之ヲ贈寫セシムヘシ

第六條 齋麴受賣者ハ齋麴受賣所ト大書シタル看板ヲ戶外ニ掲グヘシ

第七條 此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ處分セラルヘシ

●第一款 齋麴製造營業者心得書 明治十七年十月
齋麴製造營業者心得書別紙之通相定候條此旨布達候事
但明治十六年九月乙第六十七號布達ハ廢止ス

第一項 明治十三年第四十一號布告齋麴製造營業稅則ヲ遵奉シ營業スル者ハ左ノ項々ヲ心得ヘシ

第二項 製造場ハ倉庫ノ棟數ニ拘ハラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ免許鑑札ヲ受クヘシ

第三項 稅則第一條第六條第七條中管廳トアルヲ郡役所ト心得ヘシ

第四項 免許鑑札ハ其年甲年十月一日ヨリ乙年九月三十日マテ一期有効ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ願出ルキハ最初授與セラレタル鑑札ヲ差出シ其鑑札ノ裏面ヘ該期ノ免許證印ヲ受クヘシ但引續營業ヲ爲サントスルモノハ翌期十月一日マテニ願出ヘシ

第五項 稅則第八條戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製スヘシ
寸法 豎幅 曲尺三尺 橫幅 曲尺八寸
「免許鑑札ノ番號

第 何 號
齋 麴 賣 捌 所
山形縣羽前國何郡何町番地
後何郡役所
何 某

第六項 稅則第六條免許鑑札買賣讓與ノ節其書換方若シ甲乙兩郡ニ交渉スルキハ双方連署ノ書面ニ免許鑑札ヲ添ヘ甲郡役所賣渡讓渡人住ニ出願スヘシ甲郡役所ニ於テハ乙郡役所買受讓受人住ヘノ添翰ヲ作り下附スルニヨリ之ヲ乙郡役所ヘ差出シ乙郡役所ヨリ書換鑑札ヲ受クヘシ

但製造場轉換ノ爲メ鑑札書換方兩郡ニ交渉スルモノモ本項ノ手續ニ據ルヘシ

第七項 前項他管廳ヘ交渉スルモノモ前項ノ手續ニ據ルヘシ

收稅

第八項 廢業ノ者ハ其届出ノ節免許鑑札ヲ返納スヘシ

第九項 稅則第五條ノ賣上帳ハ見出シテ付シテ各郡町村ヲ分別シ左記離形ニ倣ヒ販賣スル處ノ醬麴石數及ヒ購求人ヲ日々遺漏ナク記載シ而シテ一ヶ月毎其販賣石數ノ合計ヲ記載スヘシ

但右帳簿ハ營業中之ヲ保存スヘシ

帳簿記載離形

何村ノ部

何月何日

一 何 程

何 某

同 日

何 某

一 何 程

何 某

何月中販賣高

合計何程

第十項 前項ノ帳記ハ購求人携帶スル自家用料酒免許鑑札面ノ住所姓名ヲ記載スヘシ
第十一項 受賣者へ卸賣シタル分ハ一旦卸賣ノ部へ記帳シ每十五日間受賣者ヨリ自用人へ販賣シタル所ノ賣帳ヲ以テ石數人名等報告次第第九項ノ通り記帳尙受賣者何某販賣ノ分ト記載スヘシ

第十二項 稅則第四條見込石數郡役所へ届出タル後ノ増減ハ其時々該部ノ酒造検査員派出所へ届出ヘシ

第十三項 醬麴製造季節中時々検査員出張醬麴仕込米及ヒ諸帳簿並倉庫納屋等ニ至ル迄テ検査スヘキニ付検査ノ際諸事検査員ノ指圖ニ從ヒ検査ヲ受クヘシ

第十四項 醬麴製造帳ヲ調製シ製造ノ時々其月日並蒸米何程糶米何程造水何程ト無遺漏記載致シ置検査ノ便ニ供スヘシ

第十五項 賣上帳ハ成規ノ如ク翌年十一月中其部酒造検査員派出所へ差出シ検査ヲ受クヘシ

第十六項 他ノ依託ヲ受ケ醬麴ヲ代造スル分ト雖モ届石數及ヒ製造帳へ記入スルハ勿論賣上帳へモ該旨ヲ附シ無遺漏記載スヘシ

第十七項 製造ノ醬麴若シ非常ノ災害或ハ腐敗等ニテ販賣難相成分ハ其時々酒造検査員派出所へ届出検査ヲ受クヘシ

第十八項 醬麴製造者ニシテ本人又ハ雇人ヲシテ出賣スルモハ行商帳ヲ製シ之ヲ携帶シ購求者ノ居住姓名及ヒ販賣石高年月日等行商帳へ記載シ歸店ノ上本帳へ登記スヘシ

第十九項 醬麴製造者ハ購求者人名調書ヲ作り毎月(十五日)兩度宛酒造検査員派出所へ報告スヘシ

但報告書ハ賣渡シタル量數及購求者ノ住所姓名等詳細記載スヘシ
第二十項 新規營業願書ノ外該營業上ニ係ル願伺届書へハ同業者之ニ連署スヘシ

取稅

第二十一項 醬麴製造營業者釀造期節中他行スルカ又ハ事故アルキハ代理人ヲ以テ諸事辨セシムル等ノトアルトハ其旨酒造検査員派出所及ヒ郡役所へ届出ヘシ

第三款

醬麴受賣營業者心得書 明治十七年十月

乙第九十七號

醬麴請賣營業人心得書別紙之通相定候條此旨布達候事 但明治十四年一月乙第九號布達ハ廢止ス

醬麴受賣營業者心得書

第一項 醬麴買受帳ヲ製シ買受ノ都度該石數并買主ノ住所姓名及年月日等遺漏ナク記載スヘシ

第二項 醬麴賣上帳ヲ製シ見出シテ付シテ各郡町村ヲ分別シ左記雛形ニ倣ヒ販賣スル處ノ醬麴石數及ヒ購求人ヲ日々遺漏ナク記載スヘシ

何村ノ部

明治何年何月何日

一 何程

何 某

一同 日

何 某

一 何程

何 某

何月中販賣高

何 某

合計何程

- 第三項 前項ノ帳記ハ購求人携帶スル自家用料酒免許鑑札面記載アル住所姓名ヲ記載スヘシ
- 第四項 賣上帳ハ每十五日間買先ノ製造者へ持參之ヲ膽寫セシムベシ
- 第五項 買受帳賣上帳共毎月合計ヲ記載シ尙甲年十月一日ヨリ乙年九月三十日迄ノ分總計ヲ記載シ同十一月中酒造検査員派出所へ差出検査ヲ受クヘシ
- 第六項 右ノ帳簿ハ酒造検査員ニ於テ臨時検査スルトアルヘシ尤該帳簿ハ營業中保存スヘシ
- 第七項 營業者ハ左ノ看板ヲ戶外ニ掲クヘシ 十八年一月 乙第三號追加 堅三尺

醬 麴 受 賣 所

山形縣何國何郡何番地

何 某

市 三 寸

第六十三章 醬油

第一款

醬油製造營業者心得書

明治十八年六月 乙第五十三號

第一項 醬油(溜リヲ併稱ス)ヲ製造シテ營業ヲ爲サントスル者ハ醬油稅則ヲ遵守シ左ノ條項ニ從フヘシ

第二項 醬油營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ倣ヒ願出許可ヲ受クヘシ

收稅

但免許鑑札ハ製造場一ヶ所毎ニ之ヲ受クヘシ

第三項 製造場ハ倉庫又ハ建物ノ棟敷ニ拘ハラス總テ其區域ヲ以テ一ヶ所トスヘシ

但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ醬油又ハ醬油膠及製造用諸器械ヲ藏置スルニ止ルモノハ製造場ノ附屬トスルコトヲ得(十八年十月乙第百十七號更正)

第四項 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

第五項 營業人不在又ハ事故アルトハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ其代人ハ營業熟知ノモノヲ撰定シテ委任狀ヲ附與シ其人名ヲ管廳ニ届出ヘシ

但幼少其他事故アリテ後見人ヲ置クトハ委任狀ヲ附與スルノ限リニアラスト雖モ後見人事故アリテ代人ヲ置クトハ本項ニヨリ後見人ヨリ委任狀ヲ附與スヘシ

第六項 製造場ヲ他管下ニ移轉スルトハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ願出添翰ヲ受ケ鑑札書替方ヲ移轉管廳ニ願出ヘシ

第七項 稅則第十六條ノ醬油製造見込石數并製造方法ハ第二號ヨリ第四號マテノ書式ニ倣ヒ届出ヘシ(十九年一月乙第六號更正)

第八項 稅則第十七條ニ據リ届出ヘキ製造場諸建物ノ構造并諸器械ノ調書ハ第五號書式建物實況詳細ノ繪圖面ハ第六號雛形ニ倣ヒ差出スヘシ(同)

但繪圖面ハ製造ニ屬スル箇所ハ墨線屬セサル箇所ハ朱線ヲ以テ區別シ且ツ本宅一棟ノ内ハ釜場室場ヲ設ケ又ハ槽掛場等ニ使用スルモノハ製造場トナシ其區域判然相立

ツヘシ

第九項 器械買賣讓與貸借新規修繕破毀等増減及製造場建物ノ増減モ前項ニ準據其時々届出ヘシ

第十項 調査濟ノ桶甕類及諸器械買賣讓與貸借又ハ返却スルキ桶甕及搾器械ノ類ハ其番號他ノ器械ハ其品目員數等ヲ記載シ双方連署ノ書面ヲ以テ其旨届出ヘシ

第十一項 桶甕類ハ新製修繕ヲ問ハス左ノ方法ニヨリ容量取調第六號書式ニ倣ヒ檢査願出ツヘシ

桶丈量法

口徑ヨリ三寸胴徑ノ口底徑ノ底板面ハ孰レモ内測ニテ縱横⊕圖ノ如ク度リ此縱横徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其桶ノ前後左右中心等孰レモ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ムヘシ

但シ尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ釐以下切捨ツヘシ

算則

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス

口徑ト底徑ノ和ハ胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量位トシ乘シ之ヲ二ニテ除シ其容量ヲ得ル

收稅

但石敷ハ合位ニ止メ以下切捨ツヘシ

第十二項 鑿類容量ハ總テ桶類ニ準シ其容量ヲ取調其準シカダキモノハ便宜適實水ヲ量其容量ヲ取調ヘシ

第十三項 製造桶類ニハ木札ヲ釘付左ノ通掲記スヘキニ付出願ノ節豫テ木札ヲ製シ置クヘシ

但桶面ニハ木札ヲ釘付スヘキ右側ノ上部ニ番號ヲ附ス

桶ト同番號ヲ記ス

年	石	深	底	胴	口	番
月	數	サ	徑	徑	徑	號
日						烙印
官 姓 名						

堅七寸

木札ノ寸法ハ桶ノ大小ニ從テ増減スルモ妨ケナシ

第十四項 槽男柱及桶鑿類ノ番號ハ倉庫ノ數ニ拘ハラズ總テ製造場一ヶ所毎ニ起號シ其物數ニ應シテ順次定ム其他ノ器械ハ番號ヲ附スルニ及ハスト雖モ管廳ノ烙印ヲ捺シ得ルモノハ之ニ烙印ヲ受クヘシ

但鑿類ノ番號石敷等ハ木札ニ書職シ之ヲ正面ニ附スヘキニ付豫テ木札ヲ製シ置クヘシ

第十五項 粕桶水桶等ノ類ニシテ全ク醬油ヲ容レサル分ハ丈量ニ及ハスト雖モ番號ヲ記載シ之ニ烙印ヲ受クヘシ

但製造場内ニ於テ醬油ヲ客ル、桶鑿類ハ都テ丈量ノ調査ヲ受クヘシ

第十六項 造石検査ヲ受クヘキ醬油ハ桶鑿トモ口頭ヨリ三寸ヲ減シ側面記載ノ石數ヲ容レ置クヘシ若シ其石敷ニ充テサルモノハ其現在入實ノ石敷ニ據リ左ノ算則ヲ以テ調査スルモノトス

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス 此底徑ヲ求ムルニハ空積ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ(十八年十一月乙) 之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス(第百廿四號更正) 假定ノ底徑ト口徑ノ和ヲ自乘シ甲トス(全上)

假定ノ底徑ト胴徑ト相乘シ乙トス(全上)

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四 乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺ス以下 ヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石敷ヨリ減シ現在ノ石敷ヲ得ル(全上) 入實胴徑ヨリ以下ニ在ルキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス 此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアルモノ

取稅

ハ其胴徑ヲ假定ノ口徑トシ入實胴徑ニ滿タサル者ハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現
在ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之レニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス
假定ノ口徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第十七項 醬油醪ハ第八號書式製成ノ上ハ第九號書式ニ倣ヒ申出検査ヲ受クヘシ(十九年一月乙第六號更正)

但醪検査以前ニ於テハ槽掛ハ勿論検査既済未済ヲ混同スヘカラス

第十八項 他ヨリ醬油ヲ買入レタル節ハ其時々其石數及買入先ヲ届出ヘシ尤時宜ニヨリ

之ヲ検査スルヲアルヘシ

但本項買入ノ際ハ仕切書又ハ送狀或ハ代金受取書等取置キ検査ノ節参照ニ供スヘシ

第十九項 醪及検査以前ノ醬油非常ノ損害ニ罹リタルハ其實況ヲ詳記シタル書面ヲ以

テ届出検査ヲ受クヘシ

第二十項 造石稅納期以前廢業セントスルモノ検査濟石數ニ掛ル造石稅ハ其節之ヲ完納

スヘシ

但未製造ノ醪ヲ其儘所持スルモノ亦同シ

第二十一項 廢業ノ際未製成ノ醬油ヲ同業者ニ賣渡サントスルトキハ雙方連署ノ書面ヲ

以テ申出検査ヲ受クヘシ(十八年七月第七十三號ヲ以テ第二十一項但書トモ別除全年九月乙第四百四號ヲ以テ更ニ本項追加)

第二十二項 營業中都合ニ依リ醬油醪ヲ同業者ニ賣渡サントスルトキハ其旨届出検査ヲ請

ケ證明書ヲ受クヘシ(十八年十月乙第四百十七號ヲ以テ但書共追加)

但買受人ニ於テハ該證明書ヲ添ヘ其地検査員ニ届出検査ヲ受クヘシ

第二十三項 營業人ハ製造場一ヶ所毎ニ第十號雛形ニ倣ヒ標札ヲ調製シ其年製造見込ノ

石數ヲ書載シテ戶外ニ掲出スヘシ(十九年一月乙第六號更正)

但其石數ヲ増減シタルハ其時々紙札ヲ貼付シ之ヲ更正スヘシ

第二十四項 醬油ハ一ト仕舞毎ニ分界ヲ爲シ搾リ揚ケ製成ノ検査ヲ受クヘシ若シ仕舞數

ヲ合シテ搾ラントスルトキハ豫メ其旨申出テ検査員ノ指示若クハ承認ヲ受クヘシ

但醬油ハ生醬油ニ番醬油ト各別ニ検査ヲ受クヘシ(二十年二月縣令第十五號追加)

第二十五項 醬油ハ仕込順號(一ヶ年限リ記號ス)ヲ付シ紙札(半紙四ツ切り)ヲ桶側面木

札ノ下部ヘ貼付シ置クヘシ

醪ヘ貼付ノ分

仕込順號

第何號

何年何月何日仕込

製成ノ上貼付ノ分

收稅

醬油第何號摺リ(ノ内)

仕込順號

第二十六項 稅則第十三條ノ帳簿ハ左ノ通製シ其時々遺漏ナク明細記載スヘシ
用紙美濃横帳

明治何年分

醬油製造原品買入帳

國郡町(村)番地
何 某

此帳簿ハ月日種類數量買入先ノ居所姓名及代價トモ記載一ヶ月ツ、小計ヲ
付シ二ヶ月以上小計ノ次へ通計ヲ付スヘシ

明治何年分

醬油仕込帳

國郡町(村)番地
何 某

此帳簿ハ仕込番號月日原品數量鹽水トモ一仕舞毎ニ記載スヘシ

明治何年分

醬油賣上帳

國郡町(村)番地
何 某

此帳簿ハ年月日石數代價賣先ノ居所人名(店ニテ小賣チナスカ如キハ一日
ノノ高チ掲ケ妨ケナシ)其時々記載スヘシ

第二十七項 前項帳簿ノ外營業ニ屬スル一切ノ帳簿書類等檢査ノ際點檢スル丁アルヘシ
第二十八項 檢査ノ節ハ製造ニ關スル建物及諸器械ハ勿論其他ノ場所ト雖モ點檢スヘキ
ニ付營業人若クハ代理人ニ於テ先導ヲ爲スヘシ

第二十九項 封緘セシ摺リ器械ヲ使用又ハ洗滌修繕スルキハ日數ヲ豫定シ其旨申出解封
ヲ請フヘシ

取稅

十八年六月五日
拾八號
以形號
正號
一號
六號
形號
形號
下形號
下形號
項以三月十八年六月
削四收八年六
除第六號第一
六

第三十項 搾器械使用又ハ洗滌ヲ爲サントスルキ或ハ引續使用セントスルキハ第十一號書式ニ倣ヒ願出ツヘシ
第三十一項 封印ハ毀損又ハ解離汚染等セサル様常ニ注意シ若シ過誤等ニテ毀損等シタルキハ其理由記載シ第十二號書式ニ倣ヒ再封ヲ請フヘシ
第三十二項 營業願及廢業届チ除クノ外諸願届類ハ検査員派出所へ差出スヘシ尤製造場諸建物ノ構造并諸器械調及繪圖面ハ郡役所へモ壹通差出スヘシ
(明治十八年八月乙) (第九十九號更正)

○第一節 醬油營業免許鑑札其他取扱方
今般第十號公布ヲ以テ醬油稅則施行相成候ニ付テハ鑑札其他取扱方左之通可相心得此旨相達候事
一 免許鑑札ハ豫メ下附スヘキ員數ヲ見積郡長ヨリ收稅長ニ宛テ之ヲ請求スヘシ
一 免許鑑札記載方ハ第一號雛形ニ倣フヘシ二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲シ又ハ會社ヲ設ケ營業ヲ爲ス免許鑑札面ニハ誰外何人ト記シ會社ハ頭取ノ名ヲ記載スヘシ
一 稅則第二十一條ノ自家用料醬油ヲ製造スルモノ其人名ヲ豫テ取調置クヘシ
一 醬油卸問屋又ハ仲買ヲ營業トスル者ハ其人名ヲ豫テ取調置クヘシ
一 右ニ掲クル諸表ハ此期限ニ依リ其地差立收稅長へ差出スヘシ
第二號書式

前半年分七月十日限
後半年分一月十日限

每年調製翌年一月十日限

醬油製造營業稅表

第三號書式

醬油造石稅表

第四號書式

醬油製造營業免許鑑札受拂計算表

第五號書式

醬油卸賣及自家用料製造人員表

(鑑札雛形畧之)

第六十四章 菓子

第一欸 菓子營業人心得書

- 第一項 菓子營業を爲さんとするものは菓子稅則を遵守し左の條項に従ふヘシ
- 第二項 營業を爲さんとするものは所轄郡役役へ願出テ鑑札を請クヘシ
- 第三項 露店又は呼賣專業の者は出賣鑑札を受くるに及はず
- 第四項 左の項目に該る者は免許鑑札を受くるに及はず
 - 一 航行中船内に於テ船客に販賣するもの
 - 一 料理屋又は旅館茶屋等にて茶菓子として來客に出すもの
- 第五項 甲郡下の營業人にして乙郡下に移轉する者は免許鑑札を添左の諸項を記したる

收稅

書面を以て甲郡役所へ申出添翰を請ふへー其他管へ移轉するものは郡役所を経て縣廳へ出願すへー

一營業の種類

一雇人の員數

一移轉前月迄の賣上高及納税の濟否(製造人なるとき)

第六項 製造人廢業の節は納期に拘はらず製造税を完納すへー

第七項 營業人不在又は事故あるときは代人を置き税則に關する諸般の事を辨せしむへー此場合に於ては委任狀寫を添其人名を届出へー

第八項 營業人は第一號雛形に倣ひ各自標札を調製し營業場戶外に掲出せしむへ

第九項 營業人は左の通帳簿を調製すへし露店又は呼賣を專業とする者は此限に非ざる但此他營業に關する一切の帳簿書類等は検査の際参照に供すへー

製造人

菓子製造帳

製造の年月日種類數量及代價等を記し毎月小計を附し二ヶ月目より小計の次へ通計を附すへー

菓子賣上帳

賣渡の年月日種類數量及代價並買主の住所氏名等を廉毎に記入し毎月小計を附し二ヶ月目より小計の次へ通計を附すへー但小賣を兼たるものにして自製の菓子を需用

製造原品買入帳

者に賣捌きたる分は其日締高を以て記入し買主の住所氏名を記するに及ばず製造原品の種類數量及代價并買入先の住所氏名等を記入し毎月小計を附し二ヶ月目より小計の次へ通計を附すへし

卸賣人

菓子買入帳

買入の年月日種類數量及代價并買入先の住所氏名等を廉毎に記入し毎月小計を附し二ヶ月目より小計の次へ通計を附すへー

菓子賣渡帳

賣渡の年月日種類數量及代價并に買主の住所氏名等を廉毎に記入し毎月小計を附し二ヶ月目より小計の次へ通計を附すへー

小賣人

菓子買入帳

卸賣人の買入帳記載方に同一

第十項 製造人より差出すへき製造高及賣上金高届書は第二號第三號書式に倣ひ調製せしむへー

第十一項 第九項に據り調製の帳簿は第四號書式に倣ひ明瞭記載すへー(十九年一月乙第七號書式略之)

收税

二十八年乙第十
百三十一號
第三號
式第一號
九更正月十
乙第七號
チ以テ第
チ號書式
追加

○第一節 菓子營業免許鑑札其他取扱方 明治十八年六月丙第五十號 郡役所

令般第十一號公布ヲ以テ菓子稅則施行相成候ニ付テハ鑑札其他取扱方左ノ通可相心得此旨相達候事

- 一 菓子營業免許鑑札及ヒ仕入鑑札出賣鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ郡長ヨリ收稅長ニ宛テ之ヲ請求スヘシ
- 一 免許鑑札面ノ記載方ハ第一號仕入鑑札出賣鑑札ハ第二號書式ニ倣フヘシ
- 一 免許鑑札臺帳ハ第三號書式ニ倣ヒ調製シ郡役所ニ備ヘ置クヘシ
- 一 稅則第五條ニ依リ鑑札ノ再渡若クハ書換ヲ爲スカ或ハ稅則第六條ノ廢棄ヲ届出ルキハ臺帳ニ其事由ヲ記入シ又臺帳記載ノ廉ニ變更アルトキハ之ヲ訂正シ主任者之レニ檢印スヘシ
- 一 甲郡ノ營業人乙郡ニ移轉スル者鑑札ノ書換ヲ願出ルキハ乙郡役所ハ甲郡役所ノ添翰ニ據リ書換鑑札ノ下渡方ヲ爲シ其旨甲郡役所へ通知スヘシ其他管へ移轉スルモノハ郡役所ヲ經テ縣廳へ出願セシムヘシ
- 一 營業ノ種類
 - 一 雇人ノ員數
 - 一 移轉前月マテノ賣上高及納稅ノ濟否 (製造人ナ)
 - 一 郡長ハ製造人ヨリ差出シタル賣上金高届書ニ據リ製造稅ノ額ヲ定ムヘシ
- 但檢査員ヨリ送致セシ檢査報告書ト照查スヘシ

一 左ノ諸表ハ各其書式ニ照準每半期之ヲ調製シ翌月十日限り差立收稅課ニ送付スヘシ

菓子營業稅表

第四號書式

菓子製造稅表

第五號書式

營業鑑札受拂計算表

第六號書式

仕入出賣鑑札下渡高表

第七號書式

菓子營業人員調査表

第八號書式

(別紙書式畧ス)

●第六十五章 煙草

●第一款 煙草賃切及煙草運搬方

明治二十年八月 縣令第六十三號

自用ノ煙草ヲ煙草製造人ニアラサルモノニ賃切セシメ又ハ煙草製造人ニアラスシテ自用人ノ煙草ヲ賃切スルコトヲ得ス違フ者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

煙草ヲ運搬スル者ハ其種類量目(製造煙草未製造煙草卷煙草ノ類)並荷主荷受主ノ住所氏名ヲ詳記シタル荷札ヲ附着スヘシ

●第一款 煙草營業人心得

明治二十年八月 縣令第六十四號

煙草營業人心得左之通相定ム

但明治十七年七月乙第六十三號布達其他右ニ抵觸スルモノハ廢止ス

煙草營業人心得

第一項 煙草營業人ハ明治十五年第六十三號布告煙草稅則及全十六年第二十號布達ヲ遵守シ尙左ノ各項ニ從フヘシ

收稅

煙草印紙ノ切斷(他ノ紙類ヲ以テ聯合シタルト否トヲ問ハス)セルモノ又ハ他ノ印紙類ヲ以テ之ニ裏打シ或ハ之ニ繼足シタルモノハ總テ無効トス

●第四款 煙草耕作人心得 明治二十年七月 縣令第五十八號

煙草耕作人心得左ノ通相定ム

但明治十九年五月本縣中第六號布達ハ廢止ス

煙草耕作人心得

- 第一項 凡ソ煙草ヲ耕作スル者ハ該反別及收穫見積高ヲ甲號様式ニ倣ヒ作付后十日以内ニ届出ツヘシ
- 第二項 煙草耕作人ハ實收穫ノ量目並ニ反別及賣用自用ノ量目ヲ區分シ乙號様式ニ倣ヒ採收后五十日以内ニ届出ツヘシ
- 第三項 天災其他ノ事故ニ因リ壹割以上作付反別ニ増減ヲ生シタルキハ其時々届出ツヘシ
- 第四項 耕作人收穫シタル煙草ヲ賣渡サントスルトキハ先ツ買受人所持ノ仕入鑑札ニ就キ住所氏名ヲ帳記シ丙號書式ニ倣ヒ毎月兩度十五日所轄租稅檢査員派出所ヘ届出ツヘシ
- 第五項 煙草耕作人ハ左ノ事項ヲ帳記シ置クヘシ
 - 一 作付反別及收穫見積高
 - 一 作付反別ノ増減及其事由

一 採収ノ月日及量目

一 賣渡ノ月日量目代價及買受人ノ住所氏名

第六項 煙草作付反別及實收穫租稅檢査員臨時檢査スル事アルヘシ

一 畑或ハ宅地一筆ノ内其幾部分煙草ヲ作ル者ハ(乙)例ニ倣ヒ記載スヘシ

一 種類ノ欄何葉トハ假令ハ柳葉丸葉小糸等其他ノ名稱ニ依テ記載スヘシ
(様式零之)

○第一節

煙草耕作人ヨリ届出ノ植付反別

明治二十年七月訓 郡役所 及收穫見積實收量目等差出方 令乙第三十八號 戶長役場

本年縣令第五十八號煙草耕作人心得第一項第二項届出書類ハ戶長役場ヨリ其區租稅檢査員派出所ヘ回送スル義ト心得ヘシ

●第六十六章 賣藥

●第一款 賣藥營業人及請賣行商人心得書 明治十八年四月 乙第二十九號

- 第一項 賣藥營業及請賣行商ヲ爲スモノハ明治十年第七號布告賣藥規則全十五年第五十一號布告賣藥印紙稅規則ヲ遵守シ左ノ項々ヲ心得ヘシ
- 第二項 賣藥營業及請賣行商ヲ爲サントスルモノハ明治十六年本縣乙第七十七號布達ニ據リ願出ツヘシ
- 第三項 賣藥營業人及請賣人ハ左ノ雛形ノ如キ看板ヲ製シ必ス之ヲ戶外ニ掲出ヘシ

堅 三 尺

全

取稅

許 免
賣 藥 營 業

許 免
賣 藥 請 賣 業

- 第四項 賣藥營業人ハ第一號第二號第三號離形ニ據リ帳簿ヲ調製シ其都度記載スヘシ
- 第五項 賣藥請賣人ハ第四號離形ニ倣ヒ帳簿ヲ調製シ其都度記載スヘシ
- 第六項 前項々ノ帳簿ハ勿論時宜ニ據リ其他ノ書類ト雖モ檢査スルコトアルヘシ
- 第七項 免許年限ハ月數ヲ以テ計算スルモノトス
- 第八項 製藥場賣捌場ハ勿論時宜ニヨリ他ノ倉庫室内ト雖モ檢査スルコトアルヘシ
但此場合ニ於テハ營業人請賣人又ハ代理者若クハ家族者案内ヲ爲スヘシ
- 第九項 營業人請賣人不在其他事故アルトキハ相當ノ代理者ヲ定メ置クヘシ
- 第十項 檢査員ハ必ス檢査印章ヲ携帶スルヲ以テ其印章ハ需テ見聞スルヲ得ヘシ
- 第十一項 賣藥營業者ハ所轄郡役所へ申出賣藥印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲ爲ス毎ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙買入ニ示スヘシ
(十九年六月甲) (第十八號追加)
- 第十二項 賣藥營業者ハ廢棄賣藥ニ係ル既貼ノ印紙アルキハ本年(七月)大藏省令第二十
三號賣藥印紙交換規則ニ據リ所轄郡役所へ引換方願出ルトキハ第一號書式ニ據ルヘシ
(十九年七月甲第二十四號追加) (二十年三月縣令第二十號更正)
- 第十三項 賣藥行商人其行商地ニ於テ印紙交換ヲ求ムル爲メ賣藥毀却ノ證明ヲ出願スル

表 番 號
賣藥印紙買入鑑札
何郡何村番地
賣藥營業人何誰

裏 明治何年何月
管轄廳燒印

○第三節 賣藥印紙交換取扱手續
明治二十年三月
訓令甲第十三號

郡 役 所

取 稅

トキハ第二號書式ニ準據シ願書三通ニ該藥品ヲ添ヘ若シ藥品中再製ヲ要スル爲メ營業場所在地へ送附スヘキモノアルキハ乙印ノ如ク朱書シテ其地ノ郡役所へ願出ヘシ(他府縣ニ係ルモノハ縣廳へ願出ヘシ) (二十年三月縣令第三十號本項增加) (全年第三十九號ヲ以テ十六字削除) (離形零之)

○第一節 無印紙賣藥店頭ニ陳列スルモ賣藥印紙稅則ニ據リ處分ニ付示方
明治十六年六月 戶長役場
丁第三十二號

○第二節 賣藥印紙買入鑑札へ記載方
明治十九年七月 郡 役 所
乙第二十五號

賣藥營業者販賣ノモノ無印紙賣藥ヲ店頭ニ陳列スルモノハ客來年十月第五十一号公布賣藥印紙稅規則第五條ニ依リ處分可相成ニ付營業人ニ於テ心得違無之様豫メ示置ヘシ此旨相達候事

賣藥營業者へ賣藥印紙買入鑑札下付ノ節其記載方ハ左ノ離形ニ倣フヘシ
但シ賣藥印紙買入鑑札ハ其員數見積之ヲ請求スヘシ

賣藥營業人賣藥印紙交換ノ爲メ行商先ニ於テ賣藥毀却ノ證明ヲ願出タルトキハ左ノ手續ニ據リ取扱フヘシ

第一項 明治十九年大藏省令第二十三號ニ據リ印紙交換ノ爲メ便宜行商先ニ於テ藥品毀却ノ證明ヲ願出ルモノアルトキハ左ノ書式ノ願書三通ヲ差出サシメ該願書ト現品及印紙トヲ照査シ其既貼印紙ヲ消印又ハ切斷シ甲印ノ如ク願書ニ證明ヲナシ一通ハ營業場所在地ノ郡役所(他府縣ニ係ルモノハ縣廳)ニ回付シ一通ハ願人ニ下ケ渡シ一通ハ郡役所ニ保存スヘシ

第二項 毀却藥品中再製ヲ要スルモノアリテ乙印ノ如ク内譯ヲ朱書シ營業場所在地ヘノ還送ヲ願出タルトキハ主任者ハ之ニ認印シ該藥品ハ荷造ヲ爲サシメ封印ヲナシ證明書ト共ニ願人ニ渡シ封印ノ印鑑ハ證明書ト共ニ營業場所在地郡役所ヘ回送スヘシ
但再製ヲナサル藥品ハ面前ニ於テ直ニ棄却セシムヘシ

第三項 賣藥營業者其營業場所在地ニ於テ證明書ニ據リ新印紙ノ下付及前項藥品ノ開封ヲ郡役所ニ願出ツルトキハ郡役所ニ於テハ藥品ハ豫テ付シアル印鑑ニ照シテ開封シ印紙ハ証明書ニ照シテ相當ノ下付ヲナスヘシ
但他府縣ヨリノ回付ニ係ル證明書及印鑑ハ收稅部ヨリ時々之ヲ送付スヘシ
(願書式等之)

○第四節 賣藥印紙交換取扱方 明治十九年七月
本年七月大藏省令第二十三號ヲ以テ賣藥印紙交換規則被定候ニ付テハ右規則ニ據リ交換取

郡役所

扱ヘシ

但交換印紙ハ受拂計算表拂部中(廢棄賣藥交)ノ一書ヲ設ケ記載スヘシ
換ニ係ル

第六十七章 船車牛馬

●第一款 船稅取扱心得 明治十六年六月
丙第百廿七號

郡役所

本年四月第十三號ヲ以テ船稅規則制定布告相成候ニ付右取扱心得書別紙ノ通相定候條此旨相達候事

船稅取扱心得書

第一條 凡ソ船舶ノ鑑札ハ本縣ヨリ下渡ヲ以テ西洋形蒸氣船並日本形積石五十石以上ノ船鑑札ハ第一號雛形ノ通日本形積石五十石未滿ノ船並鯉魚船小回船遊船ノ鑑札ハ第二號雛形ノ通郡役所ニ於テ記載下付スヘシ

但假鑑札ハ雛形鑑札ノ上ヘ假ノ字ヲ記入スヘシ

第二條 噸數ハ壹噸積石數ハ壹石間數ハ一間ニ止メ其以下端數ハ切捨ツヘシ
第三條 規則第七條但書鑑札釘付ノケ所及ヒ同第十條免稅印烙記ノケ所ハ該船舶ノ艦外部後面ニ之ヲ爲スヘシ(十七年四月丙第
九十二號更正)

第四條 規則第三條ニ據リ檢査ヲ爲シ假鑑札ヲ付與シタルトキハ其旨定繫場所在ノ郡役所ニ通知スヘシ其通知ヲ受ケタルトキハ直ニ船籍ニ編入シテ該期ノ税金ヲ收入シ追テ本鑑札引換相渡シタル上最前通知之郡役所ニ報道スヘシ

第五條 船舶賣買讓與其他ニテ定繫場ヲ變換シ其新舊定繫場甲乙兩郡役所ニ交渉スルキ

取稅

乙郡役所ニ於テ船籍ニ編入鑑札引換相渡シタル上ハ直ニ甲郡役所ニ報道スヘシ
第六條 前二條ノ手續ニ依リ鑑札引替ノ節ハ更ニ該船ノ檢査ヲ要セス舊鑑札若クハ假鑑
札ニ記載ノ噸石數又ハ間數等ニ據ルヘシ

但其返納セシ鑑札ハ返納ヲ受ケタル郡役所ニ於テ不取締無之様消却スヘシ

第七條 船舶ノ内其船体ノ構造若クハ綱具ノ裝置等西洋形ニ摸擬セシモノハ總テ西洋形
船ニ準シテ課税スヘシ(十七年四月丙第
九十一號更正)

第八條 西洋形風帆船港灣湖川等ヲ運用スル小船ト雖モ總テ其噸數ニ依リ解漁船小廻船
ハ積石數五十石以上ト雖モ總テ其間數ニ依リ課税スルモノトス

第九條 港灣其他ノ海岸及湖川等ニ碇泊又ハ繫キ置ク船舶ハ隨時之ヲ檢査スヘシ
第十條 船税表及ヒ免稅船員數表ハ第三號第四號離形ニ倣ヒ每半年分調製翌期七月十五
日限り差出スヘシ

第十一條 船舶ノ賣買讓與等ニテ定繫場ヲ變換シタルトモ其他府縣交渉スルモノハ其都度
本縣へ届出ツヘシ

(鑑札離形等之)

○第一節 管下所有ノ船車他管ノ者へ讓與賣渡等届出 明治十七年一 郡役所
管下ノ者所有ノ船車他管ノ者へ讓與或ハ賣渡其都度上申ノ件 月丙第四號
役所へ烙印及徵稅ノ件トモ遵照會其都度無漏上申可致此旨相達候事

●第三款 荷積大小車區分 明治十二年三月
乙第三十四號

昨十一年本縣乙第七十六號ヲ以荷積車大七以上以下區分ノ儀相達置候處自今大八以下及
中小車ノ名稱ヲ廢シ荷臺尺積十四坪以上ヲ概シテ大車トシ右以下小車ト改稱候條此旨布
達候事

●第四款 人力車壹人乘貳人乘區分

本年大藏省乙第二十七號達シ有之候ニ就テハ人力車之儀已降横巾内法曲尺貳尺未滿ヲ以
壹人乗トシ右以上ヲ以貳人乗ト相定區分可致此旨布達候事

●第五款 牛馬賣買營業出願ノ者納稅保證人相立出願ノ件

牛馬賣買營業ハ兎角他へ出稼ノ者多ク稅金徵收ノ際ニ至リ往々不納稅出來不都合ニ付爾
來右營業出願ノ者ハ納期ノ通り聊無淹滯上納可致明文ヲ以保證人相立可願出此旨布達候
事

●第六十八章 印紙賣捌

●第一款 印紙類賣下賣捌規則取扱手續 明治十九年六月
乙第二十二號

本年六月大藏省令第二十一號印紙類賣下賣捌規則取扱手續別紙ノ通相定ム
但本文ニ抵觸スル諸達ハ消滅ス

●印紙類賣下賣捌規則取扱手續

第一項 印紙類賣捌所ノ配置ヲ計畫スルニハ從來印紙賣捌ノ景狀ニ依リ且土地便否商況
等ヲ參酌シ總テ印紙ノ賣買ニ差支カキテ期シテ之ヲ定メ届出ヘシ

收稅

- 第二項 印紙類ハ需用ノ狀況ト現在高トシ參酌シ凡ソ六ヶ月分賣下ノ見込相立第一號雛形ニ倣ヒ收稅課ヘ請求スヘシ
- 第三項 印紙類ノ賣拂ハ主任者二名以上ノ立會ヲ要スルモノトス
- 第四項 印紙類到達ノ節ハ日數五日以内第二號雛形ニ倣ヒ到達ノ月日ヲ記載シ領收證書ヲ收稅課ヘ送附スヘシ
- 第五項 印紙賣捌所ノ標札ハ第三號雛形ニ據リ調製下付スヘシ
但二種以上賣捌者ハ各種類ヲ一枚ニ并記スルモ妨ケナシ
- 第六項 他府縣ヨリ轉籍又ハ寄留シタル者若クハ他郡ヨリ轉居シタル者ニシテ印紙類ノ賣捌ヲ請願スルキハ規則第七條第二項ノ年限中ニ係ラサル者ナルヤ否及第二十一條ニ據リ禁止セラレタルトナキヤ否ヲ詳查スヘシ
- 第七項 印紙類ノ賣捌人員増減ハ一ケ年ヲ二期ニ分チ第四號雛形ニ倣ヒ十二月末日ノ現在員ヲ取調七月五日限り郡役所ヘ差立收稅課ヘ送付スヘシ
- 第八項 印紙類賣下賣捌規則第十條但書ニ據リ印紙代金ノ延納ヲ許可スルキハ其抵當トナスヘキ公債證書價格ハ明治十三年大藏省乙第一號達ニ據テ之ヲ定ムヘシ
但代金延納ノ許可ヲ得タルキハ第五號雛形ニ倣ヒ賣捌人ヨリ上納ノ受書ヲ徵スヘシ
- 第九項 規則第十條ノ但書ニ據リ延納ノ代金其收入方翌年度ニ亘ルモノハ現收入年度ノ稅表ニ編入スヘシ
- 第十項 印紙類ヲ運送會社ニ運搬セシメタル分ハ到達ノ節社員等爲立會檢査ヲ遂ケ若シ

- 損傷汚染或ハ謾糊粘着等ニシテ全ク使用シ得ヘカラサルモノヲ發見シタルトキハ社員ノ手續書ヲ徵シ之ニ其枚數調書ヲ添付シ處分方ヲ稟議スヘシ
但シ天災地變等ニ罹リタルモノハ本項手續書ニ社員外二名以上ノ證明ヲ爲サシムヘシ
- 第十一項 印紙類方一封中ノ員數ニ過不足ヲ生シタルモノアル時ハ其封紙帶紙ニ立合郡吏ノ姓名書ヲ添付シ處分方ヲ稟議スヘシ
- 第十二項 印紙類ノ受拂ヲ爲シタルキハ主任ニ於テ即日受拂及ヒ殘高ヲ記帳シ現在高ト對照スヘシ
- 第十三項 前項ノ場所ニ於テ主任者交代スルキハ帳簿ト現在高トヲ對照シ受渡シチナスヘシ
- 第十四項 印紙類賣下賣捌規則第十七條ニ據リ返納セシ印紙(代金延納ニ係ルモノヲ除ク)ハ其種類(長角形ヲ區分ス)枚數及代金等明細仕譯書ヲ添付シ其時々代金下付方ヲ稟議スヘシ
但代金納付ト印紙返納ト其時日年度ヲ異ニスル時ハ代金納入年度ノ區分ヲ立之ヲ稟議スヘシ
- 第十五項 縣廳ニ於テハ印紙類受拂ノ實況及ヒ現在高等臨時主任官ヲ派遣シ精査セシムルモノトス
- 第十六項 第五項ノ標札ハ其都度費額見積經伺之上調製スヘシ(十九年十月縣令丙第十二號追加)
(雛形畧之)

收稅

第一條 地方費ヲ管理スル各課ニ於テハ翌年度ノ支出豫算參照並説明書ヲ調製シ毎年八月十五日限り之ヲ議事課ニ送付スヘシ

第二條 議事課ニ於テハ毎年九月三十日限り地方稅支出ノ總額ヲ徵收課ニ通報スヘシ

第三條 徵收課ニ於テハ翌年度收入豫算及賦課方法等ヲ調製シ其參照並説明書ヲ添ヘ毎年十月五日限り之ヲ議事課ニ送付スヘシ

第四條 議事課ニ於テハ各課ヨリ送付ノ豫算書ニ就キ精査審議シ毎年十月十日限り議案ヲ調製スヘシ

收支精算

第五條 地方稅ノ出納ハ毎年六月三十日限之ヲ閉銷ス
但決算整理上ヨリ増減ヲ生シタル者ハ此限ニアラス

第六條 經費金ノ概算交付ヲ受ケタル各課及郡役所等ニ於テハ別冊雛形ニ準據シ決算帳ヲ製シ毎年七月三十一日限り之ヲ會計課ニ送付スヘシ

第七條 會計課ニ於テ前條決算帳ノ送付ヲ受ケタルハ之ヲ精査シ追テ縣會ニ報告濟ノ上ハ決算認可狀ヲ交付スルノ手續ヲナスヘシ

第八條 會計課ニ於テハ支出決算總計帳ヲ製シ毎年八月二十日限り之ヲ議事課ニ送付スヘシ

第九條 地方費ヲ管理スル各課ニ於テハ前年度決算増減説明書並事業成績書ヲ製シ毎年八月二十日限り之ヲ議事課ニ送付スヘシ

第十條 議事課ニ於テ決算總計帳及増減説明書ノ送付ヲ受ケタルハ九月十日限り精算報告書ヲ調製スヘシ

第十一條 備荒儲蓄金ノ收支豫算精算順序モ亦此手續ニ據ル
(帳簿樣式略之)

●第一款

納稅取調委員設置規程 明治二十年五月訓 郡役所 令甲第二十九號

第一條 地方稅中營業稅雜稅調查ノ爲納稅取調委員ヲ置ク
但委員ノ定員ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二條 納稅取調委員ハ各郡役所ニ於テ便宜町村組合ヲ設ケ其組合町村内ニ於テ營業稅雜稅ヲ納ムル營業者ノ互撰投票ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第三條 納稅取調委員ハ郡長ノ監督ニ屬シ各町村營業者ノ業体ヲ視察シ其負擔稅額ノ適否ヲ勘査スルモノトス

第四條 納稅取調委員ハ郡長ノ招集ニ應シテ郡役所ニ出勤シ町村營業者名簿ニ就キ簡數ヲ調査シ郡長ニ差出スヘシ
但簡數調査ノ方法ハ郡長ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條 郡長ニ於テ納稅取調委員ヲ招集シ簡數ヲ調査セシムルハ縣廳ニ於テ通常縣會ニ付スヘキ豫算調理以前ニ於テスルモノトス
但時宜ニ依リ臨時招集スルコトアルヘシ

○第一節 地方稅中營業稅雜稅豫算決算表調整方 明治十八年九月 郡役所 丙第二百廿二號

○第三節 租税不納者公賣ノ際物件ニ關シ債主ノ有無取調方

明治二十年一月 郡役所
訓令乙第十三號 戶長役場

本年二月一日ヨリ登記法實施ニ付テハ公賣スヘキ物件ニ關シ債主ノ有無取調方ノ様司法大臣ヨリ別紙ノ通始審裁判所及登記所ヘ訓令相成タルニ付此旨心得ヘシ

(別紙)

司法省民第四四號

始審裁判

登記所

租税不納者公賣ノ際公賣スヘキ物件ニ關シ債主ノ有無取調方區長若クハ戶長ヨリ照會アリタル時ハ登記所ハ速ニ登記簿及公證簿等ニ依リ債主ノ有無若シ債主アル場合ニ於テハ其住所氏名ヲモ調査シ同答ヲ爲スヘシ

右訓令ス

司法大臣伯爵山田顯義

○第四節

租税不納ノ爲メ地所建物船舶ノ公賣處分ニ着手スルキ又ハ其公賣處分ヲ取消タルキ登記所ヘ通報方

明治二十年二月 郡役所
訓令甲第十一號

租税不納ノ爲メ地所建物船舶ノ公賣處分ニ着手スルキ又ハ其公賣處分ヲ取消タルキハ速ニ其旨ヲ公賣財産所在地ヲ管轄スル登記所ヘ通報スヘキ旨大藏大臣ヨリ訓令有之候條此旨心得ヘシ

○第五節

租税未納者財産公賣ノ節入札取締方 明治二十年三月 郡役所
達徵第一四三號

租税未納者アルトキ明治十年十一月第七十九號布告ニ據リ其賦課セシ財産ヲ公賣スルニ際シ謂レ無ク落札取消等ノ違約ヲ申立ルモノ往々アリテ爲ノニ官民ノ手數ヲ煩スノミナラ

ス徒ニ公賣處分完了ノ期限ヲ失スル等ノ弊害ヲ生シ不都合ニ付公賣ノ際ハ右ノ方法ノ一ニ依リ豫メ約束ヲ定メ取締ヲナスヘキ旨大藏大臣ヨリ訓令相成候條此旨心得ヘシ

一 入札者ハ先ツ若干ノ金員ヲ證據金トシテ差出サシメ落札ニ當リ違約セシキハ其證據金ヲ沒収スル事

一 落札者ハ其落札金高ノ幾分ヲ手附金トシテ即納セシメ若シ期日ニ至リ殘金ヲ完納セサル歟又ハ違約セシキハ該手附金ヲ沒收スル事

一 高札者ニシテ落札取消ヲ請フモノハ次札トノ間ニ生スル差金 (假令ハ高金百圓ニシテ差金貳拾) 差出サシムル事 (次札金八拾圓ナルキハ圓トナル) 差出サシムル事

○第六節

租税未納財産公賣入札ノ節取立 明治二十年五月 郡役所
タル證據金手附金差金納入方 達徵二二三號

本年(三月)達徵第一四三號ニ依リ取立タル證據金手附金又ハ差金ハ之ヲ公賣入費及未納税金ニ差繼納入スヘキ旨大藏大臣ヨリ達相成候條此旨心得ヘシ

○第七節

租税官損稟申方 明治二十年五月 郡役所
令甲第三十二號

租税官損稟申方等明治十八年六月丙第六十三號ヲ以テ相達置候處更ニ左ノ通改定ス

一 但甲乙號樣式ハ別ニ之ヲ送付ス(樣式略之)

收税

一 前項既往年度ニ屬スルモノハ乙號様式ニ倣ヒ前後半年度ニ區分調製シ前半年度分ハ十五日以内後半年度分ハ翌年四月五日以内ニ稟申スヘシ

一 荒地成檢査中又ハ非常ノ災害ニ罹リ備荒儲蓄金ヨリ補助或ハ貸與取調中ノ類ニシテ納期ニ際シ徵收シ能ハサル分ハ其調査完了時日ノ見込相立該稅納期以前延納チ稟議シ而シテ調査済ノ上第一項處分ニ係ルモノアルキハ追加官損金額表ヲ以テ稟申スヘシ

○第一節 官沒地ニ係ル税金不納額稟申ノ件 明治十八年一月 郡役所

昨年三月丙第五十六號ヲ以テ國稅地方稅不納等ニ付規則ニ依リ官沒シタル地所取調稟申方相達置候處尙調査ノ都合有之候條右官沒地ニ係ル税金不納額ヲモ詳細取調併セテ可致稟申此旨相達候事

但不納額ハ國稅地方稅チ分記可致事

●第三款

內國稅未納追徵整理順序 明治十九年九月 郡役所

內國稅未納追徵整理順序左ノ通相定メ十六年(十月)丙第二百十六號及十七年(八月)丙第

二百三十九號本縣達ハ廢止ス

但甲乙様式ハ別ニ之ヲ送附ス

內國稅未納追徵整理順序

第一條 郡長ハ甲號書式ノ如ク內國稅未納臺帳ヲ調製スヘシ

第二條 內國稅ノ內事故アリテ翌年度十一月三十日迄ニ徵收ヲ完了セサルモノハ其年度ノ未納元額トシ臺帳ニ登記スヘシ但後日追徵シタルキハ其時々臺帳ヘ記載シ之ヲ報告

スヘシ

第三條 諸營業稅及船車稅不納者旅行又ハ失踪シ其財產ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ

ナシ能ハサルモノハ年々未納臺帳ヘ登記シ置キ而シテ他日本人歸籍又ハ所在發見シタルキハ未納ニ係ル每期ノ税金追徵スヘシ但未納ノ當初ヨリ滿三ケ年ヲ經過シ尙完結セ

サルモノハ其際更ニ處分方稟申スヘシ

第四條 郡長ハ每年度ノ末ニ於テ乙號書式ノ如ク既往年度ノ未納殘高仕譯書ヲ製シ四月十五日限リ送附スヘシ

第五條 郡長ハ臺帳ニ記載シタル納稅者他管ヘ移住送籍スルキハ不納ニ係ル書類ヲ取纏メ其管廳ヘ引繼チナシ同時ニ報告スヘシ但管内モ此手續ニ據ルヘシ

第六條 前條引繼ヲ受ケタルキハ之ヲ臺帳ニ記入報告シ追徵ノ手續ヲ爲スヘシ

●第七十一章 雜

●第一款

國稅用物品取扱規程 明治十八年十二月 丙第二百七十二號

第一條 國稅諸烙印地券用紙諸鑑札招牌郡衙ニ下渡シ置クモノ左ノ如シ

山形縣檢印

郡役所檢印

郡役所名印

免稅印

數字番號印

地券用紙(無文字)

招牌 證券印紙訴訟用印紙煙草

煙草營業鑑札類

取稅

煙草出仕 賣鑑札
印紙買入

醬麴鑑札
菓子營業鑑札類

醬油製造鑑札

酒類製造鑑札
船鑑札
菓子仕入鑑札
菓子出賣鑑札

第二條 縣名烙印印破壞ノ節ハ其旨(何所破壞ノ理)届出現品請求方申出ツヘシ

但破壊品ハ還納スヘシ

第三條 諸烙印(縣名印)破壊シ使用シ得ヘカラサルト認ムルキハ伺出(修繕カ新調カ其
費額見積書)許可ノ上調達方取計フヘシ

但使用シ得可カラル烙印(縣印)簡數等明記シ處分方伺出ツヘシ

第四條 地券用紙ハ半年度分見積リ毎年四月二十日限リ請求方申出ツヘシ

第五條 諸鑑札及招牌ハ一ケ年度分豫算見積リ毎年十月二十日限請求方申出ツヘシ

第六條 諸鑑札受拂計算表每期進達ノ節別紙明細表へ使用濟鑑札相添指出スヘシ

但木鑑札ハ不取締無之様燒捨ノ上届出ヘシ

第七條 招牌受拂計算表ハ別紙雛形ニ照準前年度分翌年四月十五日限リ指出スヘシ

但使用濟ノ分ハ縣印切採リ處分方伺出ヘシ尤切採リ印形ハ該表ニ添付指出スヘシ

第八條 第一條ニ掲クル物品外ニ屬スル諸鑑札(牛馬賣買免類)ハ費用ノ都度伺出(費額調許
許鑑札等)書添付

可ノ上調達方取計フヘシ(十九年三月丙第
(別紙雛形略之)七十四號追加)

山形縣令類纂附錄

●令達

●公文式 明治十九年二月勅令第一號

第一 法律命令

- 第一條 法律勅令ハ上諭ヲ以テ之ヲ公布ス
- 法律ノ元老院ノ議ヲ經ルヲ要スルモノハ舊ニ依ル
- 第二條 法律勅令ハ内閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ内閣ニ提出シ總テ内閣總理大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フ
- 第三條 法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ニ副署シ年月日ヲ記入ス其各省主任ノ事務ニ屬スルモノハ内閣總理大臣及主任大臣之ニ副署ス
- 第四條 内閣總理大臣及各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ閣令又ハ省令ヲ發スルコトヲ得
- 第五條 閣令ハ内閣總理大臣之ヲ發シ省令ハ各省大臣之ヲ發ス
- 第六條 閣令ハ年月日ヲ記入シ内閣總理大臣之ニ署名ス
- 第七條 省令ハ年月日ヲ記入シ主任大臣之ニ署名ス
- 第八條 各官廳一般ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定メ各廳處務細則ハ其主任大臣之ヲ定ム

令達

第九條 内閣總理大臣及各省大臣ノ所轄官吏及其監督ニ屬スル官吏ニ達スル訓令モ亦第六條第七條ノ例ニ依ル

第二 布告

第十條 凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但官報到達日數ハ明治十六年五月二十六日第十四號布達ニ依ル

第十一條 天災時變ニ依リ官報到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

第十二條 北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メス現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

島地ハ所轄郡役所ニ官報ノ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第十三條 法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ第十條第十一條第十二條ノ例ニ依ラス

第三 印璽

第十四條 國璽御璽ハ内大臣之ヲ尙藏ス國璽御璽ハ親署ノ後内大臣之ヲ鈐ス

第十五條 法律勅令ハ親署ノ御璽ヲ鈐ス

第十六條 國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事證認狀及三等以上勳章ノ勳記ハ親署ノ後國璽ヲ鈐ス

四等以下勳章ノ勳記ハ國璽ヲ鈐ス

第十七條 勅任官ノ任命ハ其辭令書ニ御璽ヲ鈐シ委任官ノ任命ハ其奏薦書ニ御璽ヲ鈐ス

● 布告布達施行期限 明治十六年五月十七號布告

布告布達ノ施行期限左ノ通制定ス

第一條 布告布達ハ各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トス但到達日數ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

天災時變ニ因リ到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ到達日數ヲ定メス現ニ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

凡島地ハ所轄郡役所ニ到達ノ翌日ヨリ起算ス

第二條 布告布達ノ特ニ急施ヲ要シ即日ヨリ施行セシムル者及特ニ施行ノ日ヲ掲ケル者ハ總テ前條ノ例ニ在ラス

○ 布告布達到達日數 明治十六年五月十四號布達
今般第十七號ヲ以テ布告布達施行期限ヲ改定シタルニ付到達日數左ノ通之ヲ定ム

(摘要)

山形縣 到達日數 五日

○ 告示達宣布式 明治十六年五月太

今般官報發行候ニ付從前官省院廳ノ達並ニ告示ノ儀ハ官報ニ登載スルヲ以テ公式トシ別ニ達書又ハ告示書ヲ發行スルニ不及候但内達ノ類ハ從前ノ通可相心得此旨相達候事

● 議事

令達

府縣會規則 明治十三年四月 丙第十五號布告

明治十一年七月第十八號布告府縣會規則左ノ逋改正候條此旨布告候事

第一章 總則

第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及其徵收方法ヲ議定ス

第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス

第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事縣令之ヲ發ス

第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條 府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ內務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第六條 府縣會ハ每年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ府知事縣令ニ說明ヲ求ムルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直ニ內務大藏兩卿ニ上申スルコトヲ得

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ說明ヲ求ムルトキハ府知事縣令若クハ其代理人之ヲ說明スヘシ 十五年十二月第六十八號布告本項追加

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付建議

ヲナサントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ內務卿ニ建議シ又ハ府知事縣令ニ建議スルヲ得

但臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限リ建議スルヲ得 十五年二月第十號布告本條及但書共改正

第八條 府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得 府縣會ハ議員ノ內招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セサルモノヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ双方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事縣令ハ其議事若クハ會議ヲ中止スルコトヲ得 十四年二月第四號布告本項追加

第二章 選舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ撰ブ 每郡區議員定數ノ外補欠員トシテ十人以下ヲ増撰スルヲ得 十五年二月第十號布告本項追加

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公撰シ之ヲ府知事縣令ニ報告シ府知事縣令ハ之ヲ內務卿ニ報告スヘシ

議長副議長及ヒ議員ハ俸給ヲシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

令達

第十二條 書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費中ヨリ之ヲ支給ス
第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ルハ者ハ議員タルコトヲ得ス

第一款 風癩白痴ノ者

第二款 舊法ニヨリ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者新法ニヨリ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者
十五年二月第十號布告改正

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏教導職及陸海軍諸卒現役ノ者

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ルハ者及陸海軍々人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス
同上但書改正

第十五條 議員ヲ選舉セントスルトキハ府知事縣令ヨリ某月間ニ選舉會ヲ開クヘキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ選舉ノ投票ヲ爲スヘキ日ヲ定メ少クモ十五日前ニ之ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區長ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ選舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ選舉會ヲ開クコトヲ得

第十七條 選舉人ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及被選舉人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ其投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トシ同數ナラハ年長ヲ取リ同年ナラハ闊ヲ以テ之ヲ定ム

但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ナシ

第十八條 投票終ルノ後郡區長ハ選舉人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ查シ又被選舉人名簿ニ就テ當選人ノ當否ヲ查シ若シ法ニ於テ不適當ナルモノアルカ或ハ當選人自ラ其撰ヲ辭スルキハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

第十九條 當選人ノ當否ヲ查定スルノ后郡區長ハ其當選人ヲ郡區廳ニ呼出シ當撰狀ヲ渡シ當選人ハ請書ヲ出スヘシ

但當選人各請書ヲ出シタル后郡區長ハ其姓名等ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ撰ニ當ルキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回ニ年期ノ改撰ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之レヲ公撰スヘシ
第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第三十四條 議員中第十三條ニ掲グル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉籍スルカ其
他總テ欠員アルキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰擧ス 十五年二月第十號布告

但補缺員アルキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之レヲ取リ尙缺員アルキハ本條末文ノ手續
ニヨル書退加

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事縣令若シクハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明スルヲ得但決
議ノ數ニ入ルヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ
禁スルヲ得

第二十九條 議員ハ會議ニ當リ充分討論ノ權ヲ有ス然レモ人身上ニ付テ褻貶毀譽ニ涉ル
ヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之レヲ制止シテ其命ニ
順ハサル者アルキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏
ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度十一月ニ於テ之レヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之レヲ

命シ會期ハ三十日以内トス但シ區郡部都會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコト
ヲ得 十五年十二月第六十八號布告但以下改正シ十七年

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルキ府知事縣令ハ臨時會ヲ開クヲ得
其會期ハ七日以内トス 十五年十二月第六

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スヲアリト認ムル時ハ府
知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ議決シ終
ラサルキハ府知事縣令ハ更ニ其議定ヲ要セス内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行ス

ルコトヲ得 十四年二月第四號布告本項追加十五
議員徵集ニ應セサルモノ半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルアルキハ府知事縣令ハ其事
由ヲ内務卿ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ 十四年二月第四

第一項ノ場合ニ於テ内務卿ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ
間ハ府知事縣令ニ於テ地方稅ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ施
行スルコトヲ得 十五年十二月第六十

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルキハ内務
卿ハ何レノ時ヲ問ハス議員ノ解散ヲ命スルヲ得 十四年二月第四號

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未ダ議定セサル議案アルキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシ

ムヘシ 同上本

第三十五條 內務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更

ニ議員ヲ改撰スヘシ

第五章 常置委員 以下十三年十一月第

第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘシ

常置委員定數ノ外數名ヲ增選シ欠員アルキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之レヲ補充スルヲ

得十五年二月第十號布

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ區郡各部ニ之ヲ撰任スヘシ

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出

ニ付府知事縣令ヨリ諮問アルキハ其意見ヲ述フ

常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費

ノ豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得十五年十二月第六十八號布

第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ始メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ報

告シ且通常會ト臨時會トヲ論セス府知事縣令ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ受取リ會議ニ

向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳內ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條 常置委員諮問會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス十五年二月第十號布

第四十一條 諮問會ハ府知事縣令ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ選舉ス

ヘシ 同上

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ

依テ決ス可否同數ナルキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシム

第四十四條 府知事縣令ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ付辨明ヲ爲

サシムルヲ得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ改撰ス但期限ニ至リ再撰

スルヲ得十五年二月第十號布

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事縣令之ヲ撰任ス十五年二

月第十號

改正 第四十八條 常置委員ハ三十拾圓以上八十拾圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣

會ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

府縣會議定事件ノ細目 明治十四年二月

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ

付スルヲ得ヘシ

此旨布告候事

令達

○府縣會規則第七條ニ依リ建議スル場合ニ於テ開會中其建議書攜帶上京相成ラス
明治十五年二月太 府 縣(沖繩縣ヲ除ク)

府縣會規則第七條ニ依リ内務卿ニ建議スル場合ニ於テ開會中議員自ラ其建議書ヲ攜帶上京等ノ儀ハ不相成候條此旨相達候事

但其旨府縣會ヘ達シ置クヘシ

○府縣會規則第五章追加ニ付心得方
明治十三年十二月内 府 縣

本年第四十九號ヲ以テ府縣會規則追加公布相成候ニ付左ノ條件爲心得相達候事

一 常置委員ハ來十四年通常會開會前ニ於テ選任スヘシ
同乙第五十三號ヲ以テ第一項ヲ取消シ本項以下二項ヲ加フ

一 十三年度中常置委員ノ月手當及往復旅費ハ委員ヲ撰擧セシムル臨時會ニ於テ議定セシムヘシ

一 郡區經濟ヲ異ニスル府縣ニ在テハ定員内ニ於テ其郡區選出ノ人員ヲ定ムルヲ得

一 常置委員補欠ノ爲メ相當ノ豫備員ヲ撰ヒ置クモ妨ケナシ

一 第四十一條ニ依リ議長ハ府知事縣令之ヲ勤ムト雖モ本務ノ都合ニ依リ書記官之レカ代理ヲ爲スヲ得

一 第四十六條ノ通委員ノ任期ハ二年タルヘシト雖モ若シ議員ノ任期ヲ終ヘタルモノハ其本分ノ任期ト共ニ委員ノ任期ヲ終リタルモノトス

○府縣會規則中處分方心得
明治十一年十一月内 府 縣

務省乙第七十一號

府 縣

本年第十八號布告中左ノ條々處分方心得ノ爲メ相達候事

第十一條議長副議長云々其議長ヲ撰擧スル會議ハ議員ノ申合ヲ以テ假議長ヲ撰ムヘシ

第十一條第十二條議長議員ノ旅費及書記ノ俸給旅費ハ直チニ會議ニ議定セシムヘシ

但縣廳ヨリ其額ヲ假定シ議會ニ付スルモ妨ナシ

第十三條第十四條議員及撰擧人タルヘキ者ノ年齢ハ撰擧會期月マテヲ通算スヘシ

第十七條但書投票ハ代人云々ト有レトモ町村戸長ハ代人トナス可カラス

○府縣會議員任期心得
明治十三年三月内 府 縣

明治十一年第十八號公布第二十一條議員ノ任期四年トハ通常會ヲ四度勤ムル儀ト可相心得此旨布達候事

但第一回二年期モ本文ニ準シ二度トス

○府縣會議員就職交替手續定方
明治十四年七月内 府 縣

府縣會規則第二十一條ニ據リ議員改撰ノ上其就職交替ノ手續ハ豫メ府縣會ニ於テ議定セシメ府知事縣令認可ノ上施行可致此旨布達候事

但常置委員ノ儀モ本文同様可取計事

○法制局裁定事務手續
明治十四年十月太 官省院使府縣

今般參事院ヲ被置候ニ付本年二月第六號達審理局ヲ被廢事務手續左ノ通被定候條此旨相達候事

但本文ノ儀ハ府縣會ニ達シ置クヘシ

令達

三三

第一條 本年第四號布告府縣會規則第九條追加ニ依リ府知事縣令及府縣會ヨリ裁定ヲ請フノ具狀書ハ府知事縣令ニ於テ之ヲ取纏メ法制局長官ニ當テ差出スヘシ 第十八年十二月
參院議長ヲ法制局長官ト改ム 第七十八號達

第二條 裁定ヲ要スル事件具狀書ヲ以テ悉サ、ルコトアルキハ府知事縣令若クハ其代理人及府縣會總代自ラ法制局ニ出頭シテ之ヲ辨明シ又ハ法制局ヨリ之ヲ召喚シテ尋問スルアルヘシ 同上達ヲ以テ參事
院ヲ法制局ト改ム
但府縣會總代ハ其議員タルモノニ限ル

第三條 裁定書ハ其議決ノ理由ヲ詳記シ審理委員連署シテ之ヲ發附スヘシ
●府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト
聯合集會往復通信ヲ禁ス 明治十五年十二月
第七號布告

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルコトヲ許サス
其集會スル者何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事縣令ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直ニ解散ヲ命スヘシ
前項ノ場合ニ於テ解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス

●地方稅規則 明治十三年四月
第十六號布告
第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス
一 地租三分一以內 (十三年十一月第四)
十八號布告改正

一 營業稅并雜種稅

一 戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之レヲ定ム (十五年一月第)
二號布告改正

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ (全上)

- 一 警察費 (全上)
- 一 警察廳舍建築修繕費 (全上)
- 一 土木費 (全上)
- 一 區町村土木補助費 (十五年一月第)
二號布告追加)
- 一 府縣會議諸費
- 一 衛生及病院費
- 一 教育費 (十五年一月第)
二號布告改正)
- 一 區町村教育補助費 (全上追加)
- 一 郡區廳舍建築修繕費
- 一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
- 一 教育費
- 一 浦役場及難破船諸費
- 一 諸達書及揭示諸費 (十五年一月第)
二號布告改正)
- 一 勸業費

令達

一 戶長以下給料旅費 (十七年五月第十) (十五年一
 一 地方稅取扱費 (府縣廳ニ屬スル爲換方給料爲換手數料現金遞送等ノ費用) (月第二號
 改正) (十五年一
 一 府縣廳舎建築修繕費 (全上追加)
 一 府縣監獄費 (全上)
 一 府縣監獄建築修繕費 (全上)
 以上費目互ニ流用スル事ヲ許サス
 一 豫備費 (豫算外ニ生シタル事件ノ費途及豫算ノ臨時不足ニ充ツルモノ) (十五年十二
 號布告) (十五年十二
 改正) (月第六十九
 右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿
 ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ (十五年一月第
 二號布告追加)
 各町村限及區限ノ入費ハ其區内町村内人民ノ協議ニ任セ地方稅ヲ以テ支辨スルノ限リ
 ニアラス
 第四條 其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ
 以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並ニ地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會
 ノ議決ヲ取リ其年二月ヲ以テ内務卿及大藏卿ニ報告スベシ
 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度
 ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取リ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ其年

期間之ヲ施行スルコトヲ得 (十五年十二月第六)

第五條 非常ノ費用ハ (豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用豫備費ヲ以テ給足セサル
 モノヲ云フ) 別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取リ内務卿及大藏卿ニ報告
 スヘシ (十四年二月第
 五號布告改正)
 前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルハ
 公府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取リ其補充費ヲ徵收スルコトヲ得 (十五年十二月第六)
 第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ (十九號布告追加)
 第七條 府知事縣令ハ一週年度間ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會ノ初メ
 ニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ (十四年二月第
 八號布告改正)
 第八條 削除 (十四年二月第五號
 第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ
 其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之レヲ分別スルコトヲ得
 第十條 廢止

● 課稅ニ關スル處分ニ就キ不服出訴方 (明治十五年五月
 第二十二號布告)

課稅ニ關スル處分ニ就キ不服アリテ出訴セントスル者ハ先ツ其旨ヲ申立課額ヲ上納シ領
 收證書ヲ添ヘ其翌日ヨリ六十日內ニ訴出ツヘシ
 但納稅期限前ニ訴出テ訴訟中ト雖モ其期限ニ至レハ課額ヲ上納スヘシ

● 地方稅ニ關スル寄附金穀物件及雜收入議定方 (明治廿年十一月
 勅令第五十六號)

令達

第一條 地方税ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ府縣會ノ議決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充ツヘシ

第二條 地方税ノ雜收入ハ他ノ收入豫算ト同シク府縣會ノ議定ニ付スヘシ

第三條 本令ハ明治二十一年度ヨリ施行ス

○地方税ニ係ル雜收入及寄附金ノ支出議案精算報告書式掲載方
明治二十年十一月内務省令第

一 地方税ノ支辨ニ係ル道路ノ並木枯損木拂代金ハ明治二十一年度ヨリ該年度地方税土木費雜入ニ組入レ並木植續費ハ該土木費ヨリ支出スヘシ

一 地方税ヲ以テ支辨ス可キ事業ニ關スル寄附金ノ支出豫算議案及精算報告書式ハ明治二十一年度ヨリ警察費國庫下渡金ノ例ニ準シ寄附者指定ノ費目ニ於テ地方税ト寄附金ト内譯ヲ爲ス可シ

一 物件ノ寄附又ハ年賦寄附等ニシテ通常豫算ニ編入シ難キモノハ便宜別議案ヲ以テ議定ニ附スルコトヲ得

一 明治十五年^{十二月}内務大藏兩省乙第七十二號達地方税收入豫算議案並ニ精算報告書式中戸數割ノ次合計以下明治二十一年度ヨリ左之通改正ス
(書式零之)

○官用ノ船舶車馬ヘ地方税ヲ賦課スルヲ得ス
明治十五年十月内務大藏兩省乙第七十五號 府縣(函館沖繩札幌根室ノ四縣ヲ除ク)

官用ノ船舶車馬ヘ明治十六年度以後地方税ヲ賦課スルヲ得サル儀ト可心得此旨相達候事
 但從前ノ達指令之ニ矛盾スルモノハ廢止ス

○府縣警察費ニ對シ國庫ヨリ下渡金ノ割合
明治十四年二月十六號布告
 府縣警察費ニ對シ國庫ヨリ下渡金ノ割合來ル十四年度ヨリ左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 東京府ハ警察費總高ノ十分ノ六トス

第二條 京都府大坂第并各縣^{沖繩縣}ハ地方税支出高ノ十分ノ三トス

第三條 前二ヶ條割合ノ外警察官吏^{巡査ヲ除ク}並ニ之ニ準ヘキ備内外國人ノ諸給與暨視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

○國庫下渡金割合方
明治十四年四月太政官第二十八號 府縣(東京府沖繩)ハ達
 本年二月第十六號布告第二條地方税支出高十分ノ三トアルハ警察費總高ノ内第三條ノ費用ヲ除キ餘ル金員ノ三分ノ三ト心得ヘシ此旨相達候事

○警察署分署建築修繕費國庫下渡金地方税連帶支辨方
明治十三年四月太政官第二十九號(使)府縣(東京府)ハ達

官舎建築修繕費等官費ト相定候旨明治十年^{一月}第十六號ヲ以テ相達置候處警察署分署建築修繕費ハ本年七月以後國庫下渡金ト地方税ト連帶支辨スヘキ儀ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

○警察上賞與等巡查以下ハ給與ノ分國庫下渡金ト地方税ト

令達

連帶支辨方 明治十三年五月內務省乙第二十二號

府縣(東京府沖繩縣ヲ除ク)へ達

警察上賞與吊祭扶助療治料等交附方ニ付明治八年十月當省乙第三百三十四號達ノ趣有之候處十三年度ヨリ別途不相渡候條巡查以下へ給與スヘキ分ハ警察費ニ屬スル國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨可致尤右賞與等伺届ノ節一般人民ト區別候儀ハ從前ノ通可心得此旨相達候事

但一般人民へ給與候分ハ容赦第五十號公達ノ費途ヨリ支出スヘシ

○警察官吏並ニ之ニ準スル備内外人諸給與支給方 明治十四年三月太政官

本年二月第十六號布告第三條警察官吏並之ニ準スヘキ備内外人ノ諸給與ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ストアルハ是迄全ク國庫ノ支辨ニ係リシ費項ヲ指シタルモノニシテ地方稅ト連帶支辨ニ關係ナキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○巡查並警察諸備等懲罰金巡查還納被服類及警察署不用品賣却代金

地方稅費へ仕拂方 明治十四年四月內務省乙第十

巡查並警察諸備等懲罰金巡查還納被服類及警察本分署不用品賣却代處分之儀ニ付明治九年當省乙第二十一號同年乙第九十五號同年乙第八號本年乙第一號ヲ以テ相達候處右ハ相廢シ候條以來該金ハ地方稅一般ノ費途ニ可仕拂此旨相達候事

但十三年當省乙第四十六號達中賣淫罰金ヲ項ヲ除クノ外ハ總テ廢止ト心得ヘシ

○警察費國庫下渡金ノ殘餘翌年度へ差繼方 明治十五年四月內務省乙第二十

四縣(東京府、神戶府、大阪府、京都府)へ達

明治十四年七月第六十三號公達中警察費國庫下渡金ノ殘餘ハ翌年度ノ下渡金へ差繼ク可キ筈ニ候條爲心得此旨相達候事

○警察廳舍建築修繕費國庫金算出方 明治十五年一月內務省乙第八號

府縣(沖繩縣ヲ除ク)へ達

本年第二號布告第三條第二項警察廳舍建築修繕費ハ警察費ヨリ分裂セシ科目ニ付客年第十六號布告ニ依リ國庫下渡金ヲ算出スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○堤塘使用料並木敷賃渡料使用方 明治十四年七月內務

堤塘使用料及並木敷賃渡料ノ義ハ從來雜收入トシテ大藏省へ上納致來候處十四年度以後ハ地方稅ニ合セ土木費ニ使用スヘシ此旨相達候事

○堤塘使用料下渡方 明治十四年九月內務省乙第四十六

號 府縣(沖繩縣ヲ除ク)へ達

堤塘使用料ノ義ニ就テハ明治十一年九月乙第五十八號及本年七月乙第三十五號ヲ以テ相達候次第モ有之候處十四年度以降地盤ノ官民有ニ拘ラス使用地ノ修繕地方稅負擔ニ係ル者ハ本年乙第三十五號達ノ通相心得協議費負擔ニ係ル者ハ協議費支出ノ町村へ下渡堤塘修繕費ニ充シムヘシ尤連帶支辨ニ係ル者ハ其主擔ノ方へ可屬此旨相達候事

○並木及堤防道路用惡水路土居敷等ニ生スル竹木枯倒障害等ニヨリ拂下

代金使用方 明治十六年四月內務省乙第十九號

府縣(函館、札幌、根室、釧路、青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、徳島、香川、高松、愛媛、高知、福岡、佐賀、長門、熊本、鹿兒島、那覇)へ達

並木及堤防道路又ハ用惡水路土居敷等ニ生スル竹木枯倒障害等ニヨリ拂下ナル代金ハ本年度以降明治十四年內務省乙第四十六號達ノ區分ニヨリ並木拂代金ハ並木植繼費ニ其他ノ竹木拂代金ハ土木費ニ充テシムヘシ此旨相達候事

令達

但本文ニ抵觸セシ達ハ總テ廢止之儀ト可心得事

○傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキ地方稅衛生費ヨリ

支辨方 明治十六年二月太政官第八號 警視廳 府縣

明治十四年 四月 第三十號達左ノ通改正候條此旨相達候事

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキハ本籍寄留旅行ヲ問ハス其費用ハ總テ發

病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支辨スヘシ

但流行ノ勢盛ナルトキハ時宜ニ依リ官費支給スルコトアルヘシ

○集治監ニ入ルヘキ囚徒費用區分方 明治十四年三月

集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用ノ區分當分ノ内左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條此

旨布告候事

第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯刑期五年以上ノ者トス其費用

府縣獄ニ拘留中ノ費用并ニ 國庫ヨリ支給スヘシ

第二條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ地

方稅ヲ以テ支辨スヘシ

○已決囚ニ係ル經費區分實地取計方 明治十四年七月二十一日內務大藏兩省

チ除ク)集治監ヘ達 乙第三十四號、警視廳 府縣(沖繩縣

本年第十七號公布ヲ以テ已決囚ニ係ル經費區分等被定候ニ付テハ實地取計方左ノ通り可

心得此旨相達候事

一 豫算ヲ以テ受入レタル監獄費中國庫金ト地方稅トハ混一シテ諸費(懲役人ノ諸費)ヲ

仕賄置每一ヶ月ニ囚員ノ延數ニ照シ平均ヲ以テ一囚若干ノ費金タルヲ算出シ而シテ刑

期終身ノ者ト國事犯五年以上ノ者ノ延人員ニ乘シタル金額ヲ以テ國庫費ノ支出ニ可取

計事

但臨時加給療養費埋葬費寫真費移轉費ノ如キ惣囚ニ關ラサル費項ハ其囚員限リノ平

均ヲ以テ算出スヘシ

一 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ルモノハ經費モ前項ノ例ニ依リ地方稅支出

方可取計事

○在府縣獄囚徒費取扱方 明治十七年六月十二日內務省乙第二十九號

在府縣獄囚徒費取扱方左ノ通改定候條十七年度ヨリ施行スヘシ此旨相達候事

但十四年七月內務大藏兩省乙第三十四號同年九月乙第四十二號十五年十月乙第五十三

號ノ達ハ十六年度限リ廢止ス

一 集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者檢束衣食一切 從前ノ獄者費已ノ費用ト

シテ一囚一日ニ付金貳拾錢ヲ交付スヘシ 決囚諸費營繕費

但朝夕出入アルモ各一日ヲ以テ計算スヘシ

一 十四年十月乙第五十三號達ノ内現員表ハ差出ニ不及前々年度中宣告濟人員ニヨリ左

ノ科目表ニ照準豫算帳調整定期ノ通差出スヘシ

但十七年度分ハ差出ニ及ハス

令達

○輕罪控訴被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費支辨方 明治十八年四月内務省甲第
 十三號 警視廳 府縣へ達
 輕罪ニ係ル控訴之儀ニ付本年第二號ヲ以テ公布相成候付テハ控訴裁判所管轄區域内各地
 方ヨリ控訴ヲ爲シタル被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費ハ總テ最前裁判言渡アリタル地方ノ地
 方稅ヲ以テ支辨シ其費用交付方等ハ客年當省乙第二十九號達ニ準據シ可取計此旨相達候
 事
 但シ控訴裁決後已決囚ニ屬スル諸費モ本文同様可心得事

●營業稅雜種稅規則 明治十三年四月
 第十七號布告

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ但國稅アルモノハ課稅ノ限リニアラス
 商業(十五年一月第
 三號布告改正)
 工業(全上)

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ(全上)

- 料理屋 待合茶屋 遊船宿 芝居茶屋 飲食店ノ類
- 湯屋
- 理髮人
- 傭人受宿
- 遊藝師匠 遊藝稼人 相撲 俳優 幫間 藝妓ノ類
- 市場
- 演劇其他興行遊覽所

遊技場 玉突 大弓揚弓
 射的 吹矢ノ類

人寄席

船 解漁船川船及五
 十石未満海船

馬車 人力車 荷積馬車 荷積大七

大八車 荷積中小車 荷積牛車ノ類

但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス

水車

乘馬

屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新
 稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀
 シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 削除(十五年一月第
 三號布告刪除)

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スルモノヲ取
 捨スルヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各個ノ稅額
 ヲ査定スヘシ(十五年一月第
 三號布告改正)

第六條 削除(全上)

令達

第七條 削除(全上)

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ヘ報告スヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ(十五年一月第一號布告改正)

○營業鑑札下附及鑑札費支辨方明治十二年四月内務大藏兩省乙第十七號府縣
客年第三十九號公布中各營業ノ者ヘ鑑札下附候儀ハ不苦ト雖モ鑑札手数料等ハ收入不致儀ト可相心得此旨相達候事

但鑑札下附之費用ハ警察上ヨリ下附スルモノハ警察費ヨリ支辨シ收稅上ヨリ下附スルモノハ地方稅廳中費ヨリ支辨可致儀ト可相心得事

●備荒儲蓄法 第三十一號布告

第一條 備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛料農具料種穀料ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租(國稅ノ部分ニ限ル)ヲ納ムル能ハサル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス

第二條 各府縣ハ土地チ有スル人民ヨリ地租ノ幾分ニ當ル金額ヲ公儲セシメ以テ儲蓄金ヲ設ク可シ各人ヨリ公儲スルノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ其總額ハ政府ヨリ配付スル金額ヨリ少カラサルヲ要ス

但市街ハ府縣會ノ議決ヲ以テ政府ノ許可ヲ得郡村ト其徵收法ヲ異ニスルヲ得

第三條 政府ハ每歲百貳拾萬圓ヲ支出シテ儲蓄金ヲ補助スヘシ

第四條 政府ヨリ補助スル金額ノ内三拾萬圓ハ中央儲蓄金トシテ大藏卿之ヲ管掌シ九拾萬圓ハ各府縣ノ地租額ニ應シテ之ヲ配布スヘシ

第五條 府縣儲蓄金ヲ徵收シ管守シ支給シ及ヒ之ヲ一處ニ集儲シ數所ニ分儲シ或ハ米穀ヲ購入スルノ方法ハ府知事縣令ヨリ之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取リ内務大藏兩卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ但米穀ヲ儲積スルハ儲蓄金ノ半額ヲ越ユヘカラス他ノ半額ハ公債證書ニ交換シ置クモノトス

第六條 府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス

第一 食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限ル其日數ハ三十日以内トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戶拾圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戶貳拾圓以内トス

第二 地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハサル者ニ限ル

第七條 各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金三分二以上ヲ供用支出スルトキハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ

第八條 従前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル所ノ備荒儲蓄金ニ補充スルコトヲ得

令達

第九條 各府縣內儲蓄金ノ出納ハ大藏卿歲次或ハ臨時ニ之ヲ檢査スヘシ

第十條 府知事縣令ハ毎年七月申ニ其府縣儲蓄金ノ出納ヲ內務大藏兩卿ニ報告シ兩卿ハ

每年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納ヲ全國ニ公布スヘシ
第十一條 此方法ハ二十ヶ年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄

金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ
明治十三年十一月

●備荒儲蓄金急納處分及免除方 第五十號布告
本年六月第三十一號布告ヲ以テ定メタル備荒儲蓄金ヲ急納スル者ハ十年十一月 第七十九號布

告ニ據リ處分スヘシ但該儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ルモノハ免除スヘシ此旨布

告候事
●備荒儲蓄金及土木費ニ關シ不服出訴方 明治十五年十二月 第七十四號布告
備荒儲蓄金及區町村會若クハ水利土功ノ集會ニ於テ評決シタル土木費ニ關シ不服アリテ

出訴セントスルモノハ都テ明治十五年(五月)第二十二號布告ニ依ルヘシ

○備荒儲蓄金取扱順序 明治二十年十二月 大藏省令第十五號
明治十三年十一月內務大藏乙第三十八號達備荒儲蓄金取扱順序左ノ通改正ス

但報告書式ハ別ニ頒ツ
第一條 備荒儲蓄金ハ毎年政府ヨリ配付スルモノヲ配付金ト稱シ人民ヨリ徵收スルモノ

ヲ公儲金ト稱ス而シテ右配付金及公儲金ヲ合セテ府縣儲蓄金ト稱スヘシ
第二條 配付金ハ前年度ノ地租豫算高ニ據リ其額ヲ定メ以テ毎年十一月以前ニ達スヘシ

第三條 府縣ニ於テハ配付金高ヲ以テ最下額トシ公儲金徵收ノ割合ヲ定メ而シテ其徵收

期限ハ支出上差支ナキ爲メ適宜前收ノ方法ヲ設ケ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

第四條 公儲金ヲ免除スルハ罹災ノ年限ニ限ルモノトス其免除及不納處分等ヨリ生スル

缺額ハ總テ翌々年度ニ於テ一般ニ賦課シテ補充スヘシ最其總額配付金高ヨリ不足セサ

ル場合ニ在リテハ之ヲ補充セサルモ妨ナシ
但前年度内ニ公儲金ノ全額ヲ前收スルモノニ限リ本年度罹災者ハ翌年度ノ公儲金ヲ

免除スルコトヲ得

第五條 地租ノ貸與金事故ナクシテ返納ヲ怠ルモノハ裁判ニ付スヘシト雖モ不慮ノ災害

ニ遭遇シ返納シ能ハサルモノハ之ヲ猶豫シ又ハ免除スルノ方法ヲ設ケ府縣會ニ於テ議

定セシムヘシ

第六條 備荒儲蓄法第五條ニ因リ內務大藏兩大臣ヘ具申スルトキ儲蓄金收支豫算書ヲ添

ヘ差出スヘシ大藏大臣ハ配付金ヲ兩度(四月)ニ交付スヘシ

第七條 府縣儲蓄金ノ內災害其他相當ノ支出ニ充ツル爲メ現金ヲ備置キ引出方ニ差支ナ

キニ於テハ之ヲ銀行等ヘ預ケ金ト爲スモ妨ナシ
第八條 米穀ヲ貯積スル爲メ倉庫ヲ建築シ及借庫料番人給等ニ係ル諸費用(官吏郡區吏旅

限ニア)並ニ米穀公債證書ノ買買等ニ關スル諸雜費及損失ハ府縣儲蓄金ノ内ヨリ支辨ス

ルノ方法ヲ設ケ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ
但倉庫ヲ建築スルハ給貸等ニ支障ナキ計リ府縣儲蓄金ノ餘裕アルヲ待テ之ニ着手

令達

第九條 府縣儲蓄金ノ三分ノ二前年度ヨリノ越高及其年收入スヘキ儲蓄金ヲ合セタル總額ニ對シ計算スヘシ以上ヲ供用支出セ
 ノ補助ヲ請求スヘシ此場合ニ於テハ時トシテ内務大藏兩省ノ官吏ヲ派遣シ實際ヲ查閱
 スルコトアルヘシ

第十條 中央儲蓄金ヨリ補助ヲ要シタルトキハ府縣知事ハ其願末ヲ管下ヘ告示スヘシ

第十一條 凡府縣儲蓄金ノ出納ハ每半期報告書ヲ作リ上半期ハ十月中下半年ハ翌年四月
 中其地ヲ發シ大藏大臣ヘ差出スヘシ收支科目ハ第一號ニ據リ報
 告書式ハ第二號ニ據ルヘシ

第十二條 府縣儲蓄金ノ出納ハ便宜ニ從ヒ出納簿 現金米穀公債證書等ノ受
 米穀公債證書ノ所在ヲ分チ或ハ收支ノ科目ヲ製シ置キ常ニ其會計ヲシテ明瞭ナラシム
 ニ據リ出納ノ内譯ヲ明カニスル帳簿ヲ云フ

第十三條 府縣儲蓄金ノ精算報告ハ備荒儲蓄法第十條ニ因リ毎年七月中ニ内務大藏兩
 大臣ニ差出シ且其年通常府縣會ニ報告スヘシ書式ハ第三號
 ニ據ルヘシ

第十四條 大藏大臣ハ官吏ヲ派遣シ每歲又ハ臨時ニ府縣儲蓄金或ハ貯積米ヲ檢查セシム
 ヘキニ因リ府縣知事ハ集積及分儲ノ所在並ニ米穀貯積ノ場所等ヲ三月毎ニ大藏大臣
 ニ報告スヘシ報告書式ハ第四
 號ニ據ルヘシ

第十五條 府縣儲蓄金或ハ貯積米ノ檢查ハ大藏省派出官吏ノ便宜ニ因リ府縣知事ヘ通牒
 セス直ニ其所在ニ就キ檢査スルコトアルヘシ尤此場合ニ於テハ派出官吏ハ大藏大臣ノ命

令書ヲ携帶スルモノトス

區町村會法 明治十七年五月 第十四號布告

明治十三年四月第十八號布告區町村會法左ノ通改正ス

區町村會法

第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス

第二條 區町村會ノ會期、議員ノ員數、任期、改撰及其他ノ規則ハ府知事縣令之ヲ定ム

第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戶長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス

第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適
 當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第五條 區長ニ於テ區會、郡區長戶長ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害ス
 ルコトアリト認ムルトキハ其會議ヲ中止シ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第六條 府知事縣令ニ於テ區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認
 ムルトキハ何時タリトモ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改撰セシムルコトヲ得

第七條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改撰スル
 迄ノ間區長戶長ハ經費ノ支出徵收方法ヲ定メ府知事縣令ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ
 得

第八條 區町村ニ於テ議員ヲ撰舉セス又ハ議員招集ニ應セスシテ會議ヲ開クヲ得ス及議
 定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依

令達

第九條 議員ヲ撰擧スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル者及陸海軍々人現役ノ者ハ撰擧人タルヲ得ス

第十條 議員タルヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル者ハ議員タルヲ得ス

第十一條 區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戶長ヲ以テ之ニ充ツ區長戶長若シ事故アルトキハ區長戶長ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指定スルヲ得

第十二條 府知事縣令其管轄内ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカラサル狀況アルヲ認ムルトキハ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十三條 府知事縣令ハ數區町村ニ關涉スル事件アルトキ其區域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルヲ得

第十四條 府知事縣令ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村會若クハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルヲ得

第十五條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長戶長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但戶長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

區町村費及土木費怠納處分方 明治十七年五月十五日號布告

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ怠納者ハ總テ明治十年(十一月)第七十九號布告ニ據リ處分ス可シ若シ財産公賣ノ際買受望人ナキハハ官沒ノ手續ヲ爲サス郡區長又ハ戶長ニ於テ之ヲ管掌シ會議ノ評決ヲ取り府知事縣令ノ認可ヲ得テ處分スヘシ

但明治十四年(四月)第二十四號布告ハ廢止ス

區町村費ニ關シ不服出訴方 明治十七年七月二十三號布告

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年五月二十二號布告ニ依ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

土地ニ賦課スル區町村費ノ制限 明治十八年八月二十五號布告

土地ニ賦課スル區町村費ハ明治十九年度ヨリ地租七分ノ一ヲ超過スルヲ得ス但非常ノ費用ハ預知スヘカテサルト天別ニ賦課スルヲ得此場合ニ於テハ區町村會若クハ水利土功會ノ評決ヲ取り府知事縣令ノ指揮ヲ請フヘシ

右奉 勅旨布告候事

區町村費支辨ノ事業ニ對シ寄附金穀物件使用方 明治二十年十二月内務省訓令第五十一號

令達

府 縣 (沖繩縣ヲ除ク)

區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ區町村會ノ評決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充テシムヘシ

但町村費ノ雜收入ハ他收入ト同シク區町村會ノ評決ニ付セシムヘシ

○區町村公共ノ經濟ニ屬スヘキ共有物處分方 明治二十年十一月內務省訓令第四十七號

府 縣 (沖繩縣ヲ除ク)

區町村公共ノ經濟ニ屬スヘキ共有物ニ關スル事件ハ渾テ區町村會ニ於テ評決セシムヘシ但本文ニ抵觸スル從前ノ指令訓令ハ取消ス

○戶長役場諸費支辨方 明治十七年五月內務省乙第二十四號達

本年第十三號布告ヲ以テ地方稅規則第三條第十五項改正相成候ニ付テハ戶長役場諸費ハ總テ區町村費ヲ以テ支辨スヘシ

○官有地第二種官用地ハ人民ニ使用ヲ許シタルモノヲ除クノ外其區町村協議費ノ賦課ニ應セス 明治十六年八月太 官省院廳 府 縣

官有地第二種官用地ハ人民ニ使用ヲ許シタルモノヲ除クノ外其所在區町村協議費ノ賦課ニ應セサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但道路疏水等ノ爲メ該區町村へ手當金ヲ給與スルハ各廳ノ適宜タルヘシ

○官有地人民ニ使用ヲ許シタルモノ、外區町村費ノ賦課ニ應セス

明治十七年十一月太 官省院廳 府 縣 政官第九十四號達

凡ソ官有地ハ人民ニ使用ヲ許シタルモノヲ除クノ外其所在區町村費ノ賦課ニ應セサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但道路疏水等ノ爲メ該區町村へ手當金ヲ給與スルハ各々適宜タルヘシ

●市制町村制 明治二十一年四月法律第一號

除地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶臣民ノ幸福ヲ増進スルコトヲ欲シ隣保團結ノ舊慣ヲ存重シテ益之ヲ擴張シ更ニ法律ヲ以テ都市及町村ノ權義ヲ保護スルノ必要ヲ認メ茲ニ市制及町村制ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

法律第一號

市制

第一章 總 則

第一款 市及其區域

第二款 市住民及其權利義務

第三款 市條例

第二章 市 會

第一款 組織及選舉

第二款 職務限權及處務規程

第三章 市行政

第一款 市參事會及市吏員ノ組織選任

令達

第二款 市參事會及市吏員ノ職務權限及處務規程

第三款 給料及給與

第四章 市有財產ノ管理

第一款 市有財產及市稅

第二款 市ノ歲入出豫算及決算

第五章 特別ノ財產ヲ有スル市區ノ行政

第六章 市行政ノ監督

第七章 附則

市制

第一章 總則

第一款 市及其區域

第一條 此法律ハ市街地ニシテ郡ノ區域ニ屬セス別ニ市ト爲スノ地ニ施行スルモノトス

第二條 市ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡市ノ公共事務ハ官ノ監督ヲ

受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第三條 凡市ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ

此法律ニ準據ス可シ

第四條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ市ニ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ

町村制第四條ヲ適用ス

第五條 市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁決ス其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二款 市住民及其權利義務

第六條 凡市内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其市住民トス

凡市住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公共ノ營造物並市有財產ヲ共用スルノ權利ヲ有シ及市

ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アル

トキハ此限ニ在ラズ

第七條 凡帝國國民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)市ノ住民トナリ(二)其

市ノ負擔ヲ分任シ及(三)其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ム

ル者ハ其市公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラズ但

場合ニ據リ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムルニケ年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサル

者ヲ云フ

第八條 凡市公民ハ市ノ選舉ニ參與シ市ノ名譽職ニ選舉セラレノ權利アリ又其名譽職

ヲ擔任スルハ市公民ノ義務ナリトス

左ノ理由有ルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 營業ノ爲メニ常ニ其市内ニ居ルコトヲ得サル者

令達

三 年齡滿六十歲以上ノ者
 四 官職ノ爲メニ市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
 五 四年間無給ニシテ市吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間市會議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者
 六 其他市會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者
 前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ市會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其市公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔スヘキ市費ノ八分一乃至四分一ヲ増課スルコトヲ得
 前項市會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第九條 市公民タル者第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ失フモノトス
 市公民タル者身代限處分中又ハ公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ裁判上ノ訊問若クハ勾留中又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス
 陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與セサルモノトス
 市公民タル者ヲ限リテ任スヘキ職務ニ在ル者本條ノ場合ニ當ルトキハ其職務ヲ解ク可キモノトス

第三款 市條例

第十條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ各市ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得
 市ニ於テハ其市ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得
 市條例及規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルトキハ地方慣行ノ公告式ニ依ル可シ

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第十一條 市會議員ハ其市ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員ハ人口五萬未滿ノ市ニ於テハ三十人トシ人口五萬以上ノ市ニ於テハ三十六人トス
 人口十萬以上ノ市ニ於テハ人口五萬ヲ加フル毎ニ人口二十萬以上ノ市ニ於テハ人口十萬ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ増シ六十人ヲ定限トス議員ノ定員ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得但定限ヲ超ユルコトヲ得ス
 第十二條 市公民(第七條)ハ總テ選舉權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラル、者(第八條第三項第九條第二項)及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラズ
 凡內國人ニシテ公權ヲ有シ直接市稅ヲ納ムル者其額市公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一入ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選舉權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラル、者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラズ

令達